松浦市文化財調査報告書 第13集

松浦市内遺跡確認調査(2)

土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告

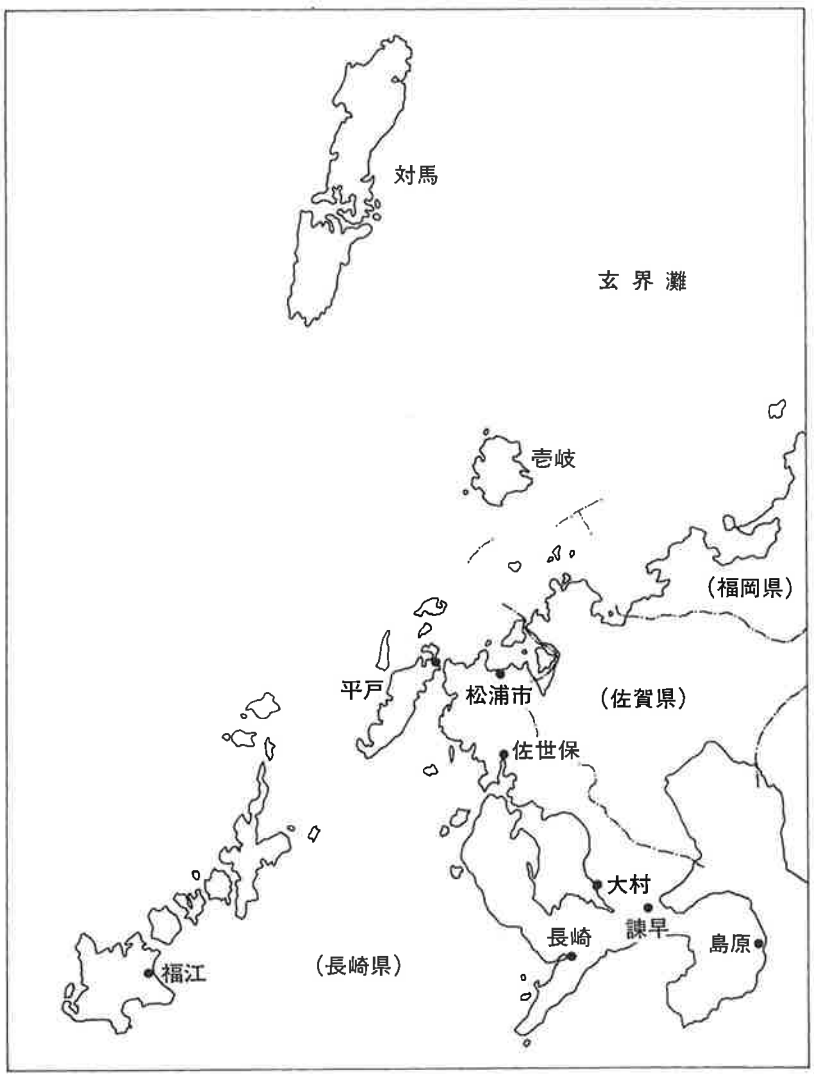
1998

長崎県松浦市教育委員会

松浦市文化財調査報告書 第13集

松浦市内遺跡確認調査(2)

土地開発に伴う市内遺跡確認調査報告



1998

長崎県松浦市教育委員会

発刊にあたって

松浦市は、長崎県北部に位置しており、中国大陸・朝鮮半島に近いという地理的条件を有しているため古くからこれらの国との交流をうかがわせる遺跡や遺物が数多く知られています。なかでも中国後漢時代の鏡が出土した栢ノ木遺跡や中国・朝鮮半島産の陶磁器を多数出土した楼楷田遺跡などはその代表的なものです。

文化財行政の当面する重要な課題の一つに埋蔵文化財の保護対策があります。近年、松浦市においても各地で各種の開発事業が相次いで行われており、とどまるところを知らないのが現状であります。本市ではこれらの開発と文化財保護との調整を図るため、事前に埋蔵文化財の確認調査を実施しています。その調査件数も開発事業の増加に伴い年々増加しており、その中では本調査に移行するものや、新たな遺跡の発見もありました。本書は、平成７年度から９年度に国庫補助・県費補助を受けて実施した市内の遺跡確認調査の報告書であります。

開発に伴う市内遺跡確認調査は、地道な作業ではありますが、こうした作業が地域文化の向上に必ず役立つと信じ、今後より一層努力していきたいと存じます。

最後になりましたが、関係者の方々のご理解とご協力により円滑に調査を進めることができましたことを心から感謝申し上げ、本書が文化財に対する認識の広まりと文化財保護に役立つことを祈念いたしまして発刊のご挨拶といたします。

平成10年３月31日

長崎県松浦市教育委員会

教育長　黒　川　壽　信

例　　言

1．本書は、平成７年度から平成９年度にかけて実施した松浦市内の遺跡確認調査報告書である。
2．調査は、国庫補助及び県費補助を受けて松浦市教育委員会社会教育課が主体となって実施した。
3．調査にあたっては、長崎県教育委員会文化課・九州農政局北松農地整備事業所をはじめ多くの方々にご指導・ご協力を賜った。
4．本書の執筆・編集は社会教育課社会教育主事中田敦之があたり、高原愛（文化財調査員）の協力があった。
5．遺物の実測は、高原・明石拡子（文化財調査員）の協力を得た。
6．調査・整理・記録及び出土遺物は、松浦市教育委員会がその保管の任にあたり、松浦市民会館（松浦市志佐町浦免1483）にて一括保管している。
7．写真図版の縮尺は、不統一である。
8．本書は、松浦市文化財調査報告書第13集にあたる。

本　文　目　次

Ⅰ　は　じ　め　に……1
　1．調査に至る経過……1
　2．調査の組織……5
Ⅱ　地理的・歴史的環境……6
　1．地理的環境……6
　2．歴史的環境……6
Ⅲ　平成７年度の確認調査の概要……9
　1．中ノ瀬遺跡……9
　2．久保園遺跡……11
　3．今福遺跡……12
Ⅳ　平成８年度の確認調査の概要……14
　1．姫神社遺跡……14
　2．小船遺跡……15
　3．田ロ高野（タロコウヤ）遺跡……16
　4．蕨川（ワラビカワ）遺跡……17
　5．水尻Ｂ遺跡……18
　6．松園遺跡……19
　7．下谷（シタダニ）遺跡……20
Ⅴ　平成９年度の確認調査の概要……22
　1．栢ノ木遺跡……22
　2．牟田Ａ遺跡……24
　3．牟田Ｂ遺跡……25
　4．青島遺跡……26
　5．段ノ上遺跡……27
　6．津崎遺跡……28
Ⅵ　出土遺物の概要……29
Ⅶ　ま　と　め……45

挿　図　目　次

第１図　松浦市内遺跡分布図(1／50,000) … 3 ～ 4
第２図　中ノ瀬遺跡位置図(1／10,000) …… 9
第３図　調査区設定図(1／2,000)…… 9
第４図　Ｔ２遺構実測図及び土層図(1／40) ……10
第５図　Ｔ６遺構実測図及び土層図(1／40) ……10
第６図　Ｔ９遺構実測図及び土層図(1／40) ……10
第７図　Ｔ４・Ｔ８土層図(1／40)……10
第８図　久保園遺跡位置図(1／10,000) ……11
第９図　調査区設定図(1／1,000) ……11
第10図　Ｔ１遺構実測図及び土層図(1／40) ……11
第11図　Ｔ２遺構実測図及び土層図(1／40) ……11
第12図　今福遺跡位置図(1／10,000) ……12
第13図　調査区設定図(1／4,000)……12
第14図　T15遺構実測図及び土層図(1／40) ……13
第15図　Ｔ４・T11・T14・T25土層図(1／40) …13
第16図　姫神社遺跡位置図(1／10,000) ……14
第17図　調査区設定図(1／1,000)……14
第18図　Ｔ４土層図(1／40) ……14
第19図　小船遺跡位置図(1／10,000) ……15
第20図　調査区設定図(1／1,500) ……15
第21図　Ｔ４遺構実測図及び土層図(1／40) 15
第22図　Ｔ３・Ｔ５土層図(1／40)……15
第23図　田口高野遺跡位置図(1／10,000) …16
第24図　調査区設定図(1／1,000) ……16
第25図　Ｔ２遺物出土状況図及び土層図(1／40) ……16
第26図　蕨川遺跡位置図(1／10,000) ……17
第27図　調査区設定図(1／1,000)……17
第28図　Ｔ３土層図(1／40) ……17
第29図　水尻Ｂ遺跡位置図(1／10,000) ……18
第30図　調査区設定図(1／3,000)……18
第31図　Ｔ３・Ｔ７・T17・T23土層図(1／40) …19
第32図　松園遺跡位置図(1／10,000) ……19
第33図　調査区設定図(1／1,000)……20
第34図　Ｔ２土層図(1／40) ……20
第35図　下谷遺跡位置図(1／10,000) ……20
第36図　調査区設定図(1／1,500)……21
第37図　Ｔ２・Ｔ３・Ｔ７土層図(1／40) ……21
第38図　栢ノ木遺跡位置図(1／10,000) ……22
第39図　調査区設定図(1／1,500)……22
第40図　Ｔ３遺構実測図及び土層図(1／40) ……23
第41図　Ｔ７・Ｔ８・T11土層図(1／40) ……23
第42図　牟田Ａ遺跡位置図(1／10,000) ……24
第43図　調査区設定図(1／1,000)……24
第44図　Ｔ１・Ｔ５・Ｔ７土層図(1／40) ……25
第45図　牟田Ｂ遺跡位置図(1／10,000) ……25
第46図　調査区設定図(1／3,000)……26
第47図　Ｔ２・Ｔ６・T13・T19土層図(1／40) …26
第48図　青島遺跡位置図(1／10,000) ……26
第49図　調査区設定図(1／1,000)……27
第50図　Ｔ１土層図(1／40) ……27
第51図　段ノ上遺跡位置図(1／10,000) ……27
第52図　調査区設定図(1／1,000)……27
第53図　Ｔ１土層図(1／40) ……27
第54図　津崎遺跡位置図(1／10,000) ……28
第55図　調査区設定図(1／1,000)……28
第56図　Ｔ１土層図(1／40) ……28
第57図　出土遺物実測図１(2／3)……30
第58図　出土遺物実測図２(2／3)……31
第59図　出土遺物実測図３(2／3)……32
第60図　出土遺物実測図４(2／3)……33
第61図　出土遺物実測図５(2／3)……34
第62図　出土遺物実測図６(1／3)……36
第63図　出土遺物実測図７(1／3)……37
第64図　出土遺物実測図８(1／3)……38
第65図　出土遺物実測図９(1／3)……39
第66図　出土遺物実測図10(2／3)……40

表　目　次

表１　平成７年度から平成９年度松浦市内埋蔵文化財発掘調査一覧表……２
表２　平成７年度から平成９年度確認調査内容一覧表……５
表３　出土遺物観察表１……41
表４　出土遺物観察表２……42
表５　出土遺物観察表３……43
表６　出土遺物観察表４……44

図　版　目　次

図版１　中ノ瀬遺跡Ｔ２遺構検出状況，中ノ瀬遺跡Ｔ９遺構検出状況……49
図版２　久保園遺跡Ｔ１遺構検出状況，久保園遺跡Ｔ２遺構検出状況……50
図版３　今福遺跡Ｔ15遺構検出状況，今福遺跡Ｔ36北土層……51
図版４　小船遺跡Ｔ３北土層，小船遺跡Ｔ４遺構検出状況……52
図版５　田口高野遺跡Ｔ１北土層，田口高野遺跡Ｔ２東土層……53
図版６　水尻Ｂ遺跡Ｔ３北土層，水尻Ｂ遺跡Ｔ23北土層……54
図版７　下谷遺跡Ｔ７西土層，下谷遺跡Ｔ８北土層……55
図版８　栢ノ木遺跡Ｔ３遺構検出状況，栢ノ木遺跡Ｔ７北土層……56
図版９　牟田Ａ遺跡Ｔ５西土層，牟田Ｂ遺跡Ｔ11東土層……57
図版10　津崎遺跡Ｔ１北土層，今福遺跡Ｔ15遺物出土状況……58
図版11　出土遺物１……59
図版12　出土遺物２……60
図版13　出土遺物３……61
図版14　出土遺物４……62
図版15　出土遺物５……63
図版16　出土遺物６……64
図版17　出土遺物７……65
図版18　出土遺物８……66
図版19　出土遺物９……67
図版20　出土遺物10……68
図版21　出土遺物11……69

Ⅰ　は　じ　め　に

1．調査に至る経過

松浦市における埋蔵文化財保護行政は、長崎県教育委員会の指導のもと文化財保護法に基づき立会調査や確認調査など積極的な対応に努めている。しかし、この数年は農業基盤整備事業（圃場整備）や道路改良工事などの公共事業をはじめ、個人宅地建築などの民間事業も増加している。よって、各種開発事業の急増に伴い立会調査・確認調査の発掘調査件数も比例して増加の傾向を示している。

九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所では、平成８年度から長崎県県北の１市６町で国営農地再編整備事業（610ha）に取組むことになった。このため、松浦市教育委員会では長崎県教育委員会の協力をえて九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所との協議に入った。長崎県・松浦市教育委員会では平成６年７月に国営農地再編整備事業予定地区内の遺跡の分布調査を行った。その結果をもとに試掘調査及び確認調査の必要な遺跡・地区についてリストアップを行った。また、松浦市内でのその他の開発事業に伴う確認調査も含めて松浦市教育委員会が主体となって国庫補助事業として平成７年度から３か年計画で実施することになった。

平成７年度に実施した発掘調査は総件数９件で、国庫・県費補助事業（以下補助事業という）で実施した試掘・確認調査は６件であった。試掘調査では、今福町仏坂・浦免の国営農地再編整備事業予定地区で遺跡の存在が確認されたため今福遺跡として文化財保護法による発見届を行い、周知の遺跡として登録されている。

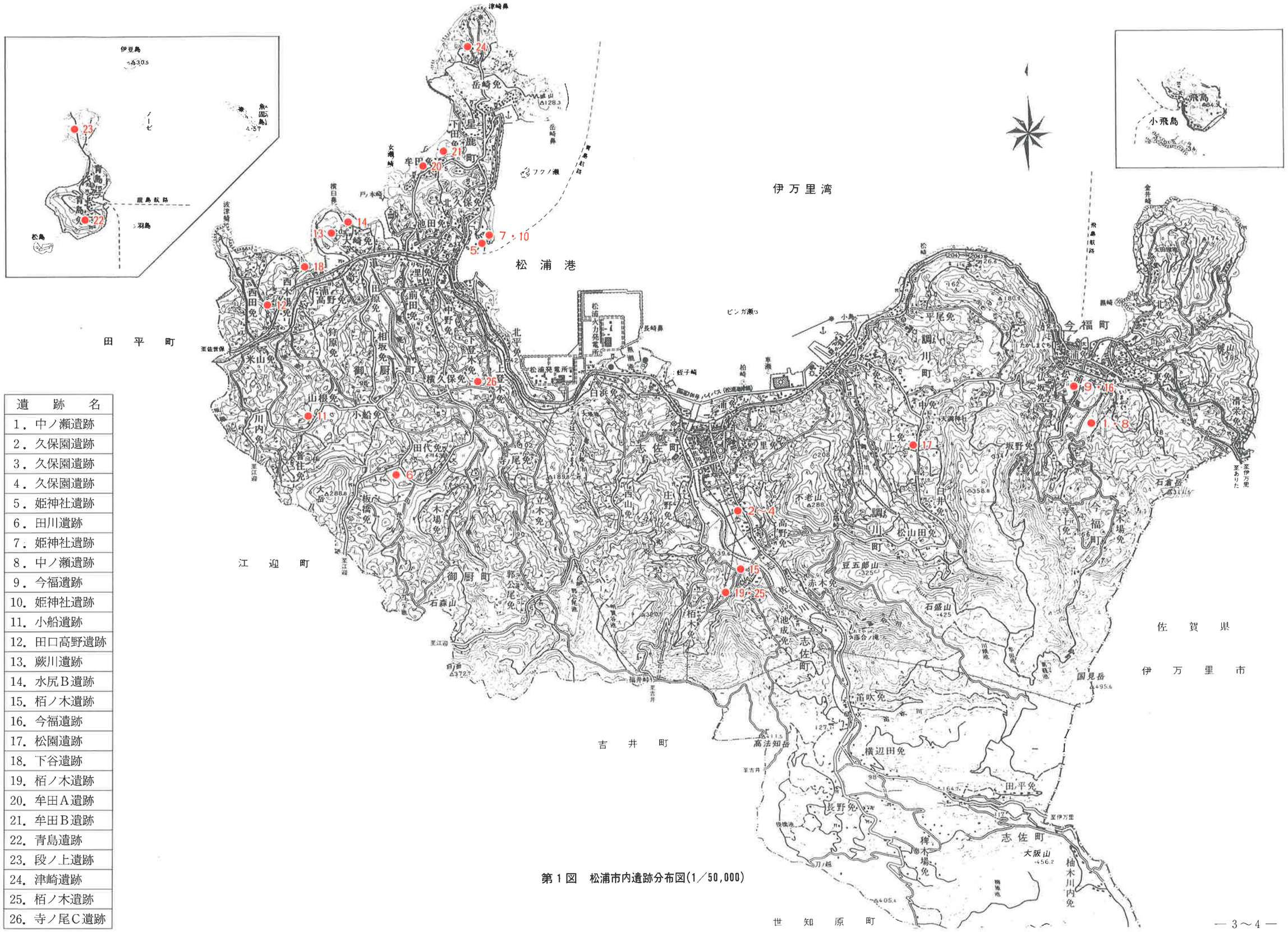
平成８年度は国営農地再編整備事業関連で６遺跡の試掘・確認調査と平成７年度に発見した今福遺跡と長崎県の重要遺跡にあたる栢ノ木遺跡の本調査も実施している。今福遺跡は周辺での本調査例もなく、現段階では不明な部分の多い松浦党梶谷城跡周辺での貴重な調査例となった。補助事業では水尻Ｂ遺跡ほか６遺跡の調査を実施している。このうち御厨町の川内地区では、周辺での確認調査例もなかったが山根免の国営農地再編整備事業予定地区で試掘調査を行い小船遺跡を発見した。７年度の今福遺跡同様に周知の遺跡として登録されている。

平成９年度は補助事業関係で７件の確認調査を実施している。そのうち国営農地再編整備事業関連で２件と、農道整備の３件、圃場整備１件、公共事業１件が含まれている。

この３年間で実施した発掘調査の件数は26件（試掘３件・確認18件・立会２件・本調査３件）であった。うち国営農地再編整備事業関連で10件（補助事業９件･本調査１件)、個人の事業で７件、県及び市の公共事業では５件であった。発掘調査した遺跡では姫神社遺跡が第２次と第３次まで、栢ノ木遺跡が第６次から第８次までの確認及び本調査を実施している。このことは市街地の周辺部が宅地化していることを物語っているとともに、市民への埋蔵文化財の周知化が進みつつあることへの現われであろう。

表１　平成７年度から平成９年度松浦市内埋蔵文化財発掘調査一覧表

年度	遺跡名	次数	調査地	事業内容	事業者	調査費用	調査方法	調査後の処置	備考
7	1．中ノ瀬遺跡		今福町東免馬場ノ尾243-１外５筆	鉱害復旧	松浦市	国庫補助	確認調査	慎重工事	
〃	2．久保園遺跡		志佐町里免久保園226-２	個人住宅	個人	〃	〃	工事実施	
〃	3．久保園遺跡		志佐町里免久保園226-３	〃	〃	〃	〃	埋め戻し	
〃	4．久保園遺跡		志佐町里免久保園226-４	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	5．姫神社遺跡		星鹿町北久保免宮崎576外２筆	資材置場整備	〃	——	立会調査	工事実施	
〃	6．田川遺跡	3	御厨町田代免鳥田286外３筆	県営圃場整備	長崎県	長崎県・市費	本調査	〃	
〃	7．姫神社遺跡	2	星鹿町北久保免宮崎523	個人住宅	個人	市費	確認調査	慎重工事	
〃	8．中ノ瀬遺跡	2	今福町浦免中ノ瀬45外３筆	鉱害復旧	松浦市	国庫補助	〃	〃	
〃	9．今福遺跡		今福町仏坂免五百田1107-1外31筆	国営農地再編整備	九州農政局	〃	試掘調査	埋め戻し	９年度本調査
8	10．姫神社遺跡	3	星鹿町北久保免宮崎551-2外３筆	個人住宅	個人	〃	確認調査	〃	
〃	11．小船遺跡		御厨町山根免広久保607～610外６筆	国営農地再編整備	九州農政局	〃	試掘調査	〃	10年度本調査
〃	12．田口高野遺跡		御厨町西木場免蛭田367-1外１筆	〃	〃	〃	確認調査	〃	
〃	13．蕨川遺跡		御厨町大崎免フウチン694外３筆	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	14．水尻Ｂ遺跡		御厨町大崎免俵場554・579外26筆	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	15．栢ノ木遺跡	6	志佐町池成免濱井手1736	簡易水道施設	松浦市	市費	本調査	工事実施	
〃	16．今福遺跡	2	今福町仏坂免五百田1107-1外13筆	国営農地再編整備	九州農政局	九州農政局・市費	〃	〃	
〃	17．松園遺跡		調川町上免里310-1外１筆	〃	〃	国庫補助	試掘調査	埋め戻し	
〃	18．下谷遺跡		御厨町西木場免下谷4・5・6-1外４筆	〃	〃	〃	確認調査	〃	
9	19．栢ノ木遺跡	7	志佐町栢木免佐々山114-1外１筆	簡易水道施設	松浦市	〃	〃	慎重工事	
〃	20．牟田Ａ遺跡		星鹿町牟田免中尾610外５筆	国営農地再編整備	九州農政局	〃	〃	埋め戻し	
〃	21．牟田Ｂ遺跡		星鹿町下田免下田296-1外12筆	〃	〃	〃	〃	〃	
〃	22．青島遺跡		星鹿町青島免上畑1026外４筆	農道整備	受益者	〃	〃	工事実施	
〃	23．段ノ上遺跡		星鹿町青島免丸島309外３筆	〃	〃	〃	〃	埋め戻し	10年度工事実施
〃	24．津崎遺跡		星鹿町岳崎免吸田716外３筆	〃	〃	〃	〃	工事実施	
〃	25．栢ノ木遺跡	8	志佐町栢木免佐々山113外５筆	圃場整備	〃	〃	〃	慎重工事	
〃	26．寺ノ尾Ｃ遺跡		御厨町上登木免大野谷445外２筆	〃	個人	——	立会調査	工事実施	



遺　跡　名
1．中ノ瀬遺跡
2．久保園遺跡
3．久保園遺跡
4．久保園遺跡
5．姫神社遺跡
6．田川遺跡
7．姫神社遺跡
8．中ノ瀬遺跡
9．今福遺跡
10．姫神社遺跡
11．小船遺跡
12．田口高野遺跡
13．蕨川遺跡
14．水尻Ｂ遺跡
15．栢ノ木遺跡
16．今福遺跡
17．松園遺跡
18．下谷遺跡
19．栢ノ木遺跡
20．牟田Ａ遺跡
21．牟田Ｂ遺跡
22．青島遺跡
23．段ノ上遺跡
24．津崎遺跡
25．栢ノ木遺跡
26．寺ノ尾Ｃ遺跡

第１図　松浦市内遺跡分布図(1／50,000)

表２　平成７年度から平成９年度確認調査内容一覧表

	遺　跡　名	調査面積	トレンチ内容(m)	遺構の有無	出土遺物等
1	中ノ瀬遺跡	62m²	2×3を1カ所、2×4を1カ所 2×2を12カ所	不明土壙・柱穴	石鏃、黒曜石剝片、弥生土器、輸入陶磁器他
2	久保園遺跡	4 m²	２×２を１カ所	不明土壙・柱穴	石鏃、黒曜石剝片、弥生土器他
3	久保園遺跡	4 m²	２×２を１カ所	柱　穴	黒曜石剝片、輸入陶磁器他
4	久保園遺跡	4 m²	２×２を１カ所	柱　穴	黒曜石剝片、輸入陶磁器他
8	中ノ瀬遺跡	49m²	1×2を1カ所、1×3を1カ所 2×2を11カ所	無	石鏃、黒曜石剝片、弥生土器、土師器、瓦器、輸入陶磁器他
9	今福遺跡	156m²	２×２を39カ所	柱　穴	石鏃、弥生土器、土師器他
10	姫神社遺跡	20m²	2×2を3カ所、2×4を1カ所	柱　穴	黒曜石剝片、土師器、近世陶磁器
11	小船遺跡	24m²	２×２を６カ所	集石遺構	台形石器、黒曜石剝片他
12	田口高野遺跡	16m²	２×２を４カ所	無	台形石器、黒曜石剝片他
13	蕨川遺跡	16m²	２×２を４カ所	無	黒曜石剝片、近世陶磁器他
14	水尻Ｂ遺跡	120m²	２×２を30カ所	無	黒曜石原石、近世陶磁器他
17	松園遺跡	20m²	２×２を５カ所	無	土師器、近世陶磁器他
18	下谷遺跡	32m²	２×２を８カ所	無	石鏃、剝片鏃、縄文土器他
19	栢ノ木遺跡	16m²	2×2を2カ所、2×4を1カ所	柱　穴	石鏃、弥生土器、近世陶磁器他
20	牟田Ａ遺跡	32m²	２×２を８カ所	無	石鏃、黒曜石剝片・原石
21	牟田Ｂ遺跡	76m²	２×２を19カ所	無	黒曜石剝片・原石、近世陶磁器
22	青島遺跡	4 m²	２×２を１カ所	無	出土遺物なし
23	段ノ上遺跡	8 m²	２×２を２カ所	無	黒曜石剝片
24	津崎遺跡	4 m²	２×２を１カ所	無	台形石器、黒曜石剝片他
25	栢ノ木遺跡	44m²	２×２を11カ所	無	石庖丁、石鏃、弥生土器他

２．調査の組織

調査主体　松浦市教育委員会

総　　括　黒川壽信（教育長）

事務局　松浦市教育委員会　社会教育課

事務総括　橋口　　達（社会教育課長、平成８年３月まで）

　　川上啓一（社会教育課長、平成８年４月から）

庶務担当　神田泰善（社会教育課指導係長）

調査担当　中田敦之（社会教育課社会教育主事）

　　内野　　義（社会教育課主事、平成８年11月から平成９年３月まで）

整理担当　中田敦之（社会教育課社会教育主事）

調査整理協力者　高原　　愛・宮川　泰男・明石　拡子（文化財調査員）

整理補助　氏山百合子・瀬上久美子（整理補助員）

II　地理的・歴史的環境

1．地理的環境

長崎県本土の北端に位置する松浦市は、北松浦半島の北端部とその沖に浮かぶ青島・飛島などのいくつかの島々から構成されている。北には伊万里湾・玄界灘、西から南にかけては北松浦郡の田平・江迎・吉井・世知原町と、東は佐賀県伊万里市と接している。市の面積は 95.59㎢で、平成10年１月現在の松浦市の人口は23,419人である。

市内の地質は第三紀層を基盤として、その上に玄武岩が広く堆積している地質構造をなしている。この玄武岩は、北松浦半島を中心に西北九州に広く分布する松浦玄武岩（北松玄武岩）と称されるもので、典型的な溶岩台地を形成している。かつては伊万里市南方を中心として噴出した火山であったと思われている。したがって、佐賀県境を占拠する標高 777mの国見山を主峰とし、北および西に高度を減じている。

松浦市の地勢は、南高北低をなし、河川もすべて北流している。市の南側には400～500m級の高位台地があり、悪太郎川以西では 100m以下の低位台地が広がっている。市西部の星鹿半島の先端の津崎鼻や西田地区の波津崎には、玄武岩の柱状節理の海食崖が発達している。

2．歴史的環境

松浦市内の遺跡としては、圧倒的に旧石器時代・縄文時代の遺跡が多い。現在までのところ、旧石器時代の所産であるナイフ形石器や台形石器の資料が牟田Ｂ・楼楷田・田口高野・田川遺跡などで確認されている。さらに、平成元年の竜尾川地区県営圃場整備事業に伴う寺ノ尾Ｃ遺跡の確認調査ではナイフ形石器・台形石器の良好な包含層が検出されている。[注1] 星鹿半島の周辺は市内でも特に遺跡の多い地域として注目されている。半島一帯は、道具生産の主たる石材である黒曜石の原産地であり、多くの原石が採集されているが、確認調査では旧石器時代の包含層の発見はできていない。

次の縄文時代では、姫神社遺跡・小嶋遺跡など良好な遺跡も知られている。姫神社遺跡は、昭和41年にアメリカのウィスコンシン大学アルバート・モアと日本人学者（内藤芳篤、吉崎昌一ら）による合同調査が行われており、その一部が英文で報告されている。[注2] この論文については福岡県教育委員会の水ノ江和同氏によって翻訳されている。[注3] 同論文では縄文前期の轟式土器、曽畑式土器を中心に、中期の阿高式土器、石器では石鏃・石錐・石槍・石斧・石匙などが報告されている。小嶋遺跡は、昭和61年に簡易水道敷設工事に伴う確認調査で発見した遺跡である。縄文前期の曽畑式土器、中期の阿高式土器、石器では石鏃・剝片鏃・石鋸・滑石製装飾品・石斧などが出土している。[注4] その他では、平成６から７年にかけて竜尾川地区県営圃場整備事業に伴い実施した田川遺跡の本調査では、縄文中期終末から後期初頭頃に位置づけられる坂の下Ⅰ式～Ⅱ式の土器と石鏃・剝片鏃・つまみ形石器・石鋸・サイドブレイドなど西北九州における縄文後期の石器が出土している。[注5]

弥生時代では、大正14年に発見され、現在は長崎県の重要遺跡として周知されている池田遺跡があ

る。この遺跡は、昭和63年から平成元年にかけて4次にわたる確認調査が行われている。その結果、縄文晩期から弥生前期にかけての良好な包含層が検出されており、柱穴・箱式石棺墓・甕棺墓・土壙などの遺構と西平式土器・刻目突帯文土器・板付II式土器・骨製ヤス・貝輪などの遺物が出土している。[注6] その他では、昭和45年秋、水田畦畔工事に際して甕棺2基が発見された栢ノ木遺跡がある。昭和46年3月の本調査の結果、箱式石棺墓3基と甕棺墓3基が検出されている。甕の器形から前期後半と思われる。2号石棺の枕石上には内行花文鏡片が副葬されており、首長層の誕生が考えられている。[注7]

古墳時代では、昭和62年度に確認調査を実施した小嶋古墳群がある。3基を確認し、そのうちの1号墳を調査した。石室はすべて天井部を失って露出しており、方形の玄室プランに羨道を付した横穴式石室であった。玄室内より銀環・碧玉製勾玉・ガラス製丸玉などが多数出土しており、盛土はないが直径約10m程度の円墳と思われ、7世紀代に比定できる。被葬者は海上交通や漁業に精通していた人であり、首長的な立場の人物であっただろうと思われる。[注4] 志佐川をはさんで栢ノ木遺跡の対岸には、昭和60年から志佐川地区県営圃場整備事業が行われ、それに伴う宮ノ下り遺跡の第2次確認調査では、箱式石棺墓1基・竪穴式住居跡2棟・溝状遺構が検出され、37,700m²の範囲に遺跡が分布していることが確認されている。この点からも広範囲に集落を形成していたと考えられる。竪穴式住居の構築年代は1号住居跡が4世紀後半頃、2号住居跡が5世紀前葉以降と思われる。出土遺物には4世紀中頃の布留式古段階の土師器甕から5世紀代にかけての甕・坏・高坏などがある。この頃に畿内からの影響を知ることができる。また、奈良・平安時代の緑釉陶器の資料も10点ほど出土している。[注8]

古墳時代以降では、現在でもいまだ十分に解明されていない「宇野御厨」について説明する必要があろう。御厨の地名は現在の松浦市御厨町の名称として引き継がれており、当時は宇野御厨荘、単に御厨荘ともいわれていたようである。律令制下では天皇や神に貢納する魚貝・果物を贄と称しており、この贄の地に宇野御厨が置かれたと思われる。松浦・五島の地域でも、大宰府を通じて贄が貢上されていたことが『延喜式』や贄木簡などによって知られている。宇野御厨が初めて文書に現われるのは『東南院文書』で、寛治3年（1089）8月17日の筑前国観世音寺三綱解案に「宇野御厨別当下文」とある。つぎに宇野御厨の名が見えるのは、『石志文書』の、康和4年（1101）8月29日の肥前国宇野御厨検校源久譲状案である。この文書は偽文書の疑いが指摘されている史料でもある。この史料には「宇野御厨野検校散位」（源久）という松浦党の祖といわれている人物の名が見える。この源久は延久元年（1069）現在の松浦市今福町に下向し、土着したといわれている人物で、以後の松浦党の諸氏は源久を祖として仰いでいる。松浦党は宇野御厨および御厨荘一帯に土着した源性一字名の集団を中心に、当初はその姻族が加わった武士団であったと思われる。松浦党については、源平合戦の壇の浦の戦に平家方として参加した水軍の中に松浦党の名が見え、当時から海上活動を得意とする水軍集団として有名であったようである。宇野御厨の範囲は『河上神社文書』の正応5年（1292）の「肥前国河上宮造営用途支配懇田数注文」には「宇野御厨庄三百丁」と御厨の公田数が記されており、当時の御厨の範囲を確定することは難しいが、これらの史料から考えると、現在の五島列島・平戸島などの島々を含む県北地域の一帯と南松浦郡域と伊万里湾西側地域を含む一帯であろうと思われる。

この宇野御厨の範囲と一部重なっているのが松浦党の勢力圏ともいわれている。この松浦党と呼ばれる集団は、中国大陸・朝鮮半島との交渉も頻繁に行っており、鎌倉時代前期の歌人、藤原定家の日記『明月記』には、「鎮西の兇党～松浦党と号す～数十艘兵船を構え、高麗国の別島に行き合戦して民家を滅亡させ、資財を掠め取る」とあるように、後世の倭寇的活動の常習者でもあったようである。松浦市域にはこの松浦党の主な構成メンバーとして今福の松浦氏・志佐氏・御厨氏・調川氏がいる。文永・弘安の二度にわたる元軍の襲来においては、戦いに参加した松浦党に御厨預所源右衛門太郎兵衛尉・志佐三郎入道継・志佐小次郎祝などがいる。この他にも松浦党が果敢な防衛戦を展開したことは疑う余地のないところである。

南北朝から室町期にかけては松浦党一族間で一揆が結ばれており、地域支配の体制を強化している。『青方文書』の永徳４年（1384）の松浦党一揆契諾状を見ると「ミくりや参川守守」・「しさ壱岐守調」・「つきのかわ周防守続」・「しさのしらはま白浜後家代弘」らが署名している。『山代文書』には「ミくりや三川守守」・「しさのまつのお石見守信」・「ミくりやのさかもと源宥」の名が見える。さらに嘉慶２年（1388）の一揆契諾には「御厨三河守守」・「御厨田代近」の名が見える。これらの一揆契諾に出ている人物は、いずれも現在の松浦市内の町名及び字名との関係が深いようである。

室町期に入ると、志佐氏と御厨氏は盛んに朝鮮に使者を送って貿易を行っている。『李朝実録』には「太宗恭定大王実録」戊子太宗８年（1408）６月庚辰条に「日本志佐殿・御厨殿、皆遣使献礼物」とあり、以後の『李朝実録』に「志佐源重」・「肥前州下松浦一岐州太守志佐源義」・「松浦志佐源武」・「一岐州守護代官真弓兵部少輔源武」・「下松浦三栗野太守源満」などの名が見える。

注１　中田敦之　『田原積石塚・寺ノ尾Ｃ遺跡』　松浦市文化財調査報告第７集　松浦市教育委員会　1990

注２　ALBERT MOHR and MASAKAZU YOSHIZAKI 「Cultural Sequence in Western Kyushu」『Asian Perspectives』　XⅥ(2)　1973

注３　水ノ江和同　「西九州における文化の変遷」『古文化談叢』22　1990

注４　中田敦之　『小嶋古墳群』　松浦市文化財調査報告第４集　松浦市教育委員会　1988

注５　中田敦之　『田川遺跡』　松浦市文化財調査報告第12集　松浦市教育委員会　1997

注６　中田敦之　『池田遺跡』　松浦市文化財調査報告第６集　松浦市教育委員会　1990

注７　正林　護　『栢ノ木遺跡（中間報告）』　松浦市教育委員会　1973

注８　中田敦之　『宮ノ下り遺跡』　松浦市文化財調査報告第５集　松浦市教育委員会　1989

参考文献

１．角川日本地名辞典編纂委員会　『角川日本地名辞典』―42長崎県―　角川書店　1987

２．外山幹夫　『松浦氏と平戸貿易』　国書刊行会　1987

３．外山幹夫　『松浦党のすがた』　松浦市　1990

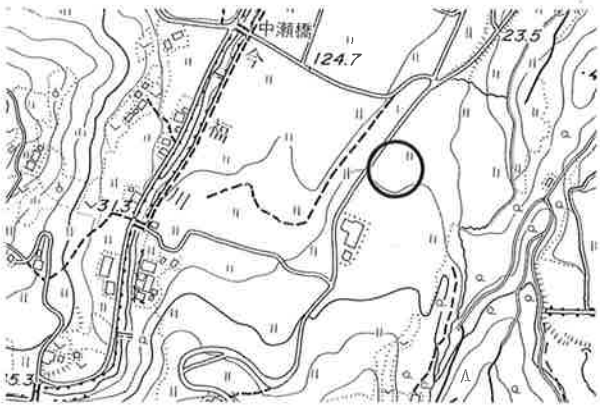
Ⅲ　平成７年度の確認調査の概要

国庫補助を受けて確認調査・試掘調査を実施した３遺跡について、その調査を以下に概説する。

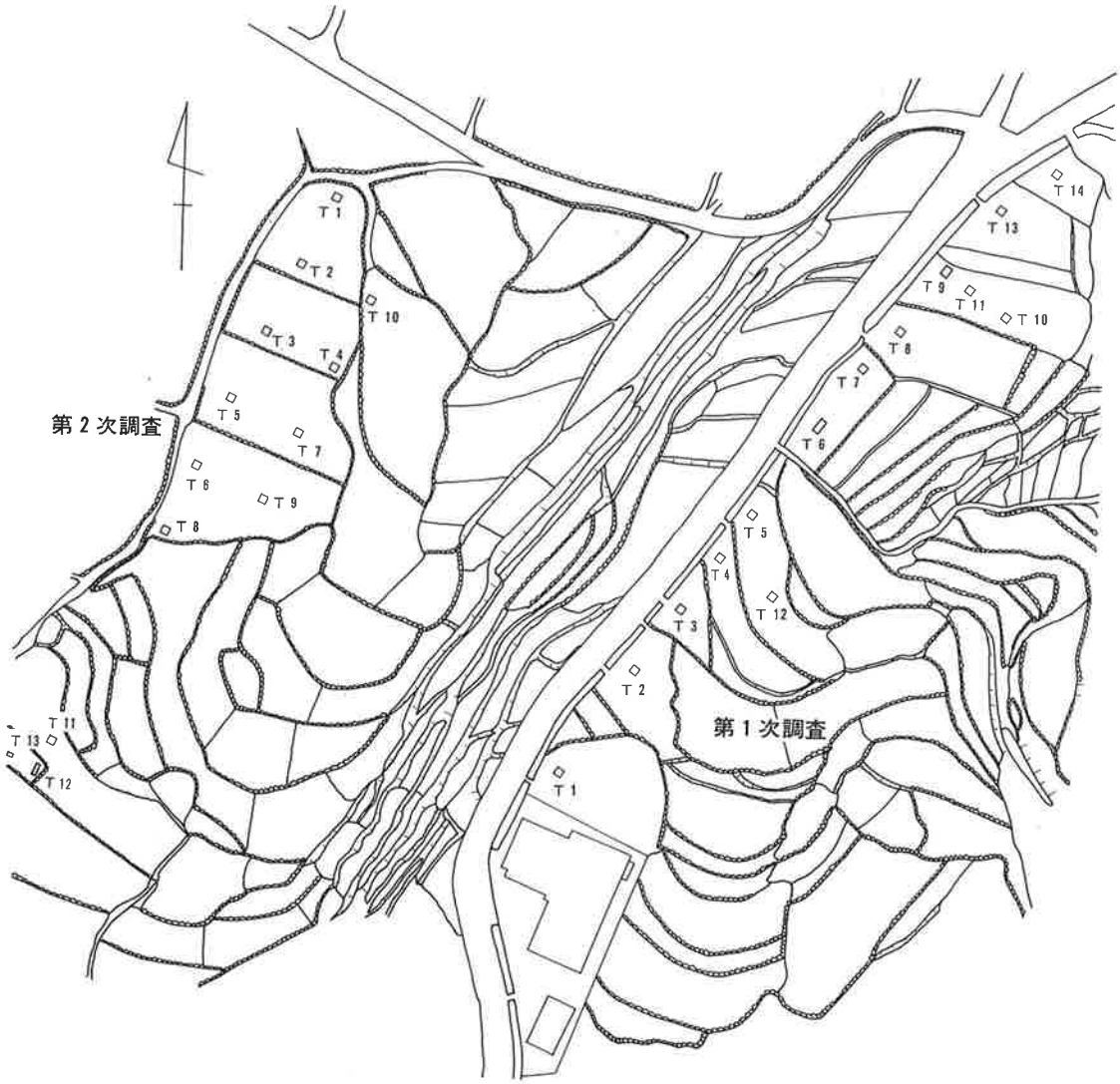
１．中ノ瀬遺跡（第２図～第７図）

立地　今福川に沿って伸び出す丘陵上と今福川によって形成された沖積平野を望む微高地上の水田部に位置している。

調査　調査は鉱害復旧工事の関係で、第１次調査を４月24日から５月17日の期間に東側丘陵の水田部に14カ所の調査区を設定した。第２次調査は11月６日から11月16日の期間に西側の微高地の水田部に13カ所の調査区を設定した。



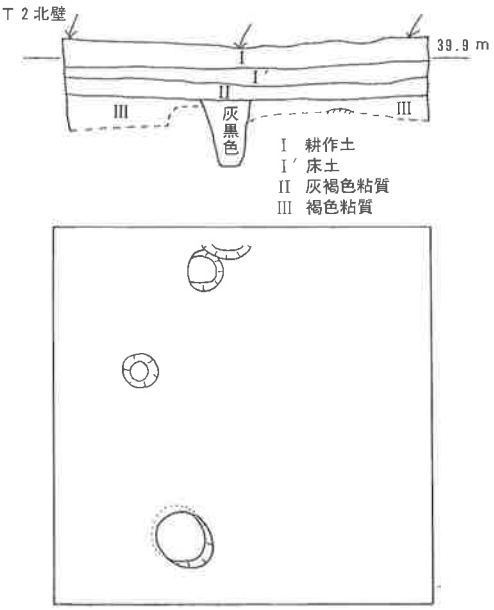
第２図　中ノ瀬遺跡位置図(1／10,000)



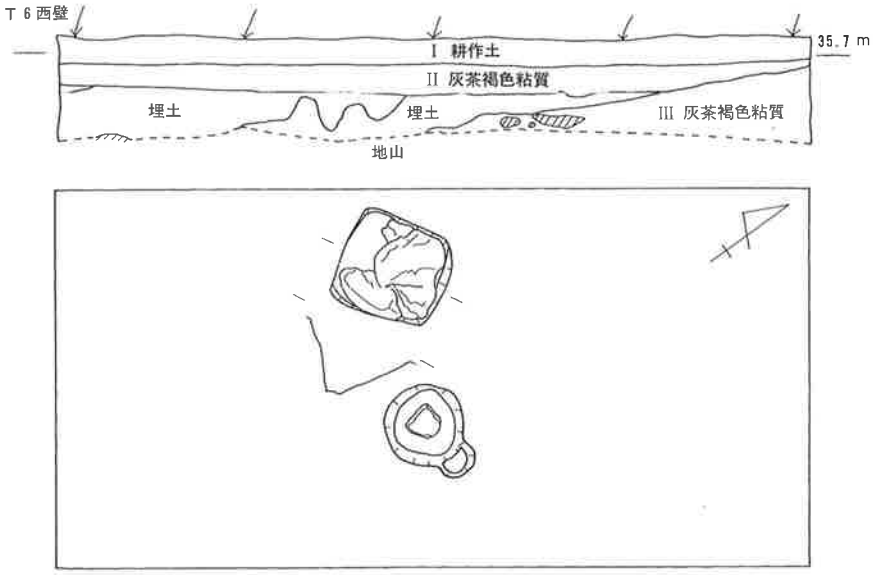
第３図　調査区設定図(1／2,000)

検出遺構　27カ所の調査区のうち遺構が検出できたのは東側の丘陵のみであった。Ｔ２・３・５・６・９・10・11・13の各調査区でピットと、Ｔ６では地山を削って長さ58cm×54cmのほぼ正方形で、深さ28cmの土壙の上に玄武岩を平たく敷いている土壙１基を検出した。中より須恵質土器が１点出土しており中世の時期とも考えられるが、性格については不明である。Ｔ９ではⅢ層の弥生土器の包含層の下に焼土と炭化物を含む土壙が１基検出された。深さ23cmで擂鉢状に凹み小ピットが４個検出されている。土器の製作に関連した遺構とも考えられるが確証はない。

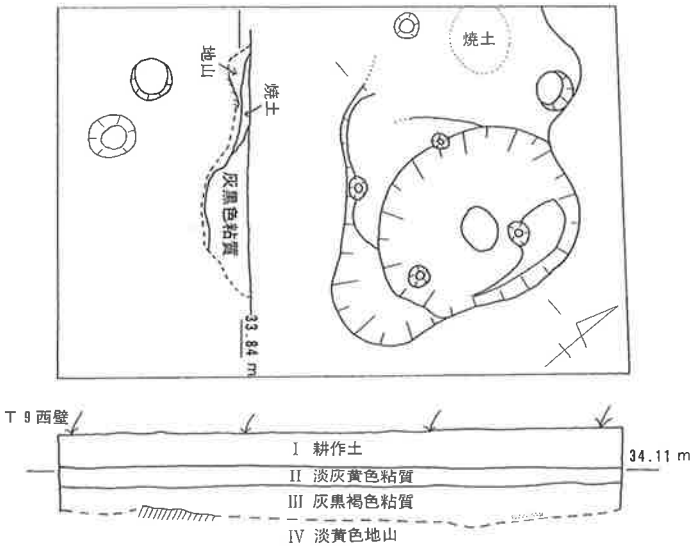
出土遺物　第１次・第２次調査とも大部分の遺物包含層は削平を受けており、撹乱層より黒曜石製剝片・弥生土器・土師器・東播系須恵質捏鉢・輸入陶磁器などが出土している。輸入陶磁器では白磁の碗Ⅳ類・Ⅵ類・Ⅷ類、皿のⅨ類、龍泉窯系の青磁碗Ⅰ―１類・Ⅰ―２類・Ⅰ―５類、同安窯系の青磁碗Ⅰ類・皿Ⅰ―１類、青白磁合子などが出土している。第１次・第２次調査合わせての遺物は774点であった。



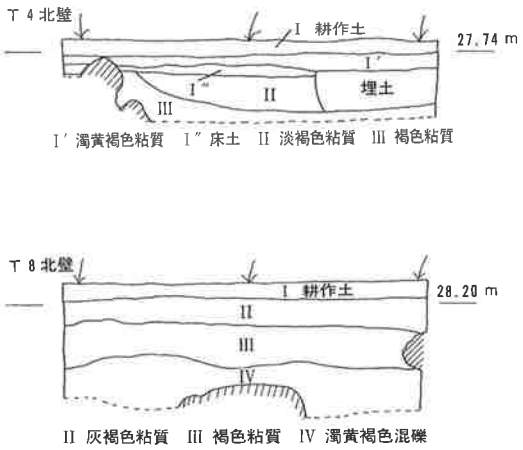
第４図　Ｔ２遺構実測図及び土層図(1／40)



第５図　Ｔ６遺構実測図及び土層図(1／40)



第６図　Ｔ９遺構実測図及び土層図(1／40)



第７図　Ｔ４・Ｔ８土層図(1／40)

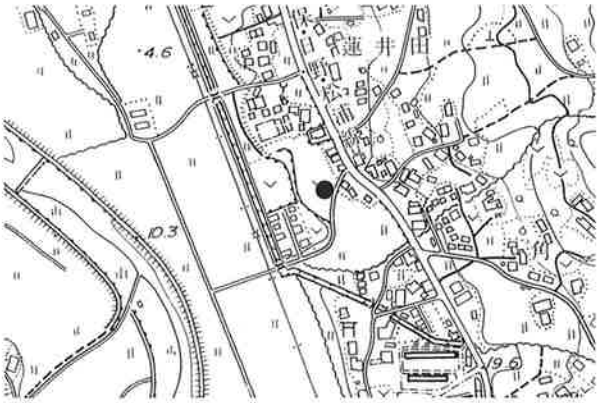
2．久保園遺跡（第８図～第11図）

立地　志佐川右岸に沿って伸び出す河岸段丘上に位置している。遺跡の北には中世の陣ノ内城跡、南には中世集落の宮ノ下り遺跡がある。

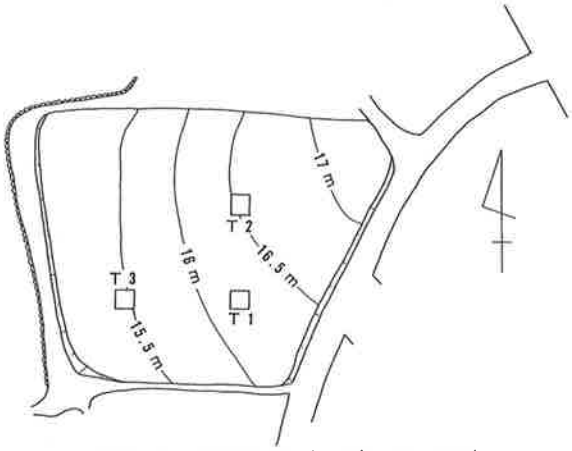
調査　調査は５月22日から５月30日の期間に実施し、工事予定地区内にそれぞれ１カ所ずつの調査区を設定した。

検出遺構　上部を削平された柱穴をＴ２・３で検出した。Ｔ３のピット内から白磁の碗Ｖ類が出土している。Ｔ１では耕作土の直下に土壙を１基検出した。土壙上面は110cm×115cmのほぼ円形で、深さ39cmを測る。土壙内より黒曜石製石核・剝片・砕片、灰青色黒曜石製石鏃、安山岩製剝片、弥生土器が出土している。

出土遺物　３カ所の調査区とも耕作土の下が撹乱及び削平を受けており遺物包含層の確認はできなかった。遺物はこの撹乱層とＴ１の土壙ほかから総数566点が出土している。

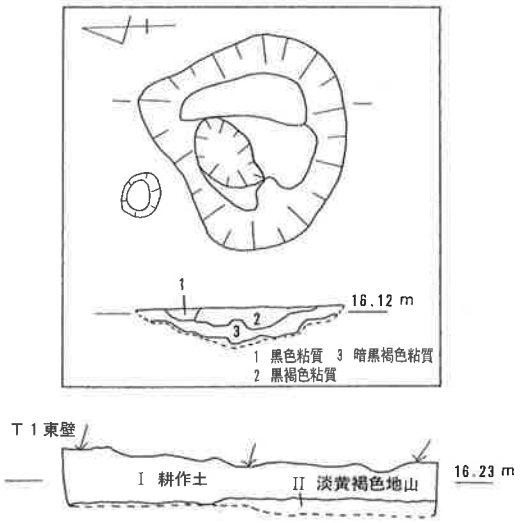


第８図　久保園遺跡位置図(1／10,000)

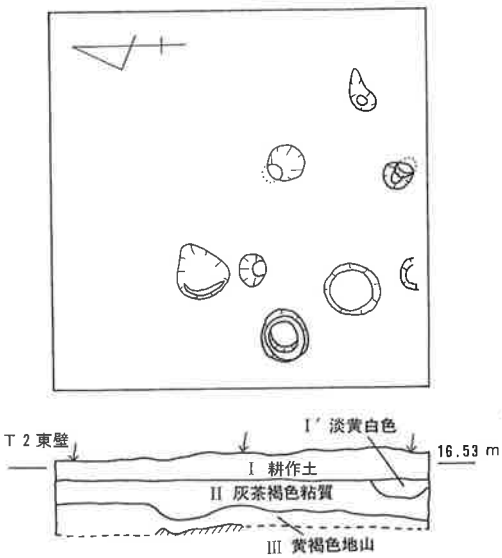


第９図　調査区設定図(1／1,000)

出土遺物が少なく明確な時期比定はできていないが、おそらく中世の集落の一部と思われる。畑地に利用する際に本来の遺物包含層が削平を受けてしまっているが、かつては広範囲に畑地が広がっていたと思われる。この部分にも当該期の集落が広がっている可能性があるのではないだろうか。今後は宅地建築に伴って注意をして行かなければならない遺跡である。



第10図　Ｔ１遺構実測図及び土層図(1／40)



第11図　Ｔ２遺構実測図及び土層図(1／40)

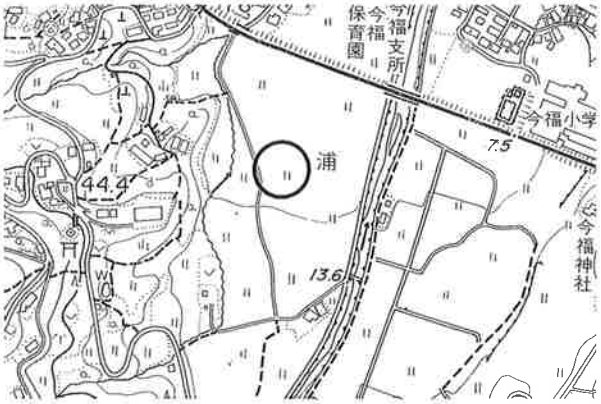
3．今福遺跡（第12図～第15図）

立地　今福川によって形成された沖積平野の水田部に位置している。今福川をはさんで遺跡の東南には中ノ瀬遺跡がある。遺跡の北側には松浦鉄道西九州線が走っている。

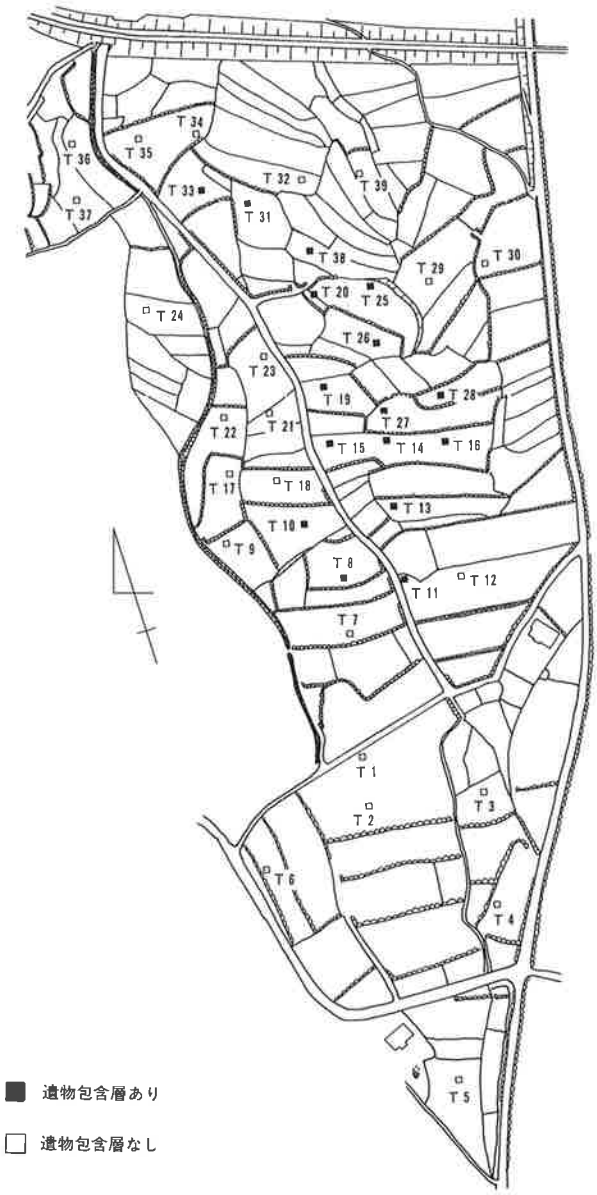
調査　調査は国営農地再編整備事業のモデル地区に指定されている８haの工事予定地区内の遺跡の有無を確認するための試掘調査で、地区内の稲刈り作業が終了した11月17日から12月27日までの期間行った。調査は工事予定地区内を30m方眼に区切って39カ所の調査区を設定した。周辺には昭和37年代頃まで炭鉱があり、活気に満ちていたが閉山とともに炭鉱住宅も解かれ、水田地帯として変化している。調査区では水田の耕作土の下に炭鉱のボタあるいはレンガの建物跡などが確認され、同時に陶磁器・ガラスビンなどが含まれていた。また、調査区東側の今福川沿いでは川の氾濫による堆積した砂の層がいたる所で確認され、本来の包含層も撹乱を受けている所があった。さらに西側においても、川の氾濫を受けている所が確認された。しかし、工事予定地区の中央部から北側にかけてのＴ８・11の調査区付近からＴ31・33の調査区付近まで約16,300㎡の範囲にわたって古墳時代から中世にかけての遺物包含層が確認された。

検出遺構　39カ所の調査区のうち遺物包含層が確認された調査区は16カ所であった。そのうちＴ10・15では古墳時代のピットを検出した。Ｔ15のピットでは直径20cmから30cm、深さ18cmから25cmを測り、中から土師器の細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

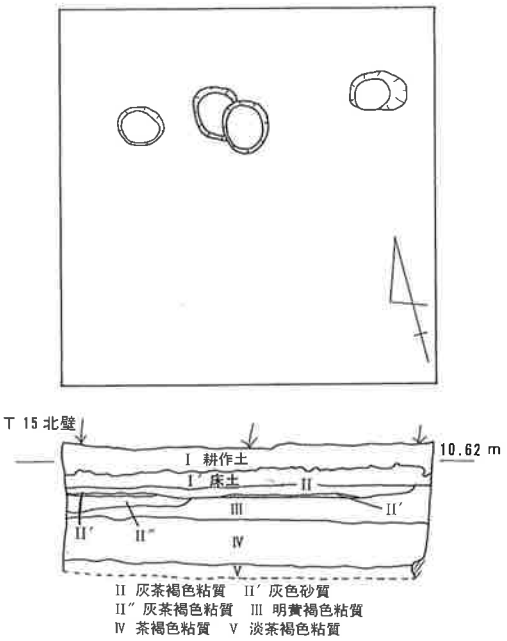
出土遺物　調査によって出土した遺物の総



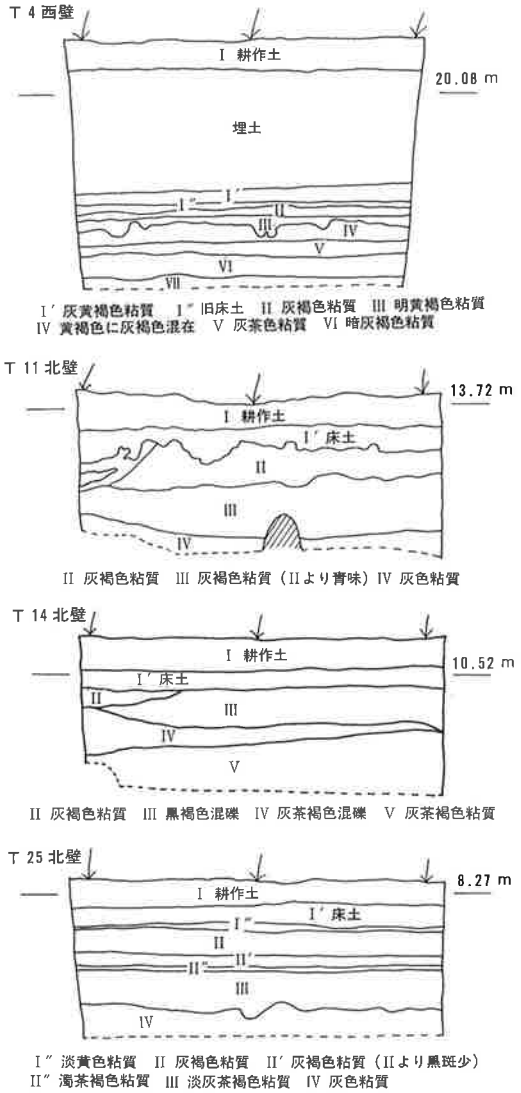
第12図　今福遺跡位置図(1／10,000)



第13図　調査区設定図(1／4,000)



第14図　T15遺構実測図及び土層図(1／40)



第15図　T 4・T11・T14・T25土層図(1／40)

点数は 1,442点であった。出土した遺物の種類では縄文時代の黒曜石製石鏃・石核・剝片・砕片、安山岩製石核・剝片、石斧、縄文晩期後半の浅鉢、弥生土器、全体の60.6%を占める土師器、須恵器、輸入陶磁器の越州窯系青磁碗・龍泉窯系青磁碗・白磁碗・李朝陶器、石鍋などが出土している。

この試掘調査によって遺跡が発見されたため、市教育委員会では文化財保護法に基づく第57条の６の遺跡発見届を行うとともに、この調査結果をもとに九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所と協議に入った。その期間中の、平成８年４月には九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所が北松浦郡吉井町に移転し、北松農地整備事業所が開設された。それに同時に今福遺跡の保存問題も引き継がれることになった。そして、国営農地再編整備事業も本格的始動となった。この北松農地整備事業所と教育委員会との間で今福遺跡の保存について協議を行った結果、約16,300㎡の遺跡範囲のうち計画変更できない道路と水路の部分と削平される水田部の合計約 2,580㎡の本調査を実施することになった。調査は秋の稲刈り作業が終了した時点から行うことで工事予定地区の地権者及び代表者とも調整を図った。

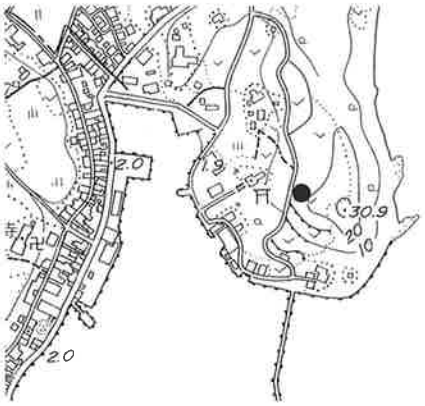
Ⅳ　平成８年度の確認調査の概要

国庫補助を受けて確認調査・試掘調査を実施した７遺跡について、その調査を以下に概説する。

１．姫神社遺跡（第16図～第18図）

立地　星鹿半島の付け根にあたる松浦港の北岸に位置しており、遺跡の中心は姫神社境内周辺である。今回の調査地点は姫神社本殿の裏側にあたり、調査地点は、現在畑地として利用されている所である。

調査　調査は５月２日から５月13日にかけて実施し、４カ所の調査区を設定した。

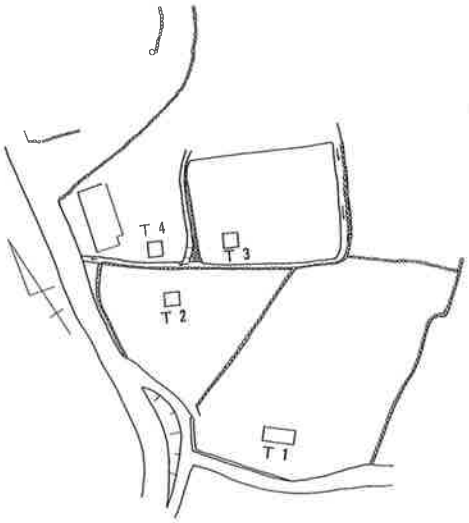


第16図　姫神社遺跡位置図(1／10,000)

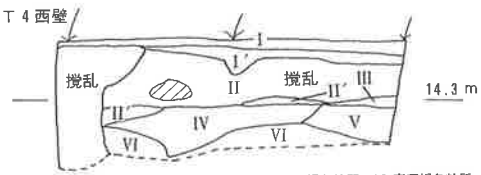
検出遺構　４カ所の調査区のうちＴ１で地山の赤褐色粘質土層を掘り下げた落ち込みを１基検出した。昭和期の藷釜であろうか。Ｔ３では時期が不明のピット２基を検出した。どちらも直径20cm程度で、遺物の出土はなかった。ピットの上面は撹乱を受けている。

出土遺物　遺物は345点あり、耕作土及び撹乱層からの出土がほとんどであった。土器では図示できる資料がなかった。遺物では、黒曜石製台形石器・石鏃・石核・剝片・砕片、安山岩製石核・剝片・砕片、土師器、近世陶磁器などが出土している。

近年、姫神社遺跡の周辺においても徐々にではあるが個人住宅の建築が進んできている。この個人住宅建築に伴う確認調査は今回で第３次の調査になっている。このような状況下であるため遺跡の周辺一帯が虫食いの状態になってきており、姫神社遺跡の保護問題が今後の課題となってきている。



第17図　調査区設定図(1／1,000)



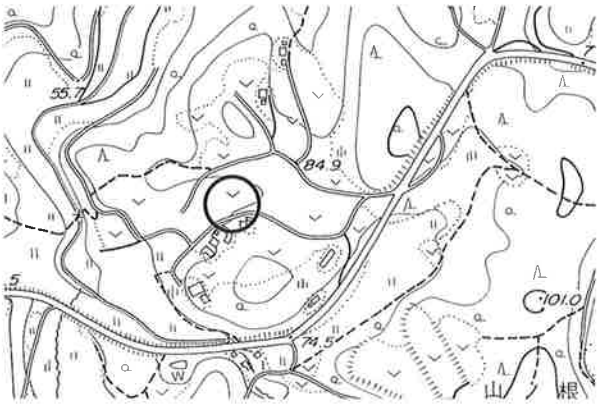
Ⅰ 砂利層　Ⅰ′ 耕作土　Ⅱ 赤褐色粘質　Ⅱ′ 灰褐色粘質　Ⅲ 青灰褐色粘質
Ⅳ 褐色粘質　Ⅴ 茶褐色粘質　Ⅵ 明茶褐色粘質

第18図　Ｔ４土層図(1／40)

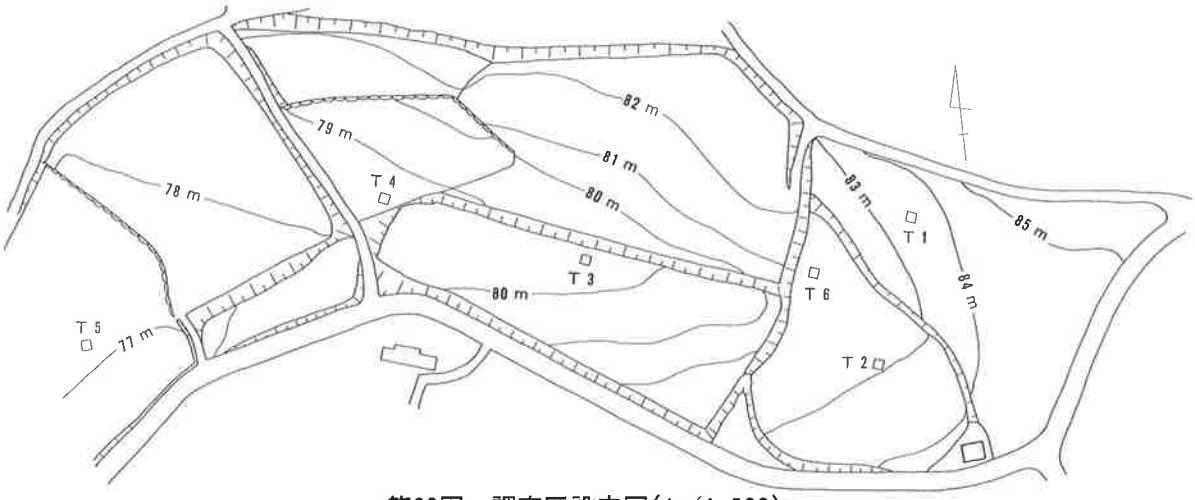
2．小船遺跡（第19図～第22図）

立地　市の西部、丘陵上の畑地に位置し、遺跡の南側には大岳がそびえている。遺跡の周辺には旧石器・縄文時代などの遺跡が存在していなかった。

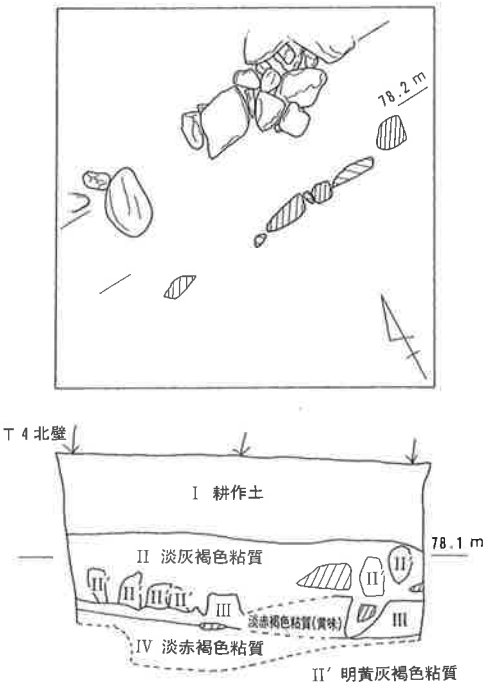
調査　国営農地再編整備事業の工事予定地区内の分布調査を行った結果、予定地内の遺跡の存在が予想されたのでその有無を確認するための試掘調査を行った。調査は５月13日から５月



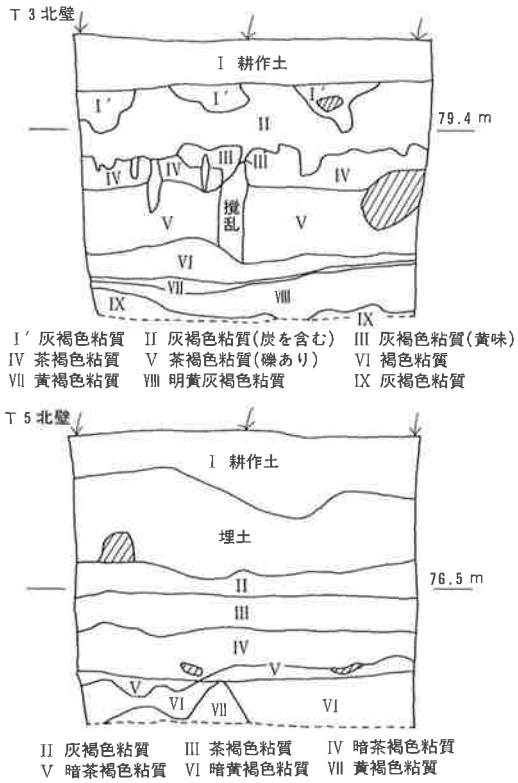
第19図　小船遺跡位置図(1／10,000)



第20図　調査区設定図(1／1,500)



第21図　Ｔ４遺構実測図及び土層図(1／40)



第22図　Ｔ３・Ｔ５土層図(1／40)

23日の期間に実施し、６カ所の調査区を設定した。

検出遺構　調査区のＴ５―Ⅲ層から集石遺構を１基検出した。礫の大きさは拳大から25cm程のものまであったが、掘り込みはもたなかった。この遺構の性格・用途などについては不明である。

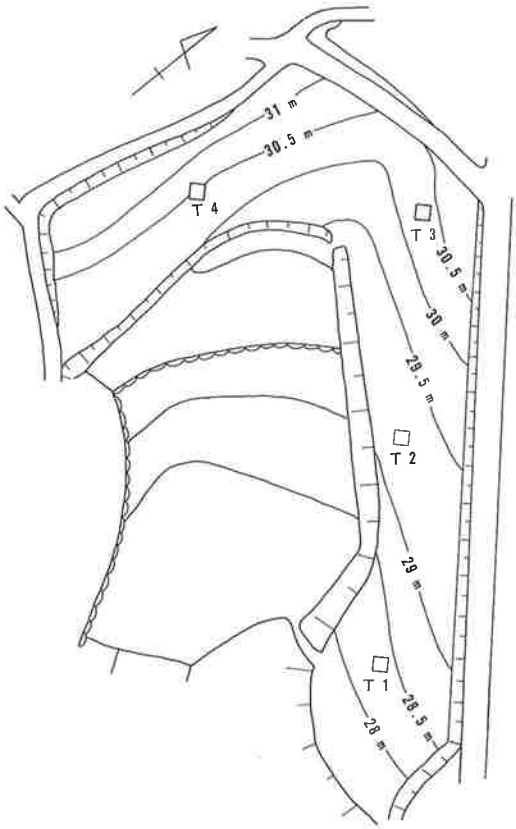
出土遺物　全体的に遺物の量は少なく76点であった。黒曜石製ナイフ形石器・台形石器・石鏃・石核・剥片・砕片、土師器、輸入陶磁器の龍泉窯系青磁碗Ⅰ―５類・白磁皿Ⅸ類が出土している。

この試掘調査で、工事予定地区内の約3,000m²に遺跡が確認されたため市教育委員会では、文化財保護法に基づく第57条の６の遺跡発見届を行うとともに、この調査結果を九州農政局北松農地整備事業所に報告するとともに遺跡の保護について協議を開始した。平成９年度は遺跡の保護ができない部分についての発掘調査を行う予定である。

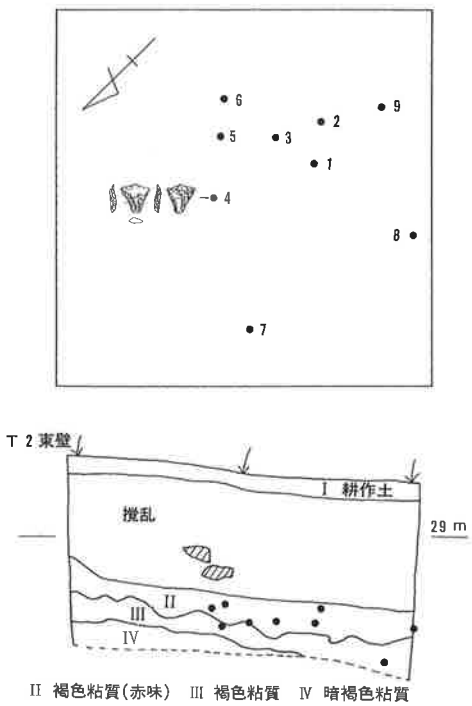
３．田口高野遺跡（タロコウヤ）（第23図～第25図）

立地　市の西部、国道204号線の北側の丘陵上に位置している。遺跡の南約１kmには北松浦郡田平町との境をなす坂瀬川が流れている。北東へ約800mの地点には下谷遺跡がある。

第23図　田口高野遺跡位置図(1／10,000)



第24図　調査区設定図(1／1,000)



第25図　Ｔ２遺物出土状況図及び土層図(1／40)

調査　調査は小船遺跡の試掘調査の終了後に引き続いて行った。調査期間は５月24日から６月４日まで実施し、４カ所の調査区を設定した。Ｔ１・Ｔ３の調査区とも耕作土の下から約60cm程は撹乱されており、地山へと続いていた。Ｔ２においてもＴ１・Ｔ３同様に約40cmから60cm程度が撹乱を受けていた。この畑地全体にあった遺物包含層の一部は、過去の造成によって撹乱を受けていると考えられる。しかし、Ｔ２においてはこの撹乱層の下に褐色粘質土層があり、約20cmから40cm程度の後期旧石器時代の台形石器を主体とする良好な遺物包含層が確認された。Ｔ４でも約30cmが撹乱を受けており、撹乱層の下の褐色粘質土層中から小量ではあるが安山岩製剥片などを検出した。

検出遺構　遺構の検出はできなかった。

出土遺物　遺物の総点数は108点であった。黒曜石製ナイフ形石器・台形石器・石鏃・剥片・砕片、安山岩製剥片、近世陶磁器などが出土している。

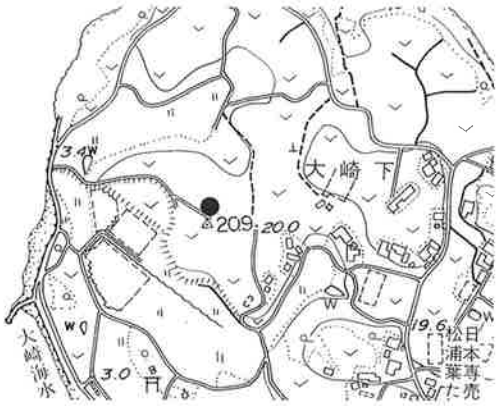
４．蕨（ワラビ）川遺跡（第26図～第28図）

立地　市の西部、玄界灘を望む海岸部に近い丘陵上に位置し、周辺一帯は畑地として利用されている。遺跡のすぐ北側には水尻Ｂ・水尻Ａ遺跡、南東には下谷遺跡を望むことができる。調査地には三等三角点（20.9m）がある。

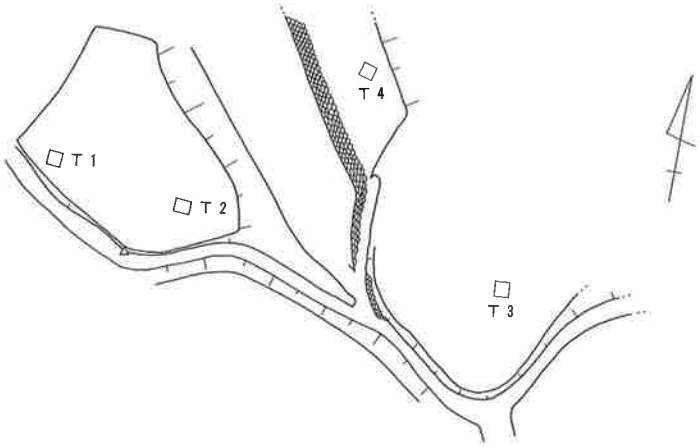
調査　調査は田口高野遺跡の終了後の６月５日から６月７日にかけて実施し、４カ所の調査区を設定した。

検出遺構　遺構の検出はなかった。

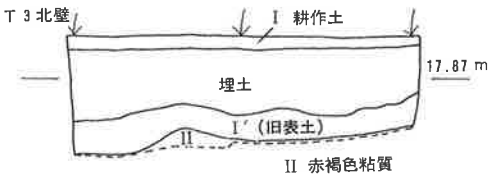
出土遺物　４カ所の調査区とも耕作土の下は撹乱を受けており、遺物包含層も無くすぐ地山へ続いている。遺物は耕作土と撹乱層から黒曜石原石・黒曜石製剥片・砕片、近世陶磁器の38点が出土している。



第26図　蕨川遺跡位置図(1／10,000)



第27図　調査区設定図(1／1,000)



第28図　Ｔ３土層図(1／40)

5．水尻Ｂ遺跡（第29図～第31図）

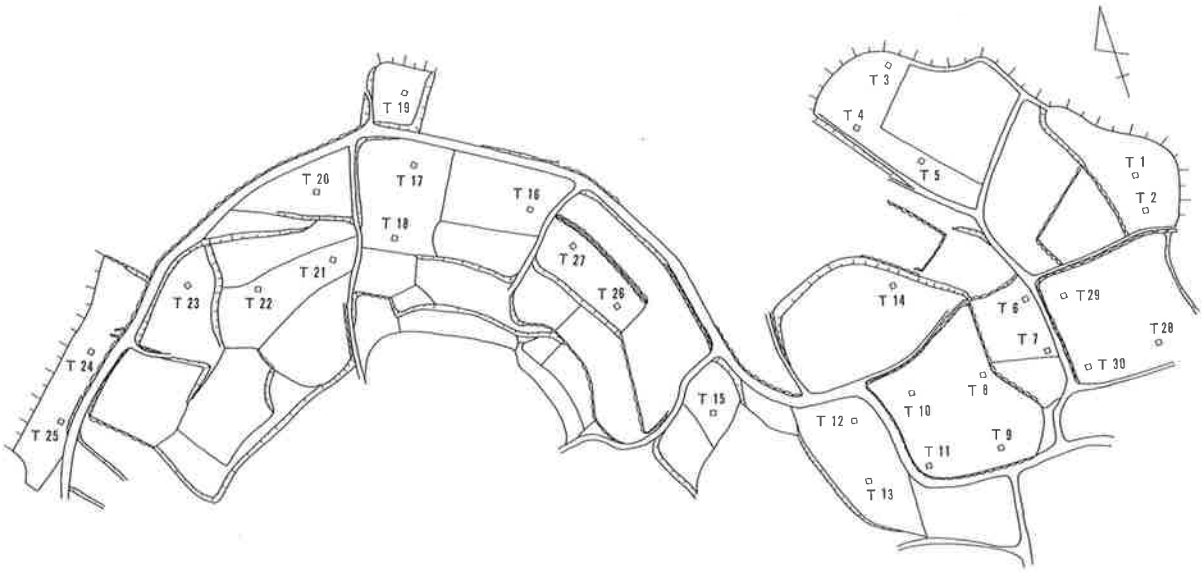
立地　市の北西部、玄界灘を望む海岸部に近い丘陵上の畑地に位置している。遺跡のすぐ南側に蕨川遺跡、東側に水尻Ａ遺跡が分布している。南東には下谷遺跡を望むことができる。

調査　調査は蕨川遺跡の調査終了後の６月７日から７月26日まで実施した。国営農地再編整備事業の工事予定地区は広範囲で東西約550m南北約250mに及んでおり、確認調査のための調査区も30カ所を設定した。

第29図　水尻Ｂ遺跡位置図(1／10,000)

検出遺構　遺構の検出はできなかった。

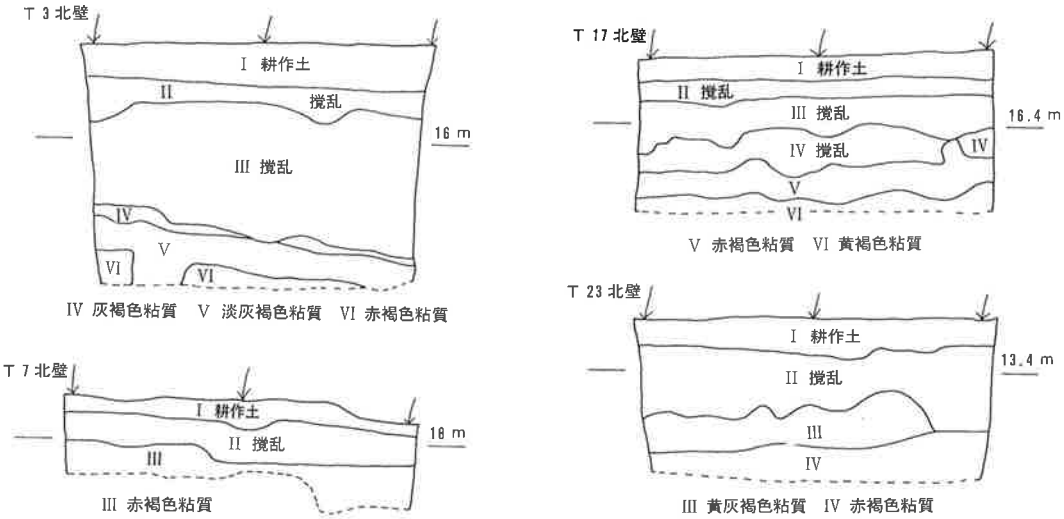
出土遺物　以前よりこの水尻Ｂ遺跡周辺においては、星鹿町牟田（牟田産黒曜石）と並んで黒曜石原石が多量に採集されていた。表採資料ではナイフ形石器・石斧・スクレイパーも採集されているようである。今回の確認調査では、ほとんどの調査区が撹乱を受けており、黒曜石の原石が大量に出土してはいるが、明確な石器や石核・剥片などの検出にはいたらず、表採資料でも黒曜石製ナイフ形石器・石鏃が採集されたのみであった。黒曜石原石は地山の赤褐色粘質の玄武岩風化礫層の上部の黄灰褐色から灰褐色を帯びた粘質土層から出土しており、上部にやや大きめの拳大の原石が出土し、下部に行くにしたがって原石の大きさは小振りになっていく傾向が見られた。この黒曜石特徴は原石の肉眼観察によると形状は円あるいは楕円形状を呈しており、表面に大きな凹凸が見られるものと見られないものがある。色調は黒色を呈し、ガラス光沢に富み不純物がないものと石英の粒を含んでいるものに区別される。原石の重量もほとんどが30ｇ以下のものが多かった。水尻Ｂ遺跡から出土した黒曜



第30図　調査区設定図(1／3,000)

石原石は牟田産黒曜石と同様に拳大より小さくて楕円形状を呈し、かつ扁平な原石が多いということになる。

調査によって出土した遺物は5,633点であった。そのうち黒曜石原石は5,032点で全体の88.86％で、灰青色黒曜石原石は193点で3.84％であった。土器では中世の輸入陶磁器の青磁片１点と土師器３点、近世陶磁器が撹乱層から出土している。30カ所の調査区いずれからも遺物包含層の検出にはいたらなかった。

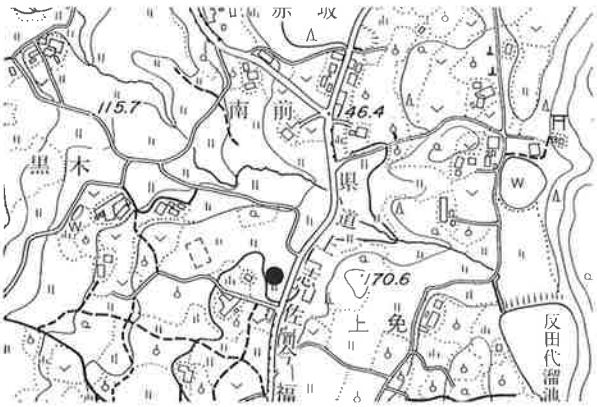


第31図　Ｔ３・Ｔ７・T17・T23土層図(1／40)

６．松園遺跡（第32図～第34図）

立地　市の東部、県道上志佐今福停車場線の西側に隣接した丘陵の水田部に位置している。県道の東側には中世の松園屋敷跡がある。

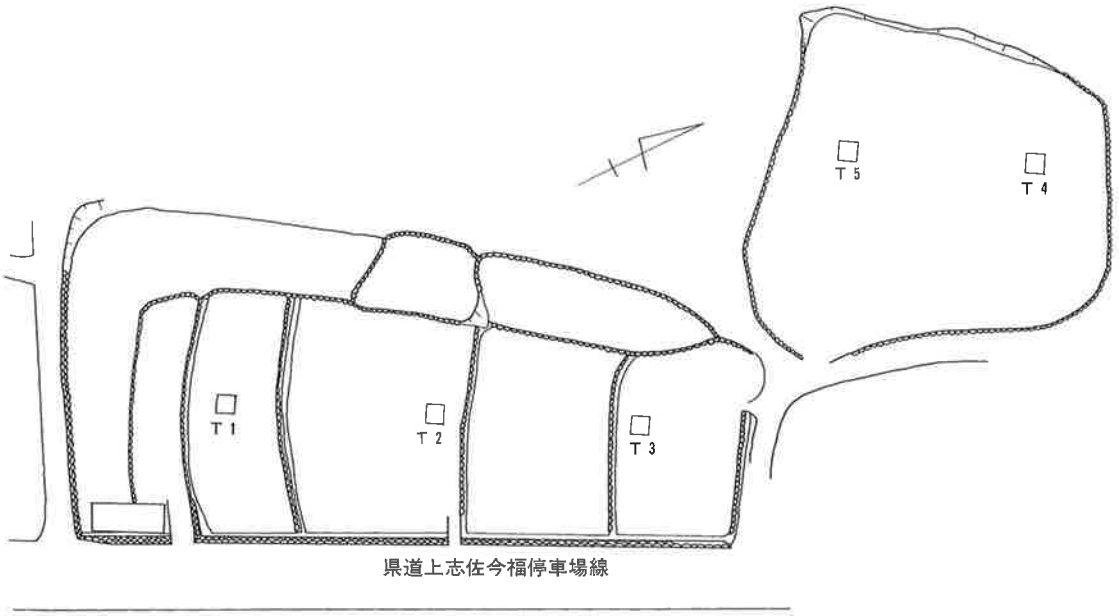
調査　国営農地再編整備事業の工事予定地区内の分布調査を行った結果、隣接地で黒曜石製石鏃・剥片などの石器を採集したので、予定地内の遺跡の有無を確認するための試掘調査を行った。調査は国営農地再編整備事業に伴う今福遺跡の本調査終了後の、平成９年２月24日から３月３日まで実施し、５カ所の調査区を設定した。



第32図　松園遺跡位置図(1／10,000)

検出遺構　遺構の検出はできなかった。

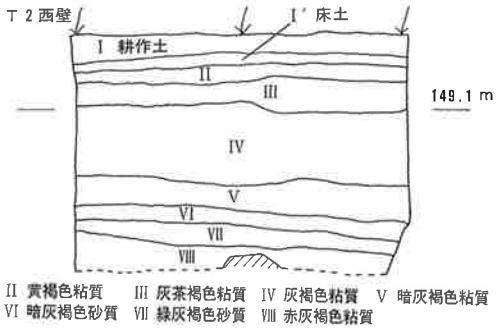
出土遺物　出土した遺物の点数は216点である。Ｔ４・５では耕作土及び撹乱層からの出土で、Ｔ１から３は耕作土の床土以下に青灰褐色あるいは緑灰褐色の粘質土層があり、土黒曜石製剥片・砕片、中世の土師器・白磁皿・青磁、近世の陶磁器が出土している。この水田部はかつて谷状になっていた



第33図　調査区設定図(1／1,000)

ことがうかがえ、たび重なる流れ込みによって現在の地形になったと思われる。

中世の遺物の出土は松園屋敷跡の年代を考える上で重要ではないだろうか。



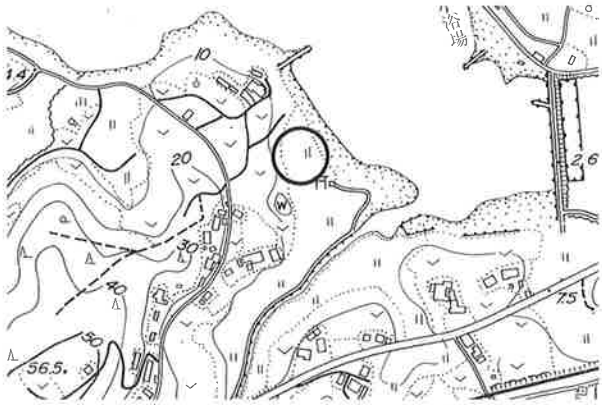
第34図　Ｔ２土層図(1／40)

７．下谷（シタダニ）遺跡（第35図～第37図）

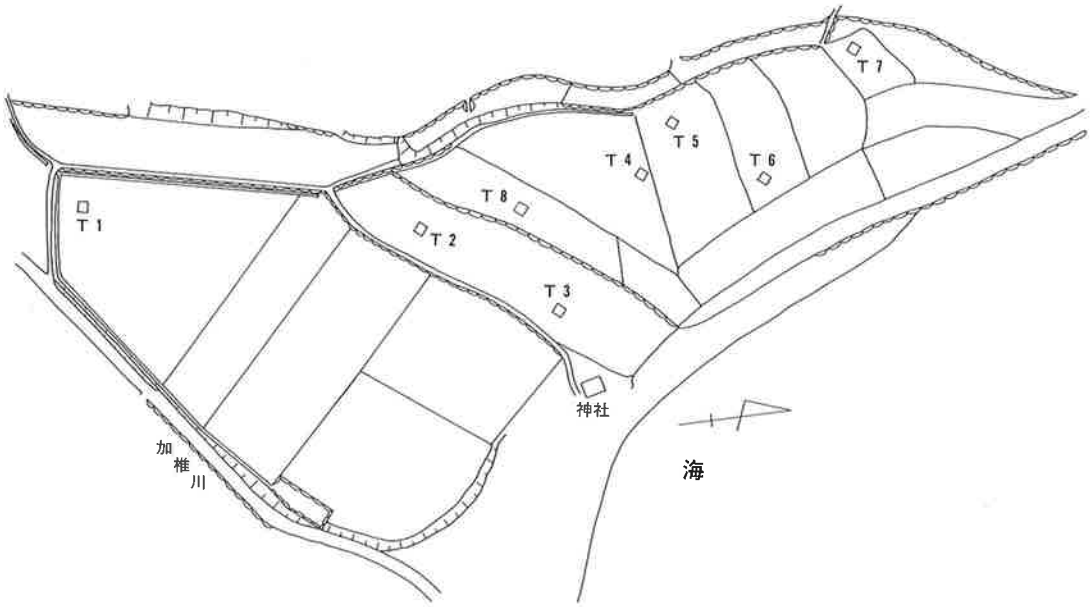
立地　市の北西部、玄界灘を望む海岸部・加椎川の河口の水田部に位置している。遺跡の北東には蕨川遺跡、東側の海岸部には小嶋遺跡・小嶋古墳群が分布している。

調査　調査は国営農地再編整備事業に伴う今福遺跡の本調査の終了後の、平成９年２月24日から３月６日まで実施し、８カ所の調査区を設定した。

検出遺構　遺構の検出はできなかった。

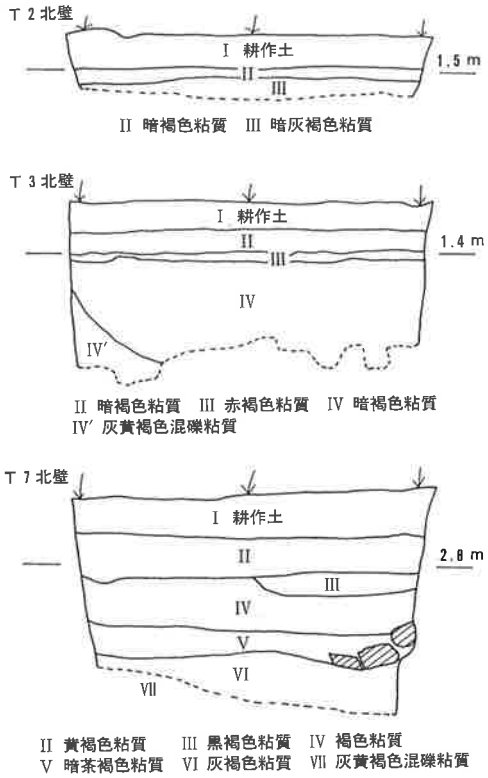


第35図　下谷遺跡位置図(1／10,000)



第36図　調査区設定図(1／1,500)

出土遺物　8カ所の調査区から出土した遺物の総数は2,883点で、そのうちの78.5%が縄文時代の石器であった。遺物には黒曜石製石鏃・剝片鏃・つまみ形石器・石錐・彫器、石斧、スクレイパーなどがあった。縄文土器は破片点数で469点となっており出土遺物の16.27%を占めている。時期的には縄文後期の鐘ケ崎式土器などが出土している。その他では、土師器・須恵器・輸入陶磁器などが出土している。この調査結果を九州農政局北松農地整備事業所に報告するとともに遺跡の保護についての協議に入っている。



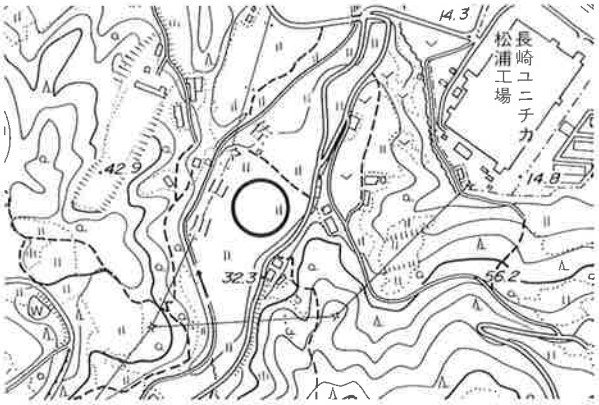
第37図　T 2・T 3・T 7 土層図(1／40)

Ⅴ　平成９年度の確認調査の概要

国庫補助を受けて確認調査を実施した６遺跡について、その調査を以下に概説する。

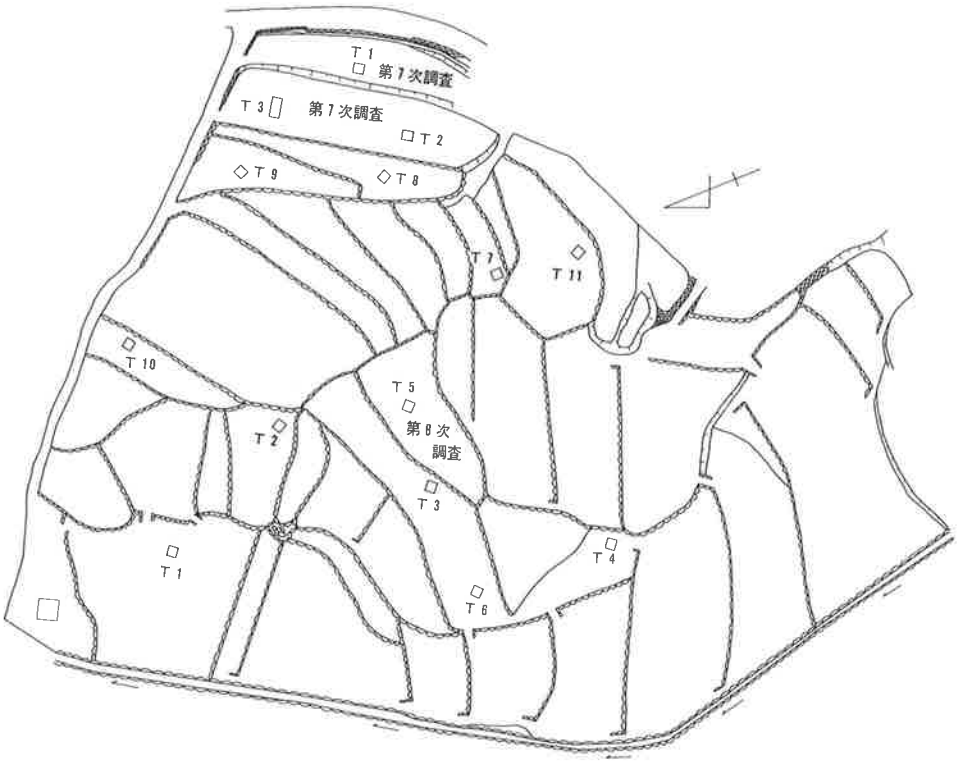
１．栢ノ木遺跡（第38図～第41図）

立地　市の中央部で、志佐川中流域の左岸と志佐川の支流である佐々山川の右岸の水田部に位置している。遺跡は東西約600m南北約900mの広範囲に分布しており、遺跡内には堂山古墳もある。志佐川の対岸には宮ノ下り遺跡・久保園遺跡・陣ノ内城跡が立地している。

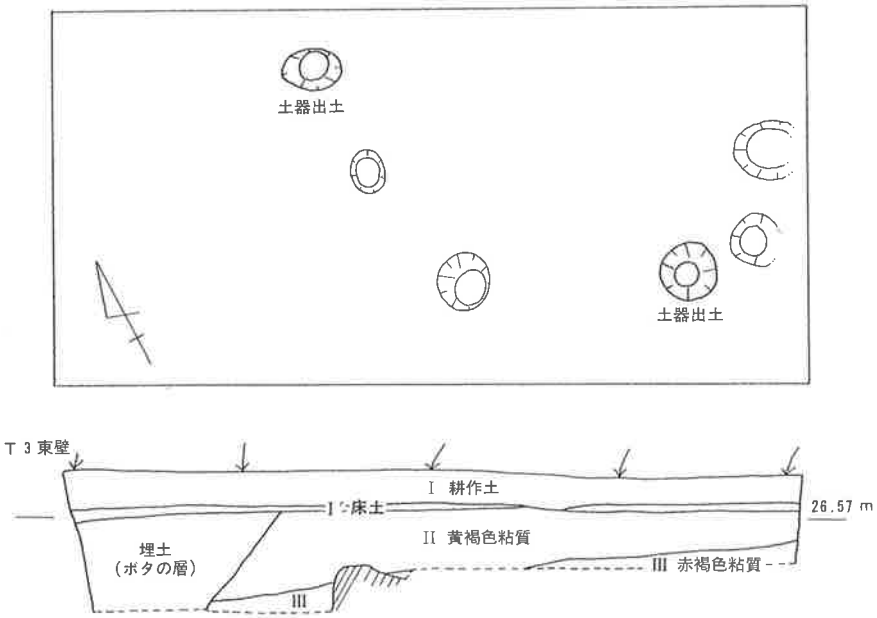


第38図　栢ノ木遺跡位置図(1／10,000)

調査　第７次調査は簡易水道施設建築に伴う確認調査で６月19日から６月24日にかけて実施し、３カ所の調査区を設定した。第８次調査は受益者３名による圃場整備事業に伴う確認調査で、第７次調査のすぐ西側の水田部で、10月15日から10月22日にかけて実施した。調査区は11カ所を設定した。第７次調査地は全体に炭鉱のボタを埋めて整地してあり、付近の炭鉱（栢木・長松炭鉱など）から搬入されたものと思われる。



第39図　調査区設定図(1／1,500)



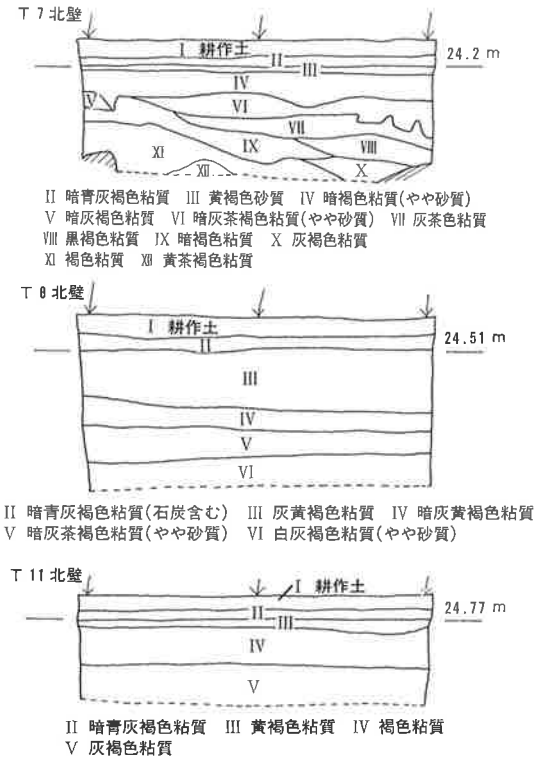
第40図　T 3 遺構実測図及び土層図(1／40)

検出遺構　第７次調査ではT３でII層の黄褐色粘質土層の下層東側で直径約20cmから40cmのピットを６個検出した。覆土は灰黒褐色・黒褐色土層であった。また、３カ所とも炭鉱に関連するボタの層があり、T１で約0.9m以上、T２で0.95m、T３で0.5m以上が堆積していると思われる。

第８次調査では遺構を検出することはできなかった。T１では耕作土の下にボタの層を、T２では佐々山川の氾濫を受けている所が確認された。

出土遺物　第７次調査では90点の遺物が、第８次調査では278点が出土している。遺物には黒曜石製石鏃・剥片・砕片、弥生土器、須恵器などがある。T９―V層から石庖丁が１点出土している。

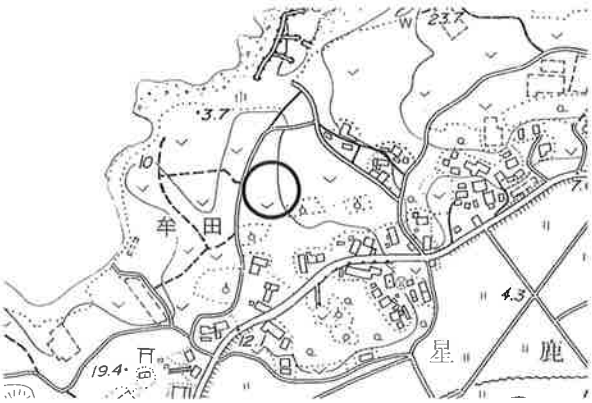
第７次調査T３で検出したピットは弥生期の掘立柱建物跡であろう。しかし、第８次調査でT８・９では遺構も確認できなかったため掘立柱建物跡はT３周辺の狭い範囲にあるものと思われる。



第41図　T７・T８・T11土層図(1／40)

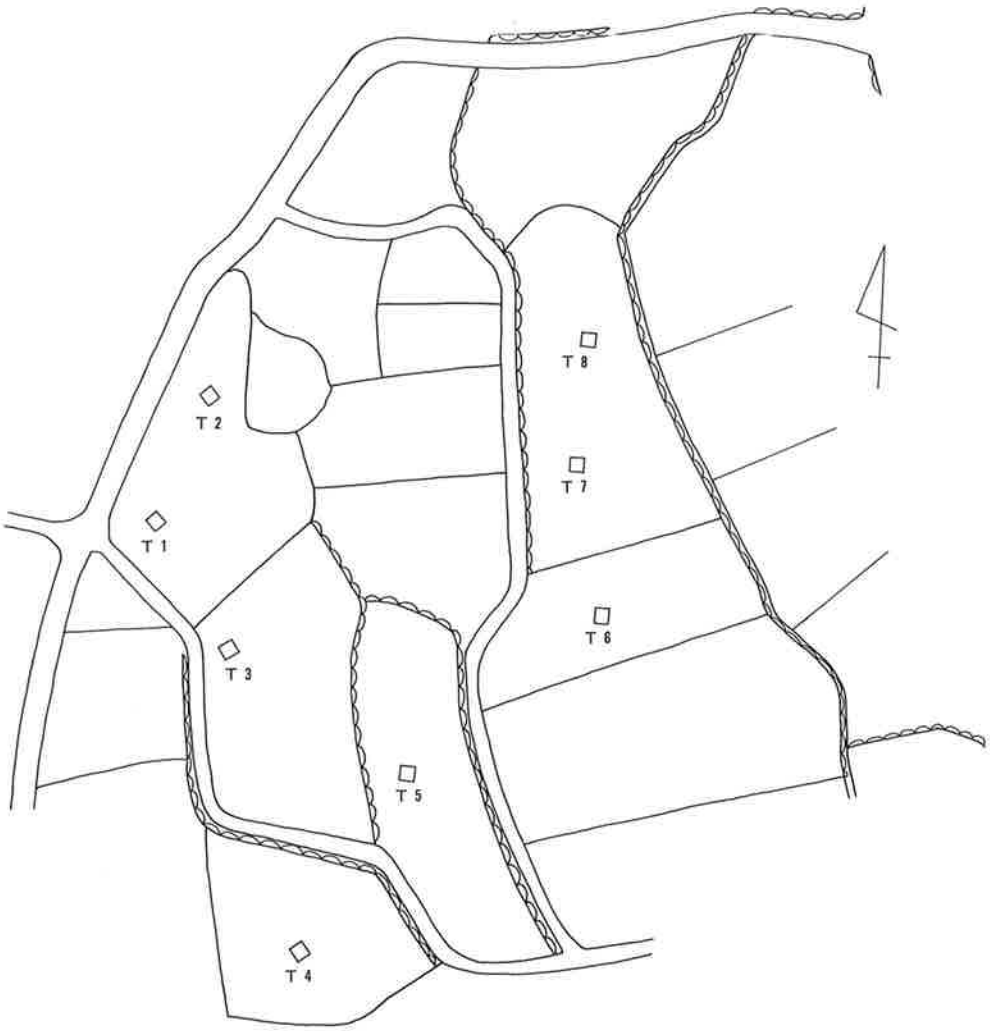
2．牟田Ａ遺跡（第42図～第44図）

立地　市の北西部、玄界灘を望む星鹿半島の西海岸部の丘陵上の畑地に位置している。近くには牟田港があり、北東には牟田Ｂ遺跡が分布している。牟田地区では昭和57年と昭和58年に小規模排水対策特別事業に伴う佐世保崎遺跡と牟田池上遺跡の確認調査を実施している。



第42図　牟田Ａ遺跡位置図(1／10,000)

調査　調査は栢ノ木遺跡の調査終了後の６月24日から７月４日まで実施した。国営農地再編整備事業の工事予定地区は畑地と水田部があったが、畑地のみの調査を行った。調査区は８カ所を設定した。

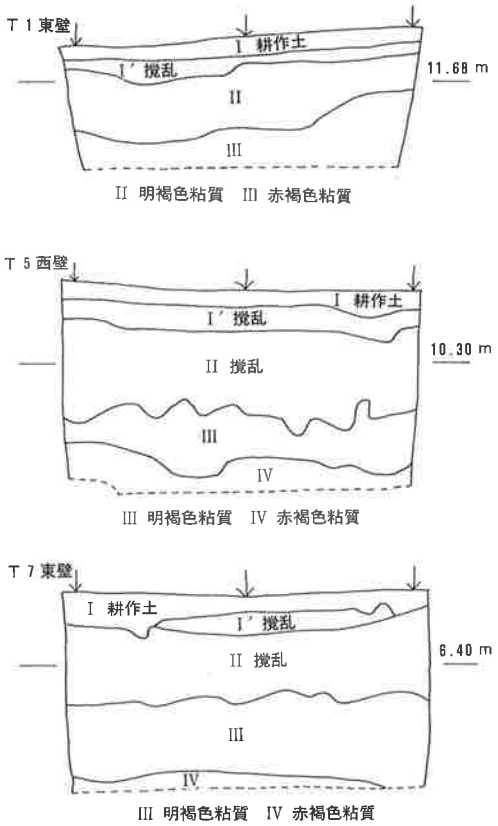


第43図　調査区設定図(1／1,000)

検出遺構　遺構の検出はできなかった。

出土遺物　調査によって出土した遺物は1,016点であった。Ｔ３・４では耕作土の下は撹乱層がありその下は地山の赤褐色粘質玄武岩風化土層であった。Ｔ５では0.5m、Ｔ６・７・８でも耕作土の下は深さ0.35mから0.4mにわたって撹乱を受けていた。Ｔ１・７・８では大量の黒曜石原石が出土している。黒曜石原石は撹乱層及び撹乱層下の褐色粘質土層からの出土であった。しかし、旧石器・縄文時代の遺物包含層は検出することができなかった。

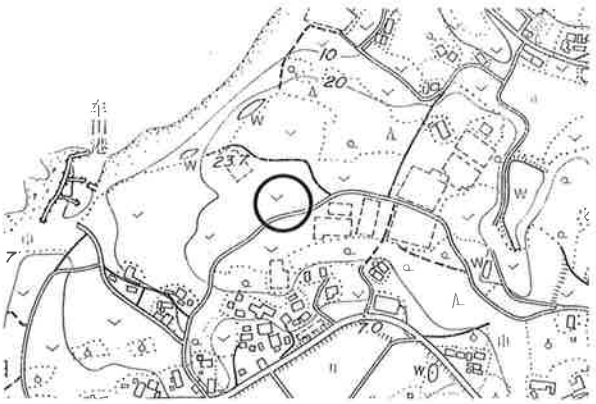
牟田産黒曜石は、旧石器時代より各地で石器製作の母岩として利用されており、その半径は約200kmの範囲まで分布しているようであるが、原産地に近い遺跡ほど多く利用されている傾向がある。しかし、縄文時代になると伊万里市の腰岳産黒曜石が多用される傾向が松浦市内の遺跡からもうかがえる。



第44図　Ｔ１・Ｔ５・Ｔ７土層図(1／40)

３．牟田Ｂ遺跡（第45図～第47図）

立地　市の北西部、玄界灘を望む星鹿半島の西海岸部の丘陵上の畑地に位置している。近くには牟田港があり、南東には牟田Ａ遺跡が分布している。

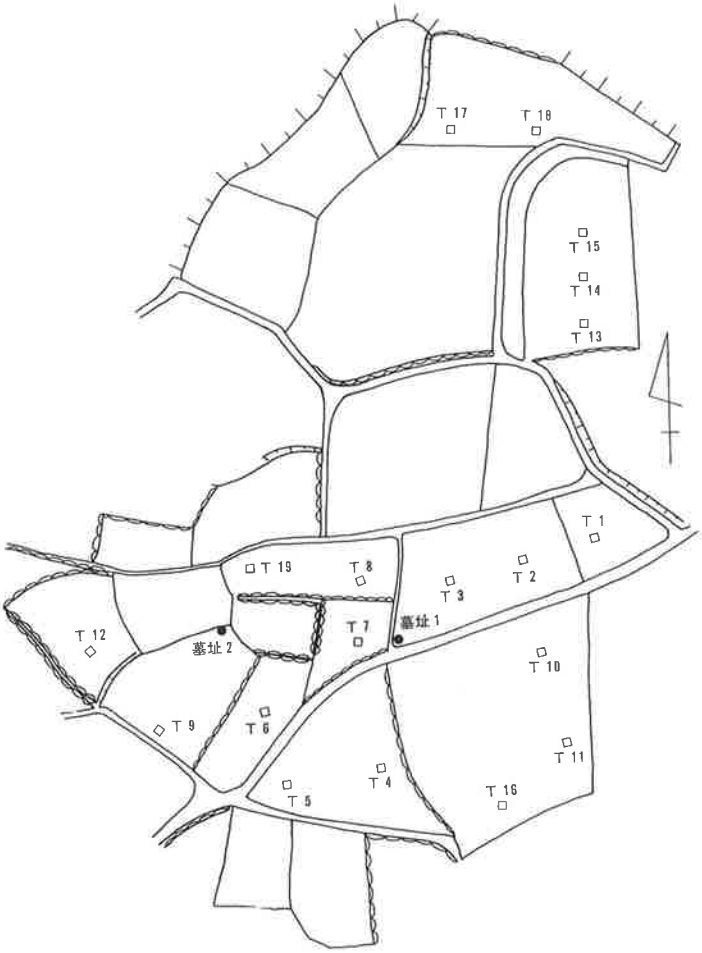


第45図　牟田Ｂ遺跡位置図(1／10,000)

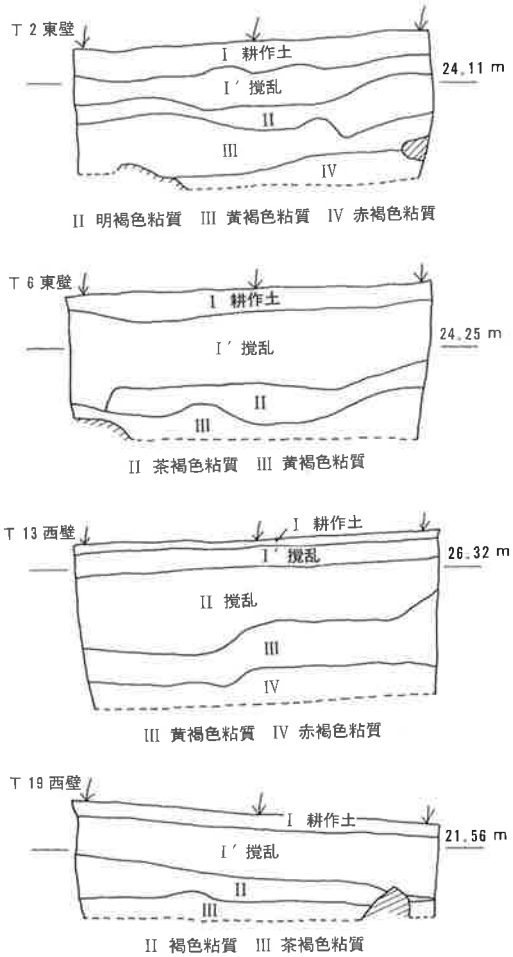
調査　調査は牟田Ａ遺跡の調査終了後の７月15日から８月18日まで実施した。国営農地再編整備事業の工事予定地区は広範囲で東西約320m南北約240mに及んでおり、現状は畑地や休耕地になっている。調査区は工事予定地区内に19カ所設定した。なお、葉タバコが植えてある畑地は調査区から除外した。

検出遺構　遺構の検出はできなかったが、Ｔ３とＴ７間の雑木林の中に宝篋印塔を持つ積石の墓址と、Ｔ９北側隅に自然石を利用した石小積の墓址があり、現在でもお祀りが行われているようである。この２カ所の墓址については九州農政局北松農地整備事業所と保護についての協議中である。

出土遺物　19カ所のすべての調査区は耕作土の下に撹乱層があり、本来の黒曜石原石が出土する土層は褐色粘質土層でＴ１～４・６・８・９・11・13～15・17～19で検出できた。11・16では茶褐色粘質土層から出土している。出土した遺物は1,640点であった。Ｔ14―Ⅱ層からは安山岩製ナイフ形石器



第46図　調査区設定図(1／3,000)

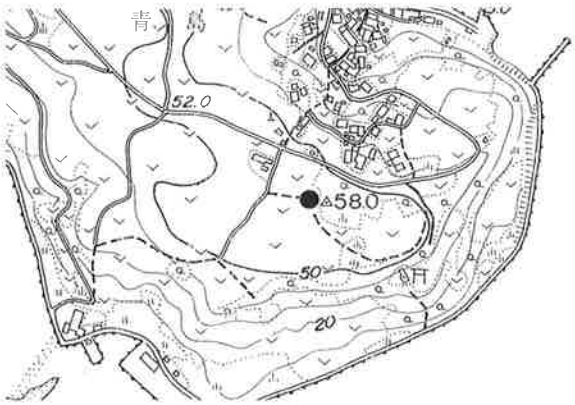


第47図　Ｔ２・Ｔ６・Ｔ13・Ｔ19土層図(1／40)

が出土している。表採資料としては黒曜石製ナイフ形石器、安山岩製石匙、黒曜石製石鏃・サイドスクレイパーがある。旧石器・縄文時代の遺物包含層は検出することができなかったが、Ｔ３の撹乱層から胎土に滑石粉を混入した縄文中期の土器片、Ｔ10の撹乱層からも無文の土器片が出土しているため、本来はＴ３・10の周辺に縄文時代の遺物包含層が狭い範囲に分布していたものと考えられ、それが撹乱を受けたものと思われる。

４．青島遺跡（第48図～第50図）

立地　市の北部、御厨港から定期船で約30分で青島港に至る。干潮時には青島と陸続きになる松島を属島として、北から南西に向かって弓なりに湾曲する瓢箪型の島である。島は周囲約10km、面積は0.9km²である。遺跡は港の南西にあり、島内でも一番標高の高い地点に位置している。遺跡の周囲は畑地として利用されている。



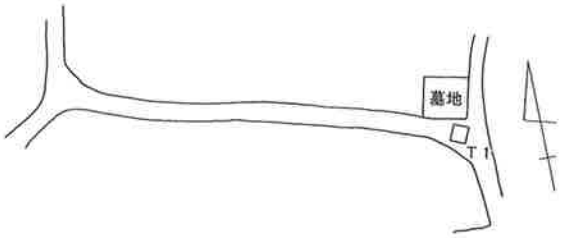
第48図　青島遺跡位置図(1／10,000)

調査　調査は農道整備事業に伴う確認調査で、10月６日と10月７日の２日間実施し、現在も使用されている道路に調査区を１カ所設定した。

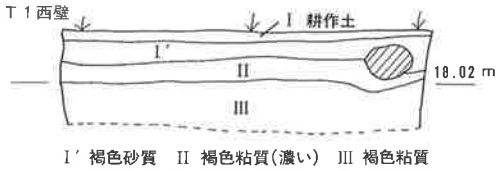
検出遺構　遺構の検出はできなかった。

出土遺物　遺物は調査区から出土しなかった。

周辺の畑地からは表採資料としてナイフ形石器・台形石器を採集している。



第49図　調査区設定図(1／1,000)



第50図　Ｔ１土層図(1／40)

５．段ノ上遺跡（第51図～第53図）

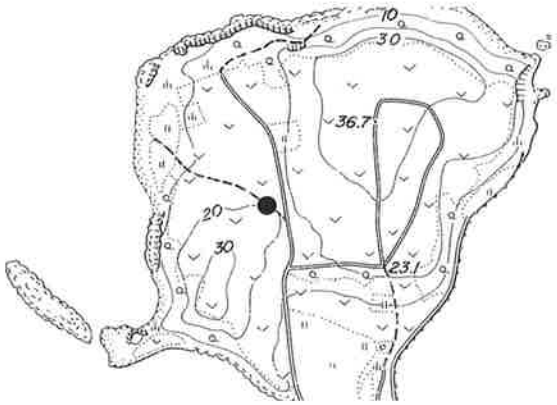
立地　市の北部、青島の北部の丘陵上に位置している。島内でも二番目に高い地点に位置している。遺跡の周囲は畑地で、西側の海岸部には水田が営まれている。

調査　調査は農道整備事業に伴う確認調査で、青島遺跡の調査後の10月７日の午後からと10月８日の２日間実施した。調査区は現在も使用されている道路に２カ所設定した。

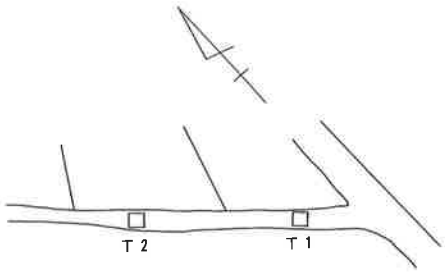
検出遺構　遺構の検出はできなかった。

出土遺物　遺物はＴ１―II層の灰褐色粘質土層から安山岩原石３点と黒曜石製剝片１点の出土があった。Ｔ２では耕作土から弥生土器１点が出土している。調査期間中には段ノ上遺跡の南側、字丸島の海岸部の畑地において新たな遺跡を発見した。灰黒褐色粘質土の表面から弥生土器・土師器・須恵器・獣骨を採集した。

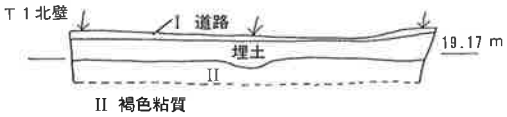
今後は、さほど広くない島内において青島・段ノ上遺跡の二つの遺跡が同時に存在していたのか、あるいは若干の時間差があるのか資料の増加を待って再検討したいと考えている。



第51図　段ノ上遺跡位置図(1／10,000)



第52図　調査区設定図(1／1,000)



第53図　Ｔ１土層図(1／40)

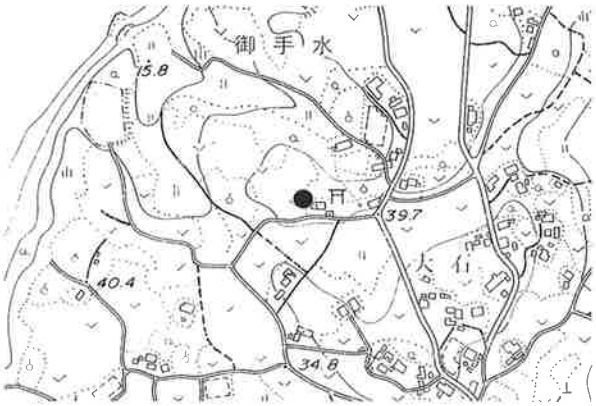
６．津崎遺跡（第54図～第56図）

立地　市の北西部、玄界灘を望む星鹿半島の先端部丘陵上の畑地に位置している。付近には北側に津崎鼻遺跡、東側に大石Ｂ遺跡、南側に大石Ａ遺跡、南東に大石Ｃ・千人塚などが分布しており、半島の先端部一帯は遺跡の宝庫でもある。特に大石Ａ・Ｃ遺跡周辺では黒曜石原石が多量に採集されている。

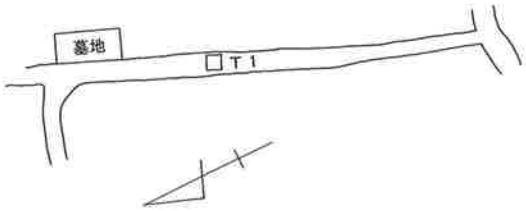
調査　調査は農道整備事業に伴う確認調査で、10月13日の１日間のみ実施した。調査区は現在も使用されている道路に１カ所設定した。

検出遺構　遺構の検出はできなかった。

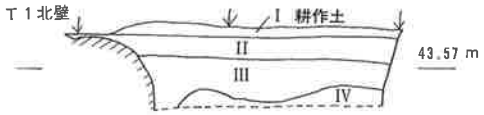
出土遺物　調査区からは48点の遺物が出土している。II・III層には黒曜石製台形石器・石核・剥片・砕片があった。III層の下は地山の赤褐色粘質玄武岩風化土層となる。台形石器は、百花台タイプが出土している。



第54図　津崎遺跡位置図(1／10,000)



第55図　調査区設定図(1／1,000)



II 黄褐色粘質　III 茶褐色粘質　IV 赤褐色粘質

第56図　Ｔ１土層図(1／40)

Ⅵ　出土遺物の概要

黒曜石製の石器や剝片、安山岩などの比較的小さな剝片を利用した石器は第57図～第61図に図示し、安山岩などの大型の剝片石器やその他の大型石器は第62図に図示した。

旧石器時代の石器（第57図）

１～８はナイフ形石器、９～18は台形石器である。ナイフ形石器は二側縁加工（１～５）と一側縁加工（６～８）に分類した。二側縁加工のうちの１～４は細身に、５は幅広にされている。１～４は縦長剝片、５は横長剝片を利用し、打点はブランティングによって除去されている。いずれもほとんどが主要剝離面からブランティングを行っている。３は主要剝離面に両側縁より基部調整がなされている。５には背面基部付近の稜に使用痕らしき磨滅がみられる。一側縁加工の８は細身、６・７は幅広に形成されている。６・７は横長剝片、８は縦長剝片が使用され、ブランティングは主要剝離面から施されている。７・８には抉入加工を施し、８は基部を切断して使用している。

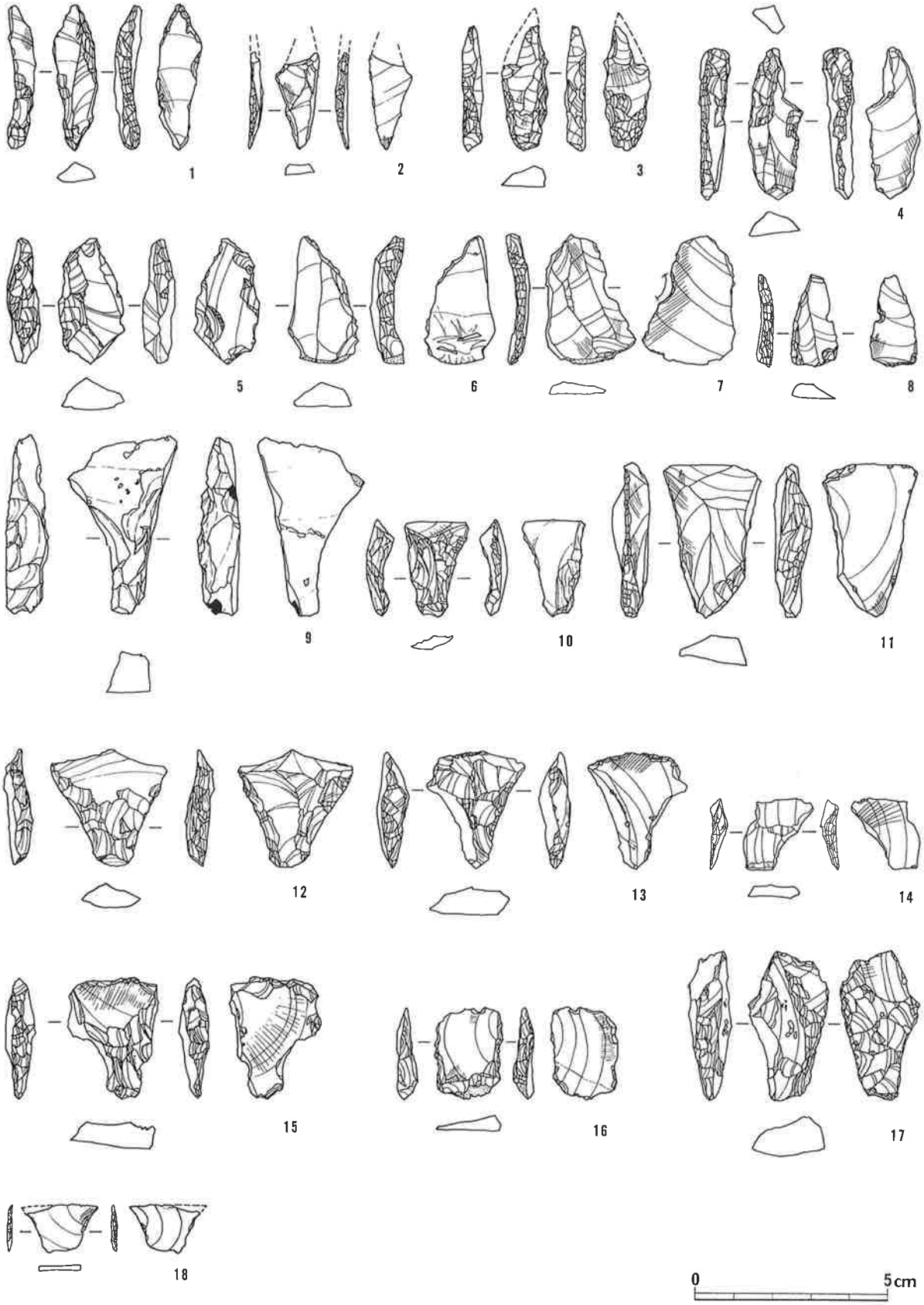
台形石器は、大きく五つの形態に分類した。まず、最も多いのが主要剝離面側まで平坦剝離が施されているもの、つまり撥状のものである。これは、側縁から剝離調整を行った後、ブランティングを施したもので、刃部が長いものが多く、９・10・12・13・15が該当する。９・12以外は側縁に打点をもつ横長剝片を利用し、打点は５点ともブランティングによって除去されている。ブランティングは背面・主要剝離面から行われ、不規則である。10・12は刃部に使用痕が残り、13の背面・主要剝離面の稜のほぼ中央に使用痕と思われる磨滅がみられる。13・15は左側縁に主要剝離面からのブランティングによる抉入加工を施し、それが右側縁からのブランティングと交錯している点で、西輪久道遺跡下層と柿崎遺跡から出土の台形石器に類似する。11はブランティングが両側縁にとどまるものである。横長剝片を素材とし、打点をブランティングによって除去している。主要剝離面からブランティングを施すが、背面右下部に平坦剝離を施している。16は日ノ岳型台形石器で、縦長剝片を素材としている。左右のブランティングは主要剝離面から行っているが、刃部の一部にも背面から施す。14・18は百花台型台形石器である。14はやや厚手であるが、18は薄い縦長剝片を素材としている。双方とも、刃部に使用痕が残る。17は異形の台形石器とした。ブランティング加工は、背面左側縁は主要剝離面から、中央稜は背面から、それぞれ垂直方向に行われている。主要剝離面は、左側縁から右方向に平坦剝離を施し、基部を形成している。

縄文時代の石器（第58図～第61図）

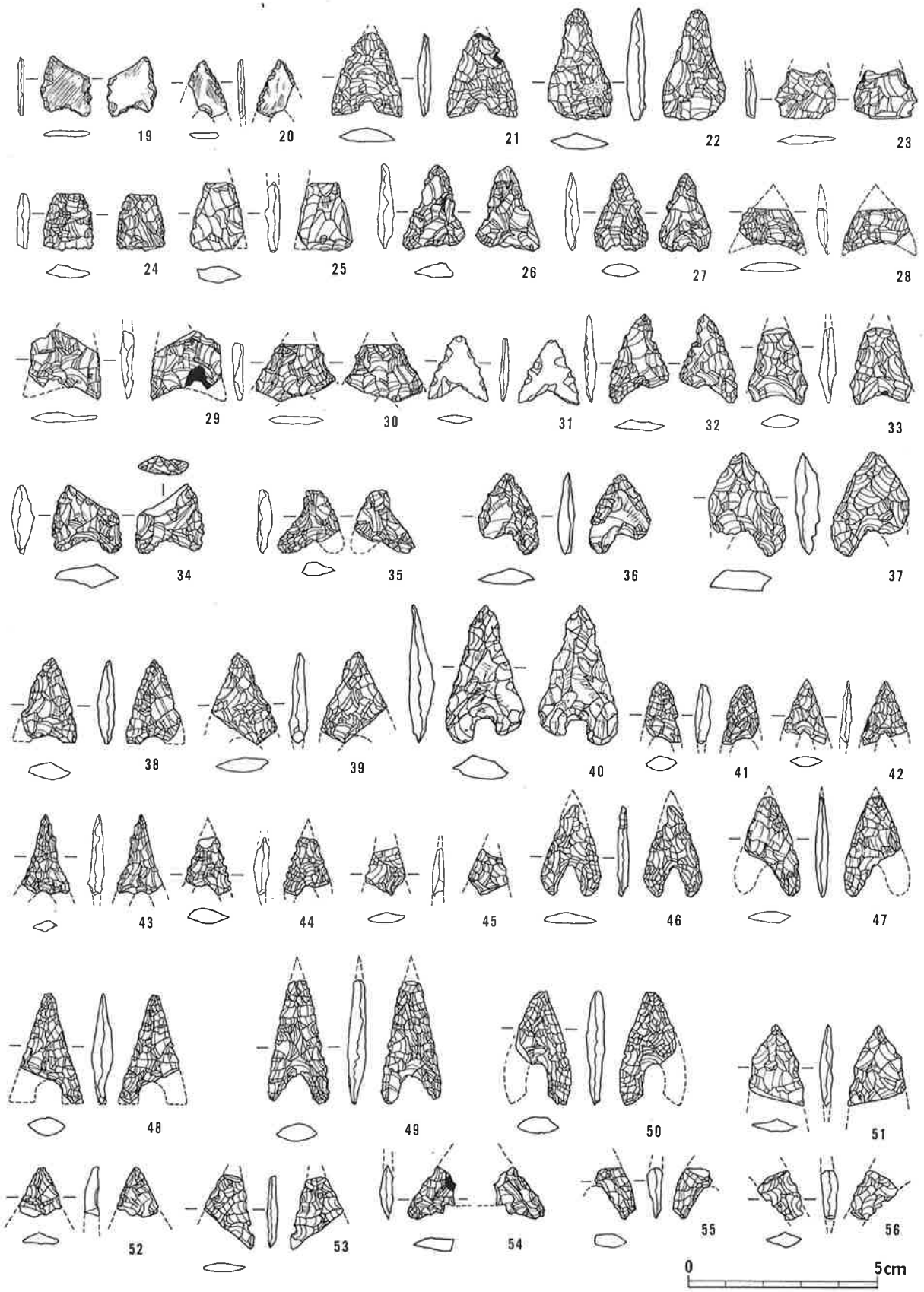
石鏃は第58図、剝片鏃は第59図に図示した。19・20は局部磨製石鏃で、全面研磨されている。21は鍬形鏃で、19～21は早期の所産である。26には一部に擦痕があり、27・31・32・44の側縁には、鋸歯状加工がみられる。剝片鏃は不定形なものがほとんどで、特に、57・58・62・66は片脚不作出である。

つまみ形石器（第60図70～75）は、70・74が背面から、71～73・75が主要剝離面から各々抉入加工の最も細い所で切断されている。

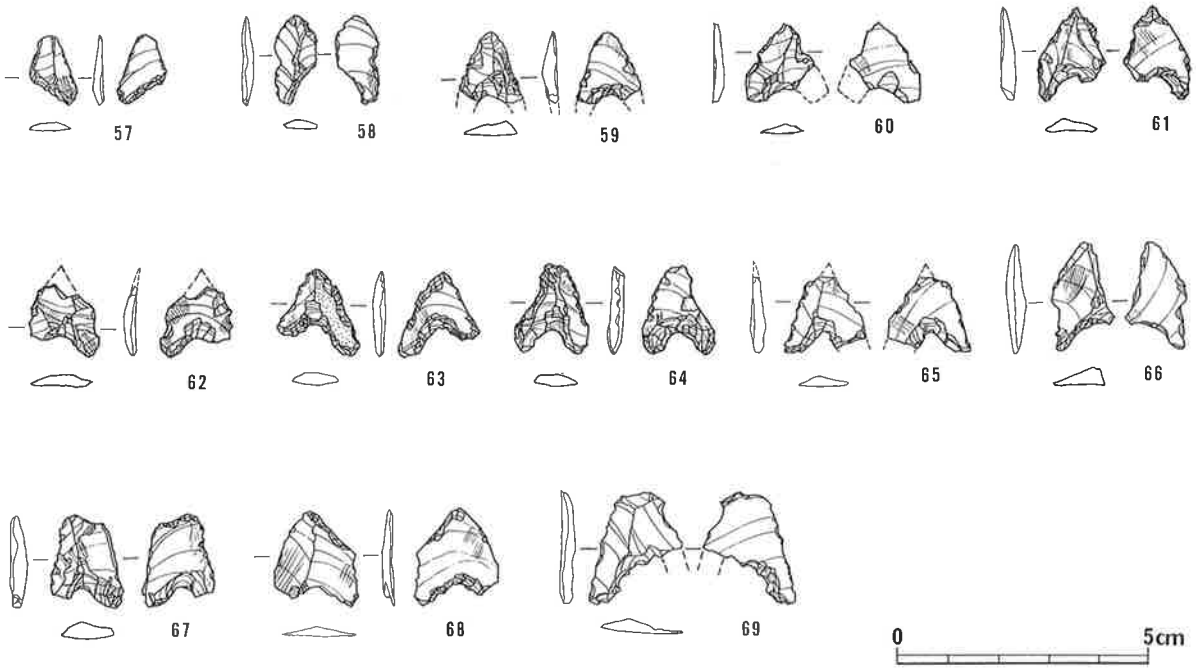
石錐（第60図76・77・79、第61図92）について、79以外は錐部に使用したと思われる磨滅がある。



第57図　出土遺物実測図１（2／3）



第58図　出土遺物実測図２（２／３）



第59図　出土遺物実測図３（２／３）

76はつまみ形石器の転用品と考えられる。

78は石匙である。つまみ部分は欠損しているが、平坦剥離による側縁加工が丁寧で、縦断面は細い楕円形を呈する。

スクレイパー（第60図80・81、第61図91）は、すべて横長剥片を素材として使用している。80は右側縁に主要剥離面から刃潰し加工を施し、主要剥離面は右側縁から新しく平坦剥離を行っている。81は周囲に剥離調整を施し、使用痕もみられるので、ラウンドスクレイパー的な要素をもつと思われる。91はサイドスクレイパーであるが、製作時に石核の状態で刃部となるべき部分の剥離調整を行い、主要剥離面左上部から剥片剥離したもので、周囲に使用痕が残る。

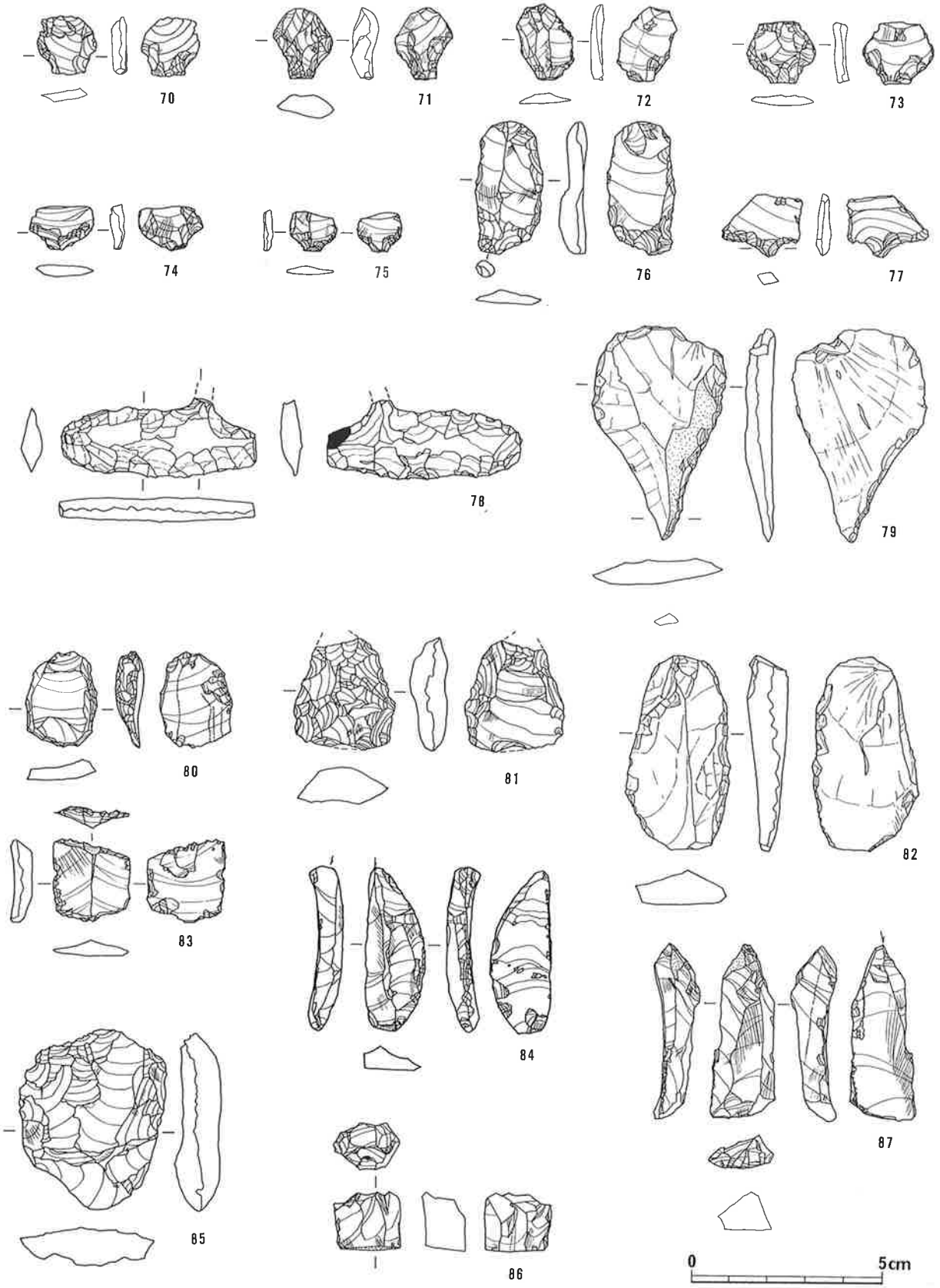
彫器（第60図84・87）は、共に左側面に上部から樋状剥離がみられ、使用痕が残る。

第60図82・83、第61図88～90・93は使用痕ある剥片である。83については上端にブランティングがみられることから、右側縁を刃部とする旧石器時代の台形石器と思われるが、主要剥離面上部・下部と右側縁に加工痕と使用痕がみられるため、転用したものと考えられる。

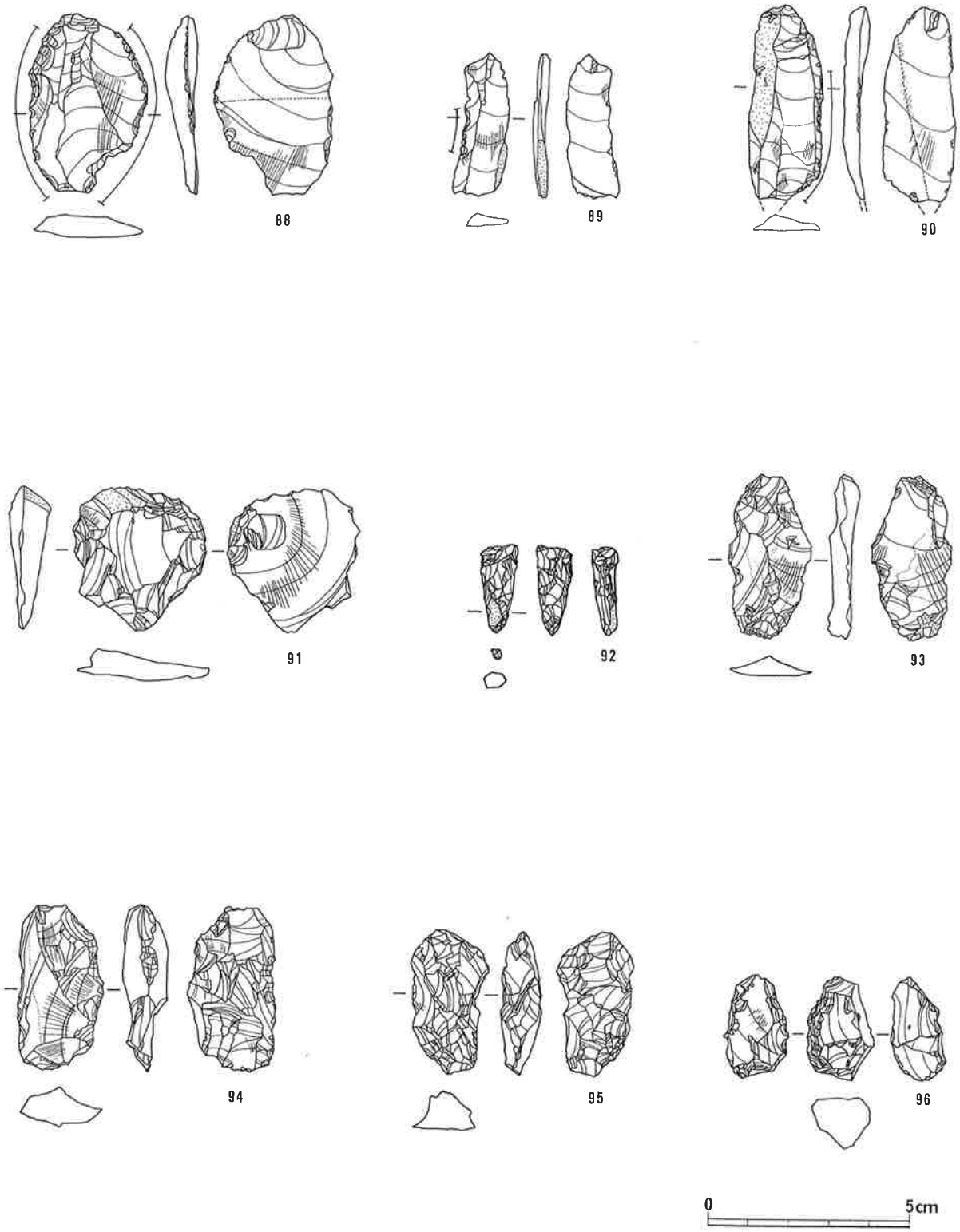
石核（第60図85・86、第61図94～96）では、86はすべての剥離が上部からであるのに対し、他は側縁全体から剥離されている。85は円礫を半截し、自然面からその半截面に平行に剥離している。94・95は主要剥離面を平坦剥離し、打面調整を行っている。

第62図97～99は大型の剥片石器でスクレイパーとして使用されたものである。97・99は明確な刃部調整が施されており、99にいたっては、ラウンドスクレイパーとして使用したと思われ、周囲が刃潰し状に磨滅している。

第62図101・102は打製石斧、103・104は磨製石斧と思われるものである。103・104は磨滅がひどく、



第60図　出土遺物実測図４（2／3）



第61図　出土遺物実測図５（２／３）

加工痕は不明瞭である。104はおそらく天然の石材をあまり手を加えずに利用したものと思われる。

敲石（第62図105）は円礫を使用している。周囲は平らにつぶれ、左側縁には擦痕がある。背面は新しい欠損があり不明だが、裏面は中央が凹んでいる。

弥生時代の石器（第62図100・106）

100は柱状片刃石斧で、刃部は不完全である。刃部は粗雑な剝離加工で、背面は擦切加工を行っている。106は石庖丁の刃部である。刃部はかなり磨滅しており、紐通し孔が半円残っている。

第63図～第65図は土器であるが、縄文・弥生時代の土器を第63図・第64図24～28、古墳時代・古代・中世の土器を第64図29～48、中世の陶磁器を第65図に図示した。

縄文時代の土器（第63図１～８）

１は鐘ヶ崎式土器の深鉢の口縁部の資料である。口縁部には磨消縄文後に篦書き沈線を施し、口唇には擬縄文が一部に残っている。口縁部下には、横方向に貝殻条痕を施す。２は粗製の御領式浅鉢と思われる口縁部の資料である。口唇にやや隆起した部分があるため、小さな波状の口縁を形成していると思われる。４・５は黒川式の研磨された精製浅鉢である。口唇は外面に一条の沈線と内面の篦による削り取りによって丸く肥大し、口縁から胴部にかけての器壁は肥厚するが鋭く屈曲している。しかし、４が口縁部のみ丹塗りで研磨されているのに対して、５は胴部の内面が黒色研磨されている。３・６は山ノ寺から夜臼式の粗製の浅鉢の口縁部と、沈線と突帯をもった深鉢の胴部片である。７・８は、後期から晩期にかけての深鉢の底部である。

弥生時代の土器（第63図９～23、第64図24～28）

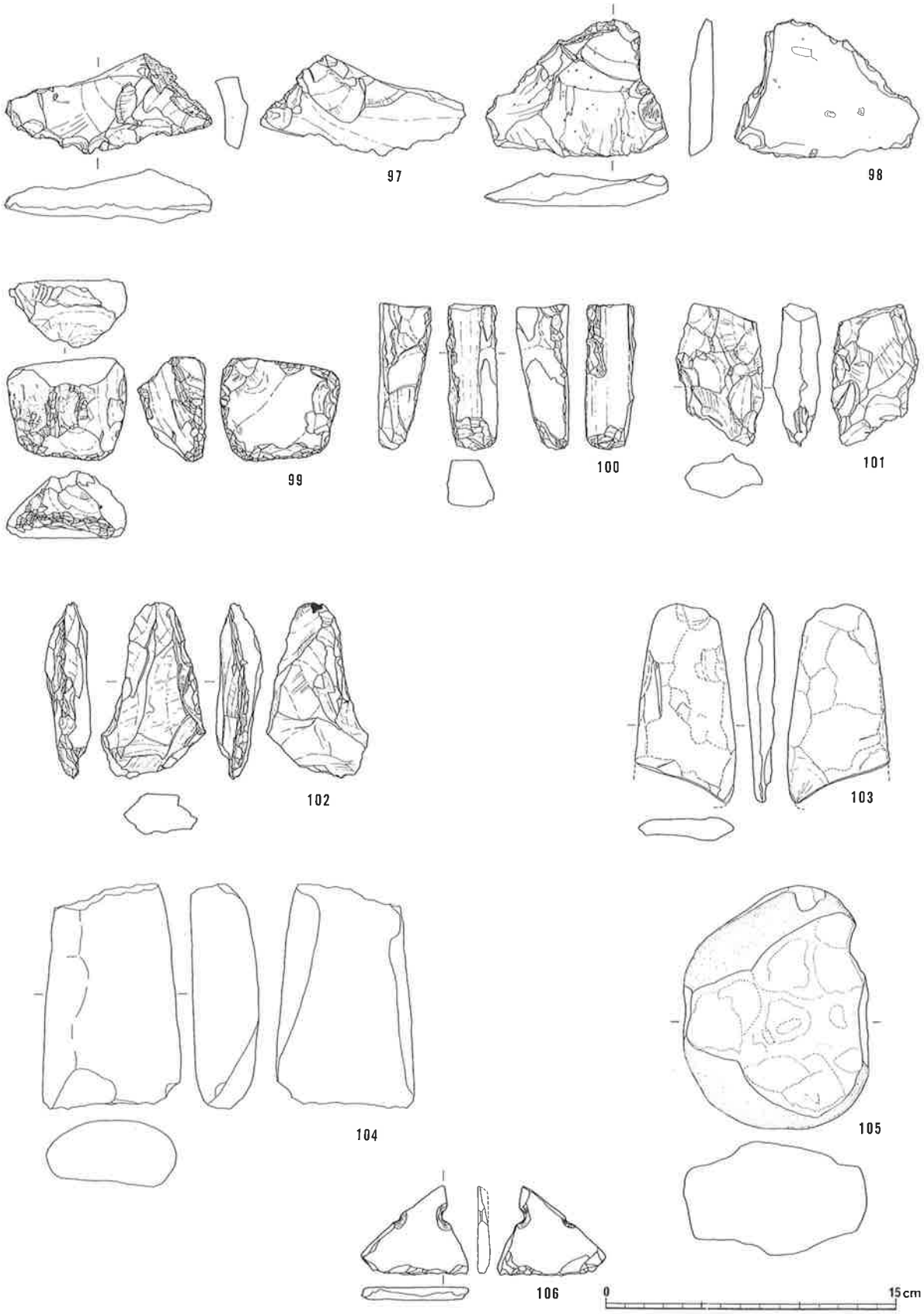
９・10は前期に位置づけられる。10の外面には、横方向に沈線が二条走り、その間を粗雑な沈線が斜めに切っている。内面に粗い篦削りを施す。11～23は中期の遺物である。11は頸部に突帯をもつかなり磨滅した壺の胴部、12～14は鋤形口縁甕の口縁部、15～23は上げ底のものは少ないが、甕・壺の底部である。24～28は後期のものとみられる甕・壺の口縁部で、28の複合口縁壺については、後期末～古墳初頭に位置づけられる可能性がある。

古墳時代の土器（第64図29～36・46・47）

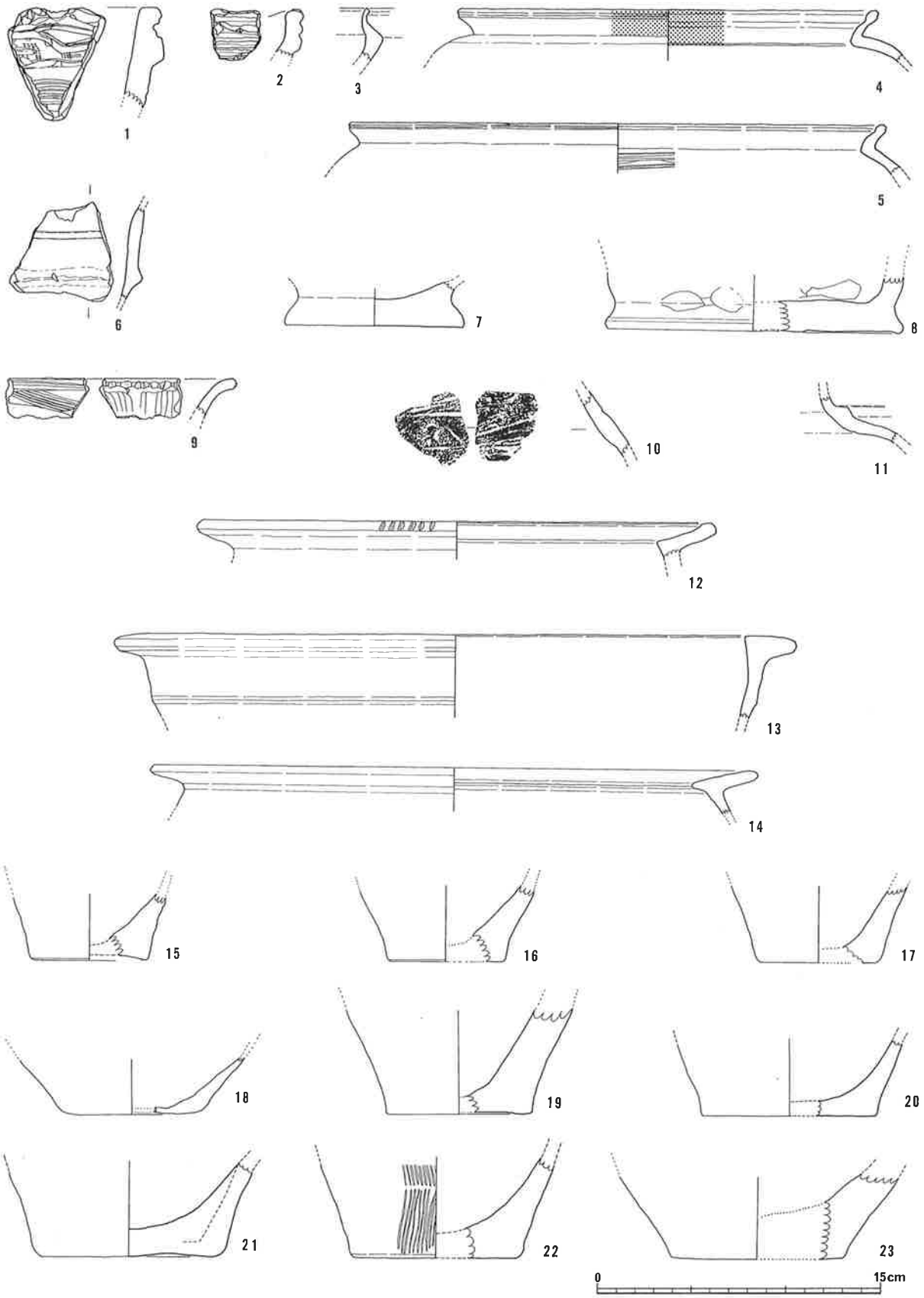
29～31は土師器の製品である。31の手捏ね土器は丸底で、胴部はほぼ球体である。32～34は須恵器の坏身で、かえりが内傾し短いため、６世紀後半～７世紀初頭のものと考えられる。35は須恵器の高坏の坏部分と思われるものである。断面三角形の稜下に櫛描波状文を施し、口縁部はやや外反すると考えられる。36は硬質の瓶口縁部である。46・47は須恵器の甕胴部の破片で、46は内面をナデ調整、47は外面のタタキ目の一部をナデ消されている。

古代・中世の土器（第64図37～45・48、第65図82）

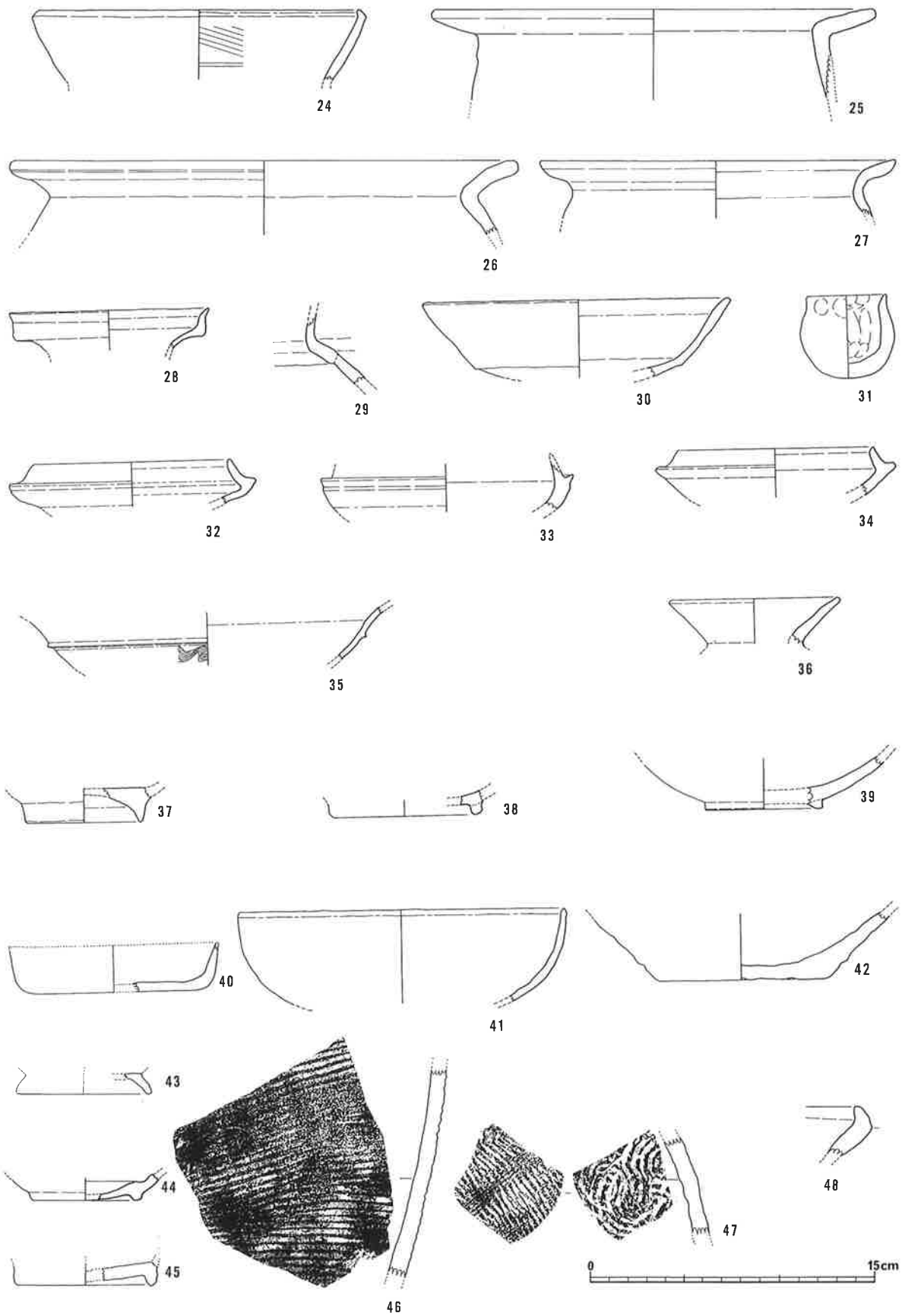
37～42は土師器の製品である。40は坏で、底部から口縁部に向かって垂直に立ち上がっている。42は平底の鉢で、磨滅が著しい。48は瓦質の捏鉢と思われる口縁部の破片で、口唇が「く」の字形に屈曲する。43は黒色土器碗の高台部である。44は須恵器杯で、断面台形の短い高台がつき、体部は丸みを帯びて立ち上がっている。45は瓦器碗の底部で、外底見込みに篦による掻き取り痕があり、高台断



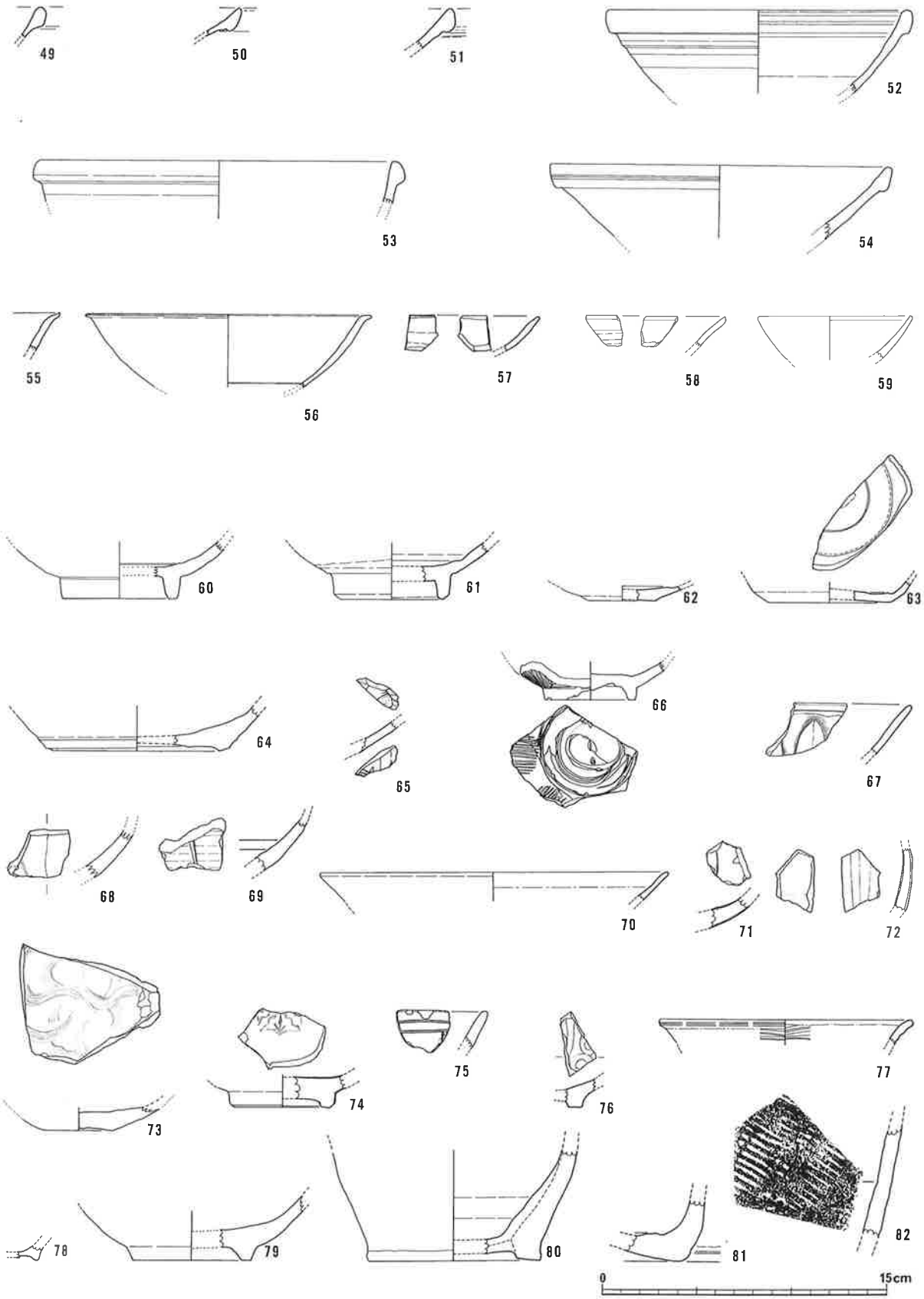
第62図　出土遺物実測図６（1／3）



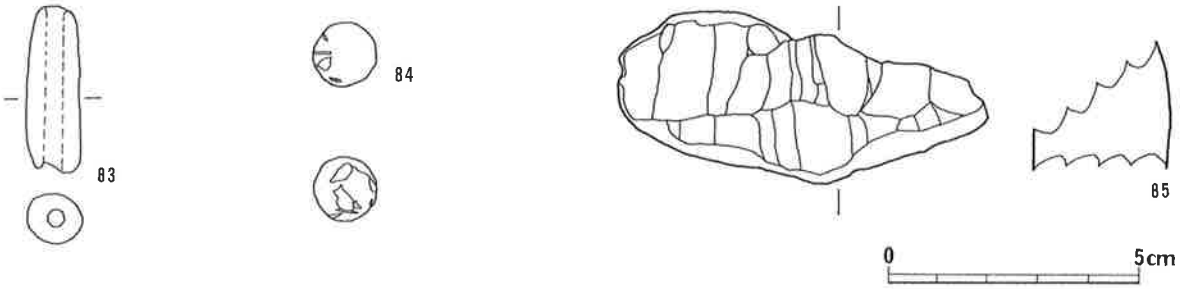
第63図　出土遺物実測図７（1／3）



第64図　出土遺物実測図 8（1／3）



第65図　出土遺物実測図 9 (1／3)



第66図　出土遺物実測図10(2／3)

面は玉状になっている。

中世の陶磁器（第65図49～81）

中国産輸入陶磁器は49～74で、白磁（49～63）の玉縁口縁（49～54）・口禿げ（57～59）・碗の底部（60・61）・皿の底部（62・63）と、青磁（64～74）の越州窯系（64）・同安窯系（65・66）・龍泉窯系（67～74）に分類できる。50は口縁部直下で、52・61は体部下半で釉を掻き取っている。57・60・62は、体部下半が無釉である。56の口唇は、外反させ水平に形成されており、体部上半はやや丸みを帯びる。63は全釉で、体部は丸みをもって立ち上がっている。51以外の白磁はすべて黒色の細かい粒が混入している。64は内面見込みに目跡があり、外面体部には釉が粗雑に塗布されている。65・66は櫛目文を施し、65は破片の半下部が、66は高台部分が無釉である。67～69・72は連弁文だが、67・68は鎬連弁、72は線書き連弁である。73の内面見込みには櫛書文が放射状に描かれ、底部は釉を掻き取っている。74の内面見込みにはスタンプ文があり、高台畳付の釉は掻き取られている。

75・76は高麗青磁で、白色の線象嵌を施す。76は内面見込みに二条の弧状文とその外側に二重円文が並ぶ。77～79は李朝陶器である。77は粉青沙器で、口縁部に刷毛目をもつ碗である。79は無文で、内面見込みに目跡がある。

80・81は国産陶器である。80の高台は幅広く、内・外面ともに褐色で塗色する。生産地・器形とも不明である。81は上げ底の壺底部の破片で、体部外面を赤色に塗色する。生産地は不明である。

その他（第66図）

83は土錘である。84は鉄砲玉である。85は石鍋で、磨滅が著しく内面の加工痕は確認できなかった。

参考文献

1．副島和明・伴耕一郎編　「諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書II」長崎県文化財調査報告書第74集　長崎県教育委員会　1985

2．平野敏和・福田一志編　『柿崎遺跡』　「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ」　長崎県文化財調査報告書第54集 長崎県教育委員会　1981

3．後藤茂樹編　『高麗』　世界陶磁全集18　小学館 1978

4．相賀徹夫編　『李朝』　世界陶磁全集19　小学館 1980

表 3　出土遺物観察表 1

遺物番号	遺跡名	出土地点	器種	石材	計測値（cm・g）			
					全長	最大幅	厚さ	重量
1	水尻 B	表採	ナイフ形石器	黒曜石	3.7	1.15	0.65	2.0
2	小船	T 1 — II 層	〃	〃	2.5	1.1	0.35	0.7
3	段ノ上	表採	〃	〃	3.25	1.2	0.55	2.3
4	牟田 B	〃	〃	〃	3.9	1.4	0.8	3.2
5	青島	〃	〃	〃	3.2	1.7	0.8	4.0
6	牟田 B	T14—II 層	〃	安山岩	3.3	1.8	0.85	4.0
7	田口高野	T 1 — I′層	〃	黒曜石	3.3	2.4	0.6	3.0
8	牟田 B	表採	〃	〃	2.35	1.2	0.4	0.9
9	小船	T 6 — IV 層	台形石器	灰青色黒曜石	4.6	2.8	1.05	9.2
10	田口高野	T 2 — I′層	〃	黒曜石	2.5	2.6	0.7	1.6
11	中ノ瀬	T12—III 層	〃	〃	3.95	2.5	0.95	6.9
12	田口高野	T 2 — 4	〃	〃	3.0	3.0	0.75	4.0
13	青島	表採	〃	〃	3.0	2.55	0.8	3.8
14	津崎	T 1 — II・III 層	〃	〃	1.85	1.8	0.45	0.8
15	青島	表採	〃	〃	3.15	2.3	0.75	4.6
16	青島	〃	〃	〃	2.4	1.75	0.55	2.3
17	姫神社	3 T 2 — I′層	〃	〃	3.9	2.1	1.1	6.5
18	津崎	T 1 — II・III 層	〃	〃	1.25	1.8	0.1	0.4
19	中ノ瀬	2 T 2 —耕作土	磨製石鏃	〃	1.6	1.3	0.15	0.4
20	中ノ瀬	2 T12—III 層	〃	〃	1.5	1.0	0.15	0.3
21	栢ノ木	8 T 8 —III 層	石鏃	〃	2.2	1.85	0.35	1.2
22	下谷	T 6 —排土	〃	〃	2.95	1.65	0.5	1.8
23	今福	T16—III 層	〃	〃	1.3	1.6	0.3	0.6
24	下谷	T 6 — V 層	〃	〃	1.5	1.3	0.3	0.7
25	水尻 B	T22—II 層	〃	〃	1.8	1.4	0.4	1.2
26	中ノ瀬	T12—耕作土	〃	〃	2.25	1.6	0.45	1.2
27	中ノ瀬	2 T11—耕作土	〃	〃	2.05	1.35	0.35	0.9
28	水尻 B	表採	〃	〃	1.1	1.75	0.3	0.5
29	今福	T16—III 層	〃	〃	1.8	1.85	0.35	0.9
30	下谷	T 1 —耕作土	〃	〃	1.5	2.1	0.3	0.9
31	栢ノ木	7 T 3 —III 層	〃	安山岩	1.65	1.6	0.2	0.5
32	下谷	T 7 —III 層	〃	黒曜石	2.3	1.55	0.35	0.7
33	久保園	T 1 —土壙	〃	灰青色黒曜石	2.0	1.55	0.45	1.0
34	牟田 B	表採	〃	黒曜石	1.8	1.8	0.6	1.3
35	牟田 A	T 2 — II 層	〃	〃	1.7	1.6	0.4	0.8
36	下谷	T 7 — VI 層	〃	〃	2.1	1.6	0.4	1.0
37	松園 B	表採	〃	〃	2.7	2.05	0.65	2.3
38	小船	T 2 —耕作土	〃	〃	2.2	1.45	0.45	1.1
39	姫神社	3 T 2 —耕作土	〃	〃	2.4	1.7	0.5	1.4
40	栢ノ木	8 T 9 — V′層	〃	安山岩	3.65	2.05	0.65	3.6
41	下谷	T 2 —耕作土	〃	黒曜石	1.55	0.95	0.4	0.5
42	栢ノ木	8 T 9 — IV 層	〃	灰青色黒曜石	1.7	1.15	0.3	0.4
43	小船	T 3 —耕作土	〃	黒曜石	2.1	1.25	0.4	0.6
44	水尻 B	T18—II 層	〃	〃	1.55	1.2	0.4	0.6
45	中ノ瀬	2 T12—耕作土	〃	〃	1.25	1.05	0.3	0.4
46	栢ノ木	8 T10—III 層	〃	〃	2.4	1.55	0.3	0.8
47	下谷	T 6 — IV 層	〃	〃	2.6	1.45	0.35	0.8
48	小船	T 3 —耕作土	〃	〃	2.85	1.65	0.55	1.3
49	下谷	T 6 — IV 層	〃	〃	3.25	1.6	0.5	1.8
50	姫神社	3 T 1 —耕作土	〃	〃	3.0	1.45	0.5	1.4
51	今福	T15—IV 層	〃	〃	2.15	1.5	0.35	0.8
52	今福	T25—IV 層	〃	〃	1.3	1.15	0.4	0.4
53	栢ノ木	8 T 2 — V 層	〃	〃	1.9	1.35	0.3	0.6

表 4　出土遺物観察表 2

遺物番号	遺跡名	出土地点	器種	石材	計測値（cm・g）			
					全長	最大幅	厚さ	重量
54	田口高野	T 4 — I′層	石鏃	黒曜石	1.4	1.3	0.35	0.5
55	中ノ瀬	2 T 1 —耕作土	〃	〃	1.3	1.05	0.4	0.4
56	下谷	T 7 — II 層	〃	〃	1.3	1.2	0.45	0.6
57	下谷	T 6 — V 層	剝片鏃	〃	1.4	0.95	0.2	0.2
58	下谷	T 4 — III 層	〃	〃	1.8	0.85	0.2	0.3
59	中ノ瀬	T 6 — I″層	〃	〃	1.4	1.3	0.25	0.5
60	下谷	T 4 —排土	〃	〃	1.6	1.4	0.25	0.4
61	下谷	T 8 — III 層	〃	〃	1.85	1.35	0.3	0.5
62	下谷	T 3 — IV 層撹乱	〃	〃	1.4	1.4	0.25	0.4
63	下谷	T 6 — V 層	〃	〃	1.7	1.65	0.25	0.4
64	下谷	T 5 — II 層	〃	〃	1.8	1.45	0.35	0.7
65	下谷	T 6 — V 層	〃	〃	1.5	1.6	0.3	0.5
66	下谷	T 3 — IV 層撹乱	〃	〃	2.15	1.3	0.35	0.7
67	中ノ瀬	T 3 — I′層	〃	〃	1.8	1.45	0.35	0.8
68	下谷	T 6 — V 層	〃	〃	1.9	1.7	0.25	0.4
69	下谷	T 7 — VI 層	〃	〃	2.2	1.9	0.3	0.7
70	下谷	T 6 — V 層	つまみ形石器	〃	1.55	1.55	0.4	0.9
71	下谷	T 6 — IV 層	〃	〃	1.85	1.55	0.7	1.7
72	下谷	T 6 — IV 層	〃	〃	1.95	1.55	0.3	0.9
73	下谷	T 6 —排土	〃	〃	1.6	1.8	0.4	1.2
74	下谷	T 6 — IV 層	〃	〃	1.15	1.7	0.4	0.7
75	下谷	T 6 —排土	〃	〃	1.05	1.2	0.25	0.3
76	下谷	T 6 —排土	石錐	〃	3.45	1.75	0.75	3.5
77	水尻 B	T15—耕作土	〃	〃	1.6	2.1	0.4	1.3
78	牟田 B	表採	石匙	安山岩	2.05	5.1	0.65	7.6
79	下谷	T 6 — IV 層	石錐	〃	5.55	3.5	0.75	11.6
80	牟田 B	表採	サイドスクレイパー	黒曜石	2.5	1.85	0.75	3.0
81	松園	〃	スクレイパー	〃	2.9	2.6	0.95	6.2
82	下谷	T 6 — V 層	使用痕ある剝片	安山岩	5.1	2.75	1.05	12.6
83	小船	T 3 —排土	〃	黒曜石	2.15	2.05	0.55	1.9
84	下谷	T 6 — IV 層	彫器	〃	4.25	1.55	0.85	5.2
85	水尻 B	T19— II 層	石核	〃	4.65	3.85	1.2	20.3
86	下谷	T31— IV 層	〃	〃	1.55	1.75	1.25	3.7
87	下谷	T 7 — III 層	彫器	〃	4.55	1.7	1.2	7.5
88	下谷	T 7 — VI 層	使用痕ある剝片	〃	4.45	3.0	0.8	8.9
89	下谷	T 7 — VI 層	〃	〃	3.6	1.35	0.4	1.6
90	下谷	T 7 — VI 層	〃	〃	5.1	1.85	0.6	4.2
91	久保園	T 1 —土壙	スクレイパー	〃	3.6	3.35	1.05	8.4
92	今福	T25— III 層	石錐	〃	2.2	0.95	0.65	1.2
93	今福	T15— IV 層	使用痕ある剝片	〃	4.15	2.0	0.75	4.7
94	今福	T16— III 層	石核	〃	4.15	2.2	1.15	8.4
95	姫神社	3 T 3 —耕作土	〃	〃	3.6	1.9	1.0	6.1
96	牟田 B	T 1 —耕作土	〃	チャート	2.6	1.7	1.25	5.1
97	下谷	T 7 — VI 層	スクレイパー	安山岩	5.2	10.6	2.75	85.5
98	松園	T 1 — III 層	〃	〃	7.15	9.45	1.7	110.0
99	久保園	T 2 —ピット	石斧	〃	5.3	6.25	3.5	125.0
100	下谷	T 6 — V 層	柱状片刃石斧	頁岩	7.5	2.6	2.7	80.0
101	下谷	T 7 — VI 層	石斧	安山岩	7.35	4.5	2.35	75.2
102	下谷	T 7 — VI 層	〃	〃	9.1	5.3	2.4	90.0
103	青島	表採	〃	砂岩	10.3	5.2	1.45	95.2
104	今福	T22—耕作土	〃	凝灰岩	11.65	7.2	3.5	496.6
105	中ノ瀬	T 9 — III 層	敲石	安山岩	12.5	9.5	5.85	1055.5
106	栢ノ木	8 T 9 — V 層	石庖丁	硬質砂岩	4.6	5.55	0.65	20.0

表 5　出土遺物観察表 3

遺物番号	遺跡名	出土地点	種別	器種	径（cm）	色調	胎土
1	下谷	T 6 —Ⅳ層	縄文	深鉢		茶褐色	砂粒含む
2	下谷	T 7 —Ⅴ層	〃	浅鉢		淡橙色	〃
3	今福	T 8 —Ⅱ層	〃	〃		淡茶褐色	〃
4	下谷	T 6 —Ⅳ層	〃	〃	口径21.4	黄灰色　丹塗り	砂粒少量
5	下谷	T 5 —Ⅳ層	〃	〃	口径27.6	灰褐色内面研磨	砂粒含む
6	姫神社	3 T 3 —表土	〃	〃		黄茶褐色	〃
7	下谷	T 4 —Ⅵ層	〃	深鉢	底径9.4	茶褐色	〃
8	下谷	T 6 —Ⅳ層	〃	〃	底径15.4	黄灰褐色	〃
9	下谷	T 5 —Ⅲ′層	弥生	甕		淡茶褐色	〃
10	下谷	T 6 —Ⅴ層	〃	壺		褐色	砂粒少量
11	今福	T11—Ⅲ層	〃	〃		黄赤褐色	大粒の砂あり
12	栢ノ木	7 T 2 —Ⅲ層	〃	甕	口径26.4	淡茶褐色	〃
13	栢ノ木	7 T 2 —Ⅴ層	〃	〃	口径32.2	赤褐色	〃
14	中ノ瀬	T 9 —Ⅲ層	〃	〃	口径31.5	淡赤褐色	〃
15	久保園	T 1 —土壙	〃	〃	底径5.3	淡赤褐色	〃
16	栢ノ木	7 T 2 —Ⅳ層	〃	〃	底径5.7	暗赤褐色	〃
17	中ノ瀬	T 9 —土壙	〃	〃	底径6.0	黄赤褐色	砂粒含む
18	中ノ瀬	T 9 —Ⅲ層	〃	壺	底径5.5	淡茶褐色	〃
19	中ノ瀬	2 T 4 —Ⅱ層	〃	甕	底径7.1	黄茶褐色	大粒の砂あり
20	下谷	T 5 —Ⅳ層	〃	〃	底径9.2	淡赤褐色	〃
21	下谷	T 4 —Ⅴ層	〃	〃	底径9.2	赤褐色	砂粒含む
22	下谷	T 4 —排土	〃	〃	底径8.5	淡茶褐色	〃
23	中ノ瀬	T 9 —Ⅲ層	〃	〃	底径6.5	赤褐色	大粒の砂あり
24	今福	T13—Ⅱ層	〃	〃	口径16.8	灰褐色	〃
25	中ノ瀬	T 9 —Ⅲ層	〃	〃	口径23.0	淡赤褐色	〃
26	中ノ瀬	T 9 —Ⅲ層	〃	〃	口径26.4	淡赤褐色	〃
27	中ノ瀬	T 9 —Ⅲ層	〃	〃	口径18.7	暗褐色	〃
28	今福	T15—Ⅲ層	瓦器	〃	口径10.4	灰色	精選されている
29	今福	T31—Ⅳ層	土師器	甕		赤茶褐色	〃
30	今福	T32—Ⅲ層	〃	高坏	口径15.8	淡褐色	〃
31	今福	T15—Ⅲ下層	〃	手捏ね	口径4.2	明赤褐色	砂粒含む
32	下谷	T 3 —Ⅳ撹乱	須恵器	坏身	口径10.2	暗灰紫色	精選されている
33	今福	T26—Ⅱ層	〃	〃		灰色	〃
34	今福	T20—Ⅱ層	〃	〃	口径10.3	灰色	砂粒含む
35	今福	T19—耕作土	〃	高坏		灰白色	精選されている
36	下谷	T 4 —耕作土	〃	瓶	口径8.6	暗灰色	砂粒含む
37	今福	T13—Ⅱ層	土師器	碗	底径6.1	淡褐色	精選されている
38	下谷	T 8 —Ⅳ層	〃	〃	底径7.4	淡赤褐色	砂粒含む
39	今福	T23—Ⅱ層	〃	〃	底径5.8	灰白色	〃
40	中ノ瀬	表採	〃	坏	底径8.2	淡褐色	精選されている
41	今福	T33—Ⅲ層	〃	碗	口径17.1	淡黄褐色	砂粒含む
42	栢ノ木	T 7 —X層	〃	鉢	底径8.6	淡黄白色	〃

表 6　出土遺物観察表 4

遺物番号	遺跡名	出土地点	種別	器種	径（cm）	色調	胎土
43	今福	T15—Ⅲ層	黒色土器	碗	底径6.9	黒色	精選されている
44	下谷	T 8 —排土	須恵器	坏	底径5.6	灰青色	砂粒含む
45	今福	T24—Ⅱ層	瓦器	碗	底径7.0	灰黒色	精選されている
46	今福	T27—Ⅲ層	須恵器	甕		灰白色	〃
47	今福	T34—Ⅰ′層	〃	〃		灰色	〃
48	松園	T 2 —Ⅲ層	瓦器	捏鉢		灰茶褐色	砂粒含む
49	久保園	T 2 —耕作土	白磁	碗		釉 灰白色	白色
50	久保園	T 3 —耕作土	〃	〃		釉 灰白色	灰白色
51	姫神社	3 T—Ⅱ層	〃	〃		釉 黄白色	黄灰色
52	久保園	T 2 —Ⅰ′層	〃	〃	口径15.4	釉 灰白色	灰色
53	中ノ瀬	T12—Ⅰ′層	〃	〃	口径18.2	釉 灰白色	灰色
54	中ノ瀬	表採	〃	〃	口径17.4	釉 灰白色	灰白色
55	久保園	T 2 —Ⅰ′層	〃	〃		釉 灰白色	灰色
56	久保園	T 3 —ピット	〃	〃	口径14.7	釉 淡黄白色	淡灰黄色
57	小船	T 5 — 4	〃	皿		釉 灰白色	灰白色
58	久保園	表採	〃	〃		釉 灰白色	灰色
59	今福	T14—Ⅱ層	〃	〃	口径8.4	釉 灰白色	灰色
60	今福	T10—Ⅱ層	〃	碗	底径5.9	釉 灰白色	灰色
61	今福	T27—Ⅰ′層	〃	〃	底径5.4	釉 灰黄白色	淡黄灰色
62	今福	T31—Ⅱ層	〃	皿	底径3.7	釉 淡灰白色	灰白色
63	松園	T 1 —Ⅴ層	〃	〃	底径6.4	釉 灰白色	白灰色
64	今福	T11—Ⅱ下層	青磁	碗	底径8.5	釉 緑灰色	灰青色
65	姫神社	3 T 2 —Ⅰ′層	〃	皿		釉 淡緑灰色	灰白色
66	中ノ瀬	T 6 —埋土	〃	碗	底径4.8	釉 緑黄灰色	灰色
67	小船	T 5 — 2	〃	〃		釉 淡緑灰色	灰白色
68	中ノ瀬	T 6 —埋土	〃	〃		釉 緑灰色	灰青色
69	久保園	T 3 —耕作土	〃	〃		釉 緑灰色	灰青色
70	今福	T11—Ⅱ下層	〃	〃	口径18.2	釉 灰青色	灰色
71	松園	T 1 —Ⅱ層	〃	〃		釉 淡緑色	白灰色
72	下谷	T 4 —耕作土	〃	〃		釉 淡緑色	灰色
73	中ノ瀬	T14—埋土	〃	皿	底径3.6	釉 緑灰色	灰色
74	小船	T 5 — 3	〃	碗	底径4.9	釉 淡緑色	灰色
75	姫神社	3 T 3 —Ⅰ′層	高麗青磁	〃		釉 黄灰色	灰黄色
76	松園	T 5 —耕作土	〃	〃		釉 淡緑色	灰紫色
77	今福	T22—耕作土	李朝陶器	碗	口径13.0	釉 淡緑灰色	灰色
78	下谷	T 2 —Ⅱ層	〃	坏		釉 緑灰色	灰色
79	今福	T13—Ⅱ層	〃	碗	底径6.2	釉 淡緑黄色	灰黄色
80	小船	T 5 — 1	陶器			釉 暗灰茶褐色	灰黄色
81	松園	T 2 —Ⅲ層	〃	壺		釉 茶褐色	灰白色
82	今福	T33—Ⅱ層	〃	〃		橙色	灰茶褐色
83	下谷	T 3 —Ⅳ層		土錘		淡赤褐色	精選されている
84	松園	T 1 —Ⅲ層		鉄砲玉	径1.25	灰色	
85	今福	T10—Ⅱ層		石鍋		黒灰色	精選されている

Ⅶ　ま　と　め

平成７年度から平成９年度にかけて行った確認調査・試掘調査の概要は、以上のとおりである。

埋蔵文化財は現状保存が最も望ましいが、埋蔵文化財包蔵地において土木工事などの開発行為を行う場合は、文化財保護法に基づき届出・通知が必要である。書類審査を行い、土地の現状と周囲の状況を把握するために試掘調査（包蔵地外）・確認調査（包蔵地内）が必要か不要かを判断する。その試掘調査・確認調査によって、埋蔵文化財（遺跡）の存在する深さ・内容が把握され、事業計画と照合を行い、本調査の要・不要を判断する。この３年間でも国営農地再編整備事業に伴う試掘調査で今福地区（今福遺跡）・川内地区（小船遺跡）で遺跡が確認されたため、法第57条の６で遺跡発見届を提出している。その後、九州農政局北松農地整備事業所と市教育委員会と遺跡の取扱について協議を行い、平成８年度に今福遺跡の本調査（2,580m²の水路・道路・圃場面）を実施している。

平成８年度の調査では、田口高野遺跡で旧石器時代の良好な遺物包含層が確認され、下谷遺跡では縄文後期の包含層が確認されている。

平成９年度の調査では、離島の青島で初めて確認調査を行った。さほど広くない島内において旧石器時代の青島遺跡・段ノ上遺跡が同時に存在していたのか、あるいは若干の時間差があるのか検討課題であったが、遺物包含層の確認ができず問題の解決までには至らなかった。

また、松浦市星鹿半島周辺は、牟田産黒曜石の原産地として全国的に知られており、原産地である蕨川遺跡・水尻Ｂ遺跡・牟田Ａ遺跡・牟田Ｂ遺跡で確認調査を行った。石器製作跡に関連する遺構などの発見に期待していたが、残念ながらほとんどの調査区は畑地として撹乱を受けており、撹乱層からも石器製作工程に関する剥片・砕片などの遺物の発見には至らなかった。牟田産の原石の大きさは最大でも拳大位の資料を実見している。原産地が海岸部に近いということからも容易に原石の持ち運びが簡単であるため、原石そのものを現地にて加工するまでには至らず、他の地域の遺跡へ原石が持ち込まれて、石器の製作が行われていたと考えられる。しかし、奈良県香芝市二上山麓鶴峯荘第１地点遺跡では、サヌカイト原石の採掘坑と考えられる掘り込みが発見されている。大きさは約2.5m×3.2m以上、深さ約１mの不整形で、周囲にはサヌカイト原石を多数含む地層が広がっている。採掘坑の中には、多量のサヌカイト製遺物（瀬戸内技法を主流とした国府石器群）が含まれていて、多くの接合資料も見つかっている例もある。最近は黒曜石原産地の長野県諏訪市霧ヶ峰ジャコッパラ遺跡群・諏訪郡下諏訪町東俣遺跡・小県郡長門町鷹山遺跡群でも調査が行われ、黒曜石採掘跡・加工跡が発見されている。

遺物から原産地を推定する場合は、遺物の剥離面が光沢のある漆黒色を呈し、雑物をほとんど混じていない良質のもので、自然面が角礫状であれば腰岳産原石が使用され、円礫であばた状の自然面であれば牟田産原石であるという判断基準がある。近年は、これに自然科学的な手法を用いて産地推定が行われている。黒曜石の主成分組成は原産地ごとに大きな差は見られないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられており、微量成分を中心に元素分析を行う方法として螢

光X線分析法がとられている。この方法ではあらかじめ各原産地ごとの原石を元素組成の平均値などを分析して、遺物の元素組成を対比して産地を推定する。この時、多変量解析の手法を用いて各原産地に帰属する確率を求めて最終的に産地が同定されている。牟田産黒曜石原石も4カ所において元素比の平均値と標準偏差値が求められており、同定の際の基準になっている。黒曜石原石は地域間の交易の問題の解明に役立つ重要な遺物でもある。

松藤和人氏は、西彼杵郡多良見町伊木力遺跡出土の黒曜石について、サイズ・石質の精粗にかかわらず原石の状態での石材搬入があり、石核としてあまりにも小さすぎる小礫も含まれている。これは原産地へ直接行って一括採取を行ったのではないかと考えている。また、萩原博文氏は、平戸市中山遺跡の遺跡周辺では黒曜石原石が多量に存在することから、移動した集団の消費する以上の製作活動が行われ、他の地域への石器素材・製品が搬入されたと考えている。さらに平戸市西牟田遺跡第Ⅳ文化層では遺物集中が直径1m前後の五つのユニットからなっており、目的剝片・定形石器が大量生産されたと考えている。石核は15点のみであったが原石を持ち込んで石器・道具の製作が行われていたと考えている。中山遺跡・西牟田遺跡や北松浦郡田平町日ノ岳遺跡などと立地条件が類似して付近に湿田がある牟田地区での石器製作跡の発見に期待したい。

牟田地区周辺では、現在でも黒曜石原石を採集することができるが、地元の方々によると、昔は大きい原石が大量にあったがいつ頃からか少なくなってきたようだと話されている。原石の中には茶褐色の鉄分を含んでいる花十勝の原石もあり、これら牟田産黒曜石の名称が知れわたったため、採集に訪れる者があとを立たないのであろう。

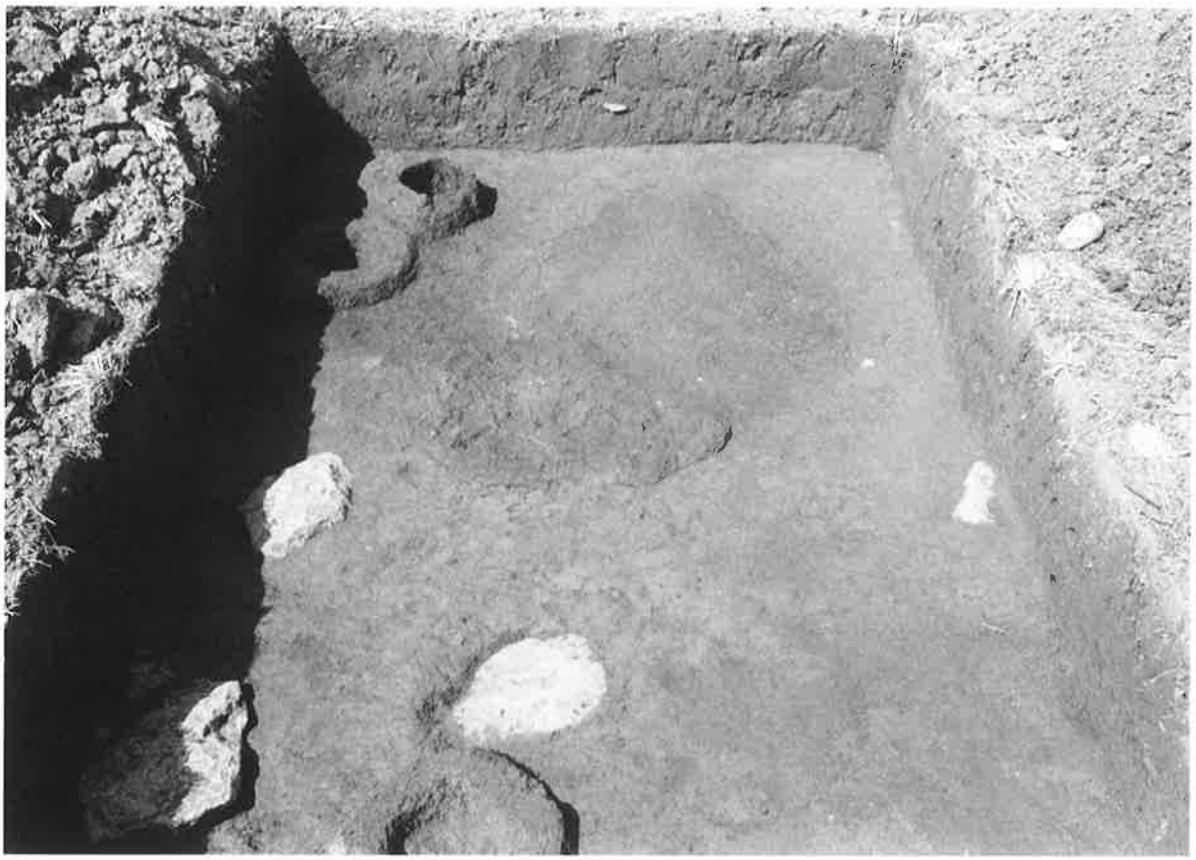
市内各地で開発の波はとどまるところを知らない。このような開発に対して野放しにしておくと埋蔵文化財も取り返しのつかない事態に陥ることもある。民間の開発に関してはたいてい緊急性が強く、遺跡にたいしても十分な対応がとれていない場合が多い。同時に埋蔵文化財の保護思想を普及させるために、より一層の啓蒙活動の必要性にせまられている現状である。今後は個人住宅建築などの小規模な開発が益々増加していくことが予想される。ともすれば十分な対応が取れないことが多いこのような小規模開発に対しても、円滑な対応・協議が今まで以上に重要になってくるであろう。

参考文献

1．香芝市二上山博物館 『よみがえる二上山の3つの石』展示解説 1992
2．多良見町教育委員会・同志社大学考古学研究室編 『伊木力遺跡』 1990
3．平戸市史編さん委員会 『平戸の旧石器時代』「平戸市史 自然・考古編」 1995
4．長崎県教育委員会 『原始・古代の長崎県 資料編Ⅱ』 1997

図　　版

中ノ瀬遺跡Ｔ２遺構検出状況（南より）



中ノ瀬遺跡Ｔ９遺構検出状況（南より）

図版 2

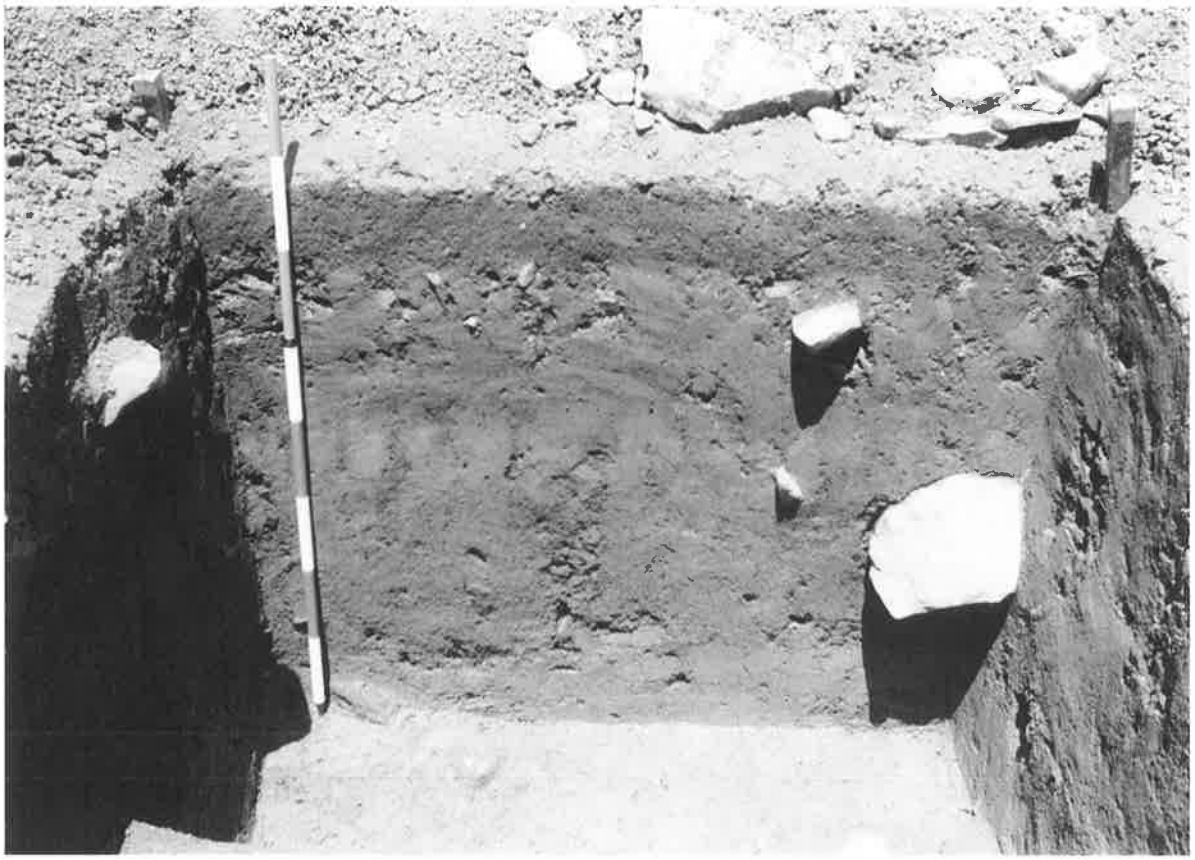
久保園遺跡Ｔ１遺構検出状況（西より）

久保園遺跡Ｔ２遺構検出状況（西より）

今福遺跡Ｔ15遺構検出状況（南より）

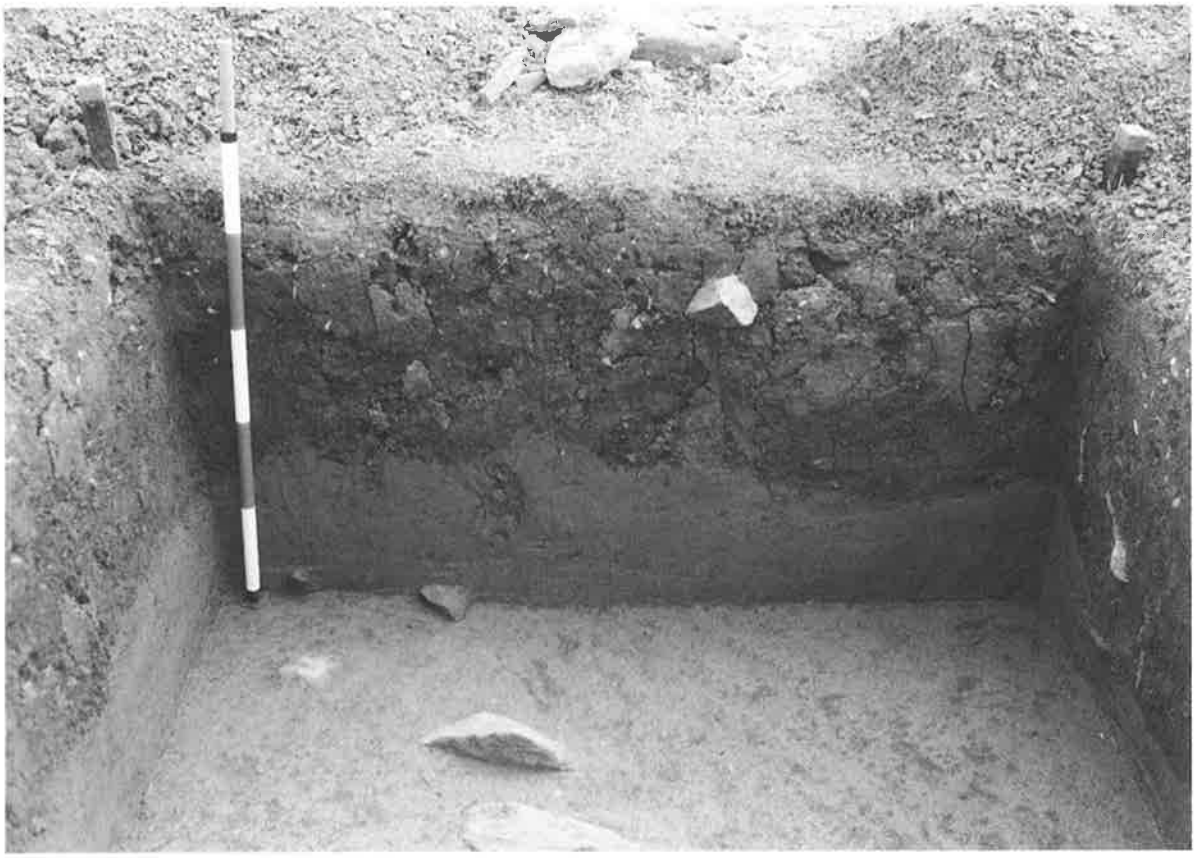
今福遺跡Ｔ36北土層（南より）

図版 4



小船遺跡Ｔ３北土層

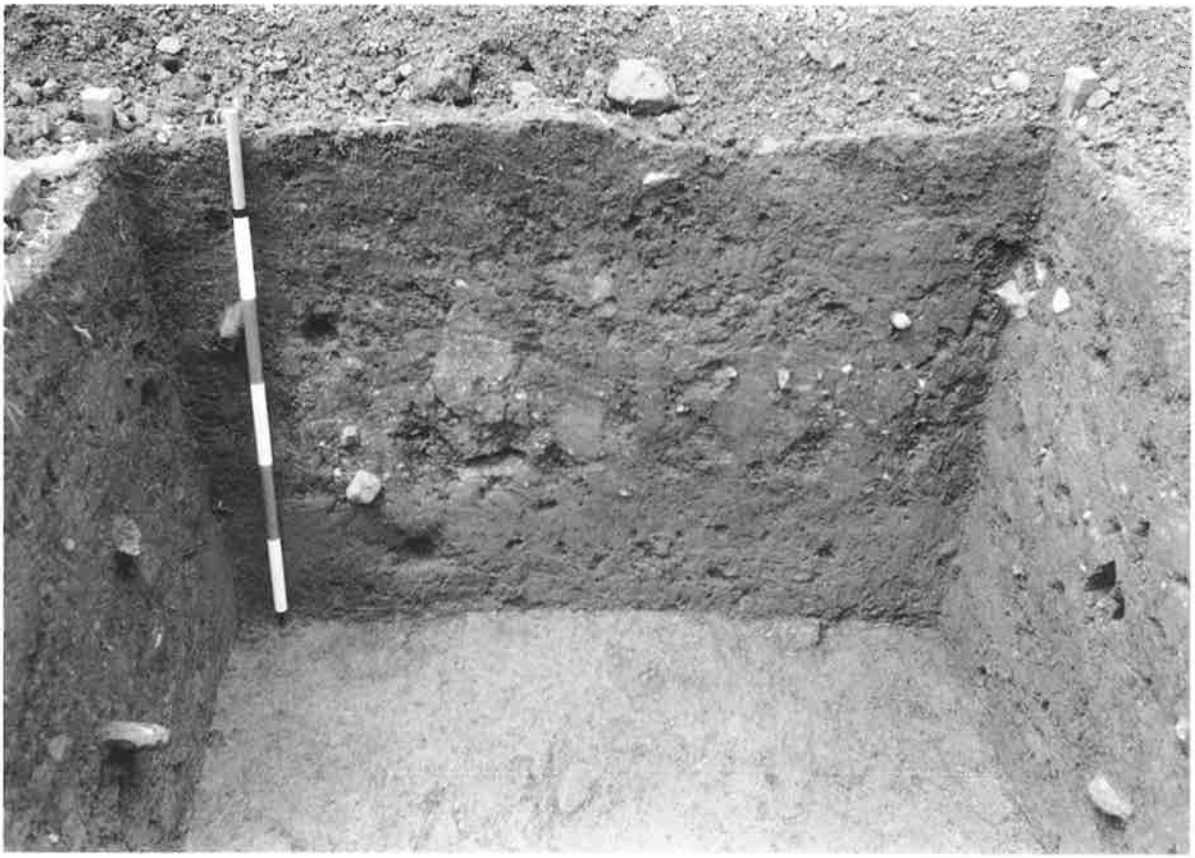
小船遺跡Ｔ４遺構検出状況（南より）



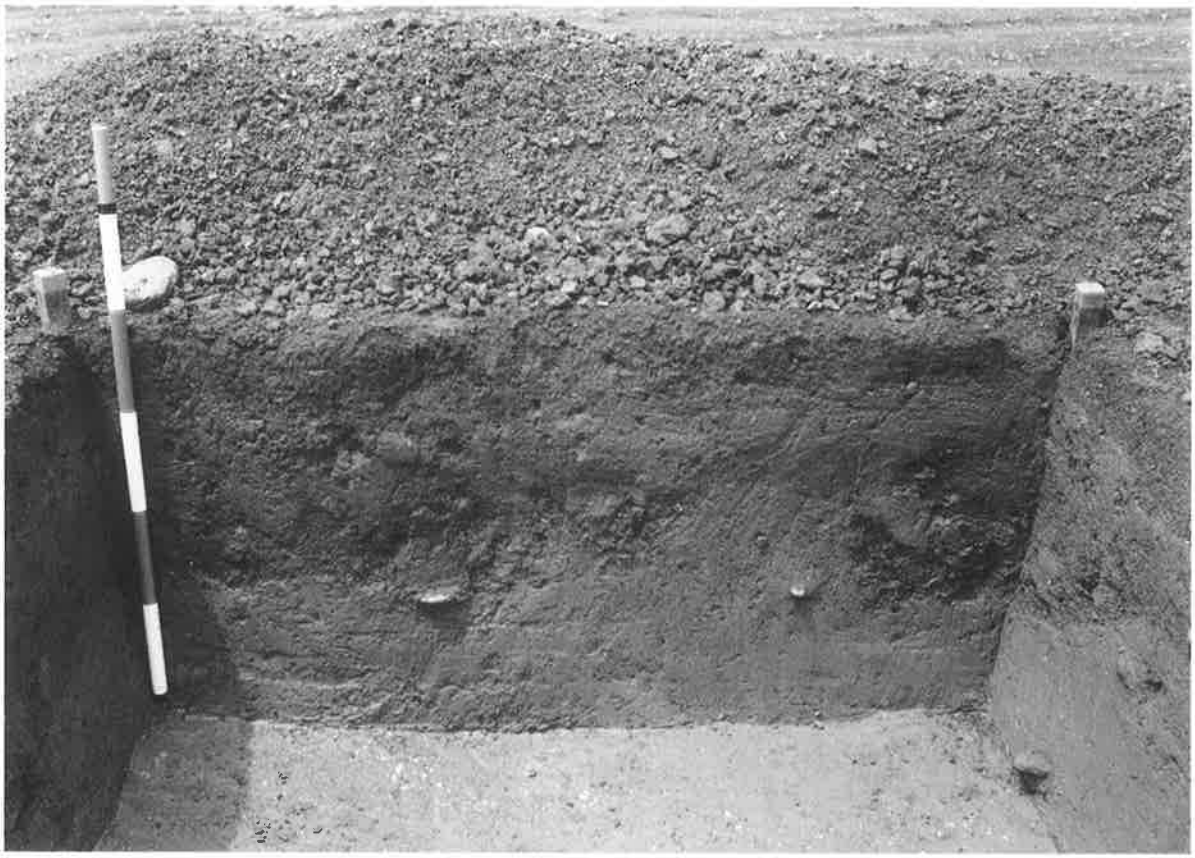
田口高野遺跡Ｔ１北土層

田口高野遺跡Ｔ２東土層

図版 6



水尻Ｂ遺跡Ｔ３北土層



水尻Ｂ遺跡Ｔ23北土層

下谷遺跡Ｔ７西土層

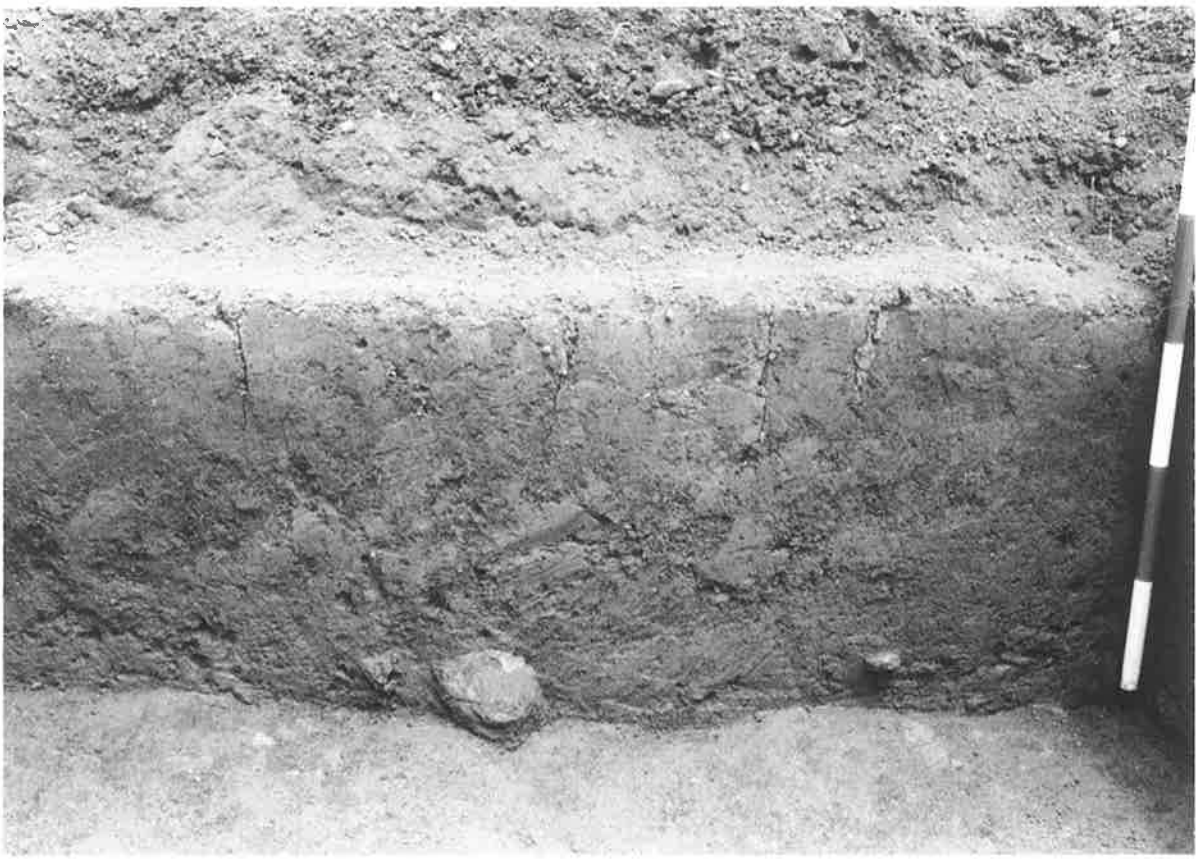
下谷遺跡Ｔ８北土層

図版 8

栢ノ木遺跡Ｔ３遺構検出状況（西より）

栢ノ木遺跡Ｔ７北土層

牟田Ａ遺跡Ｔ５西土層

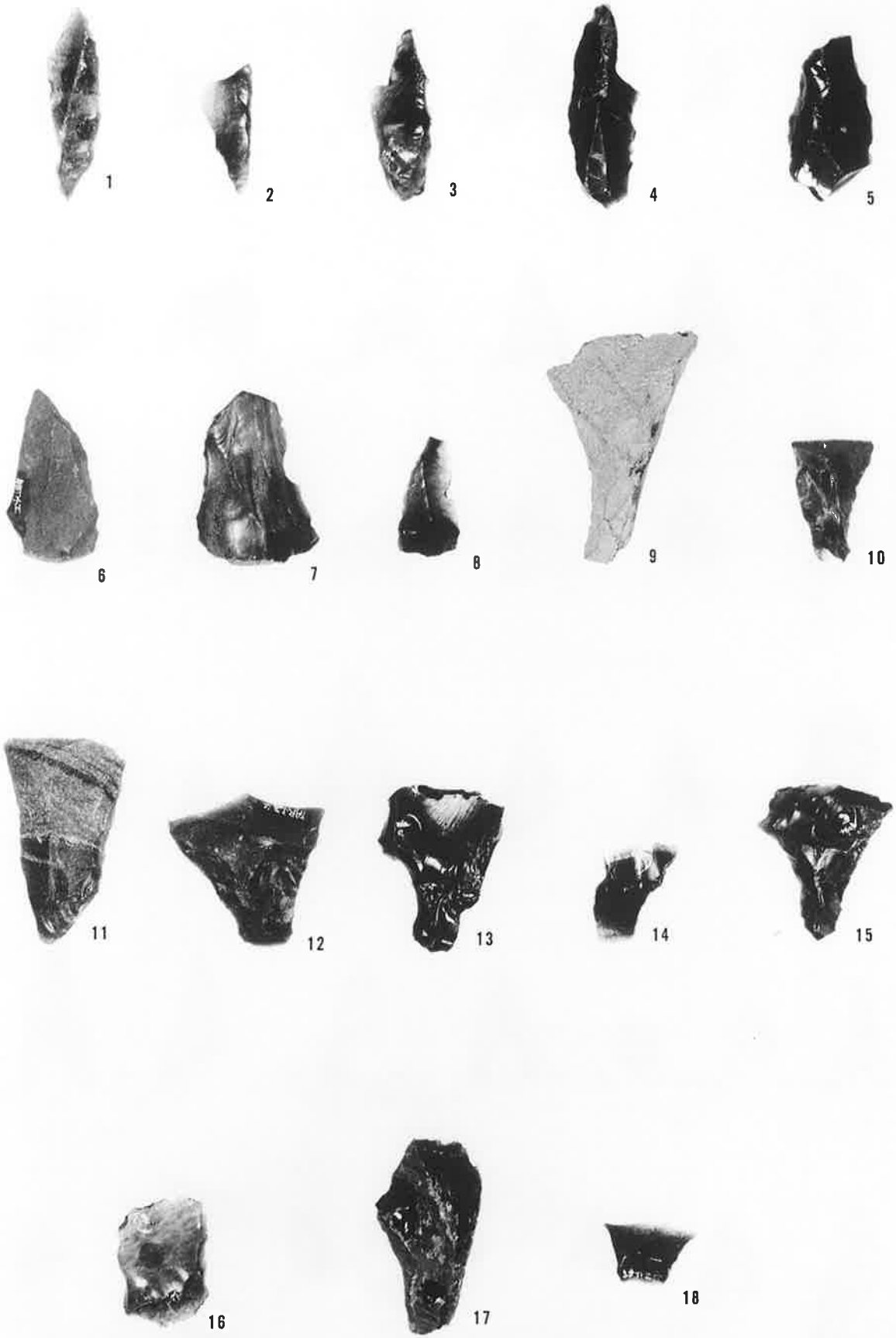


牟田Ｂ遺跡Ｔ11東土層

図版10

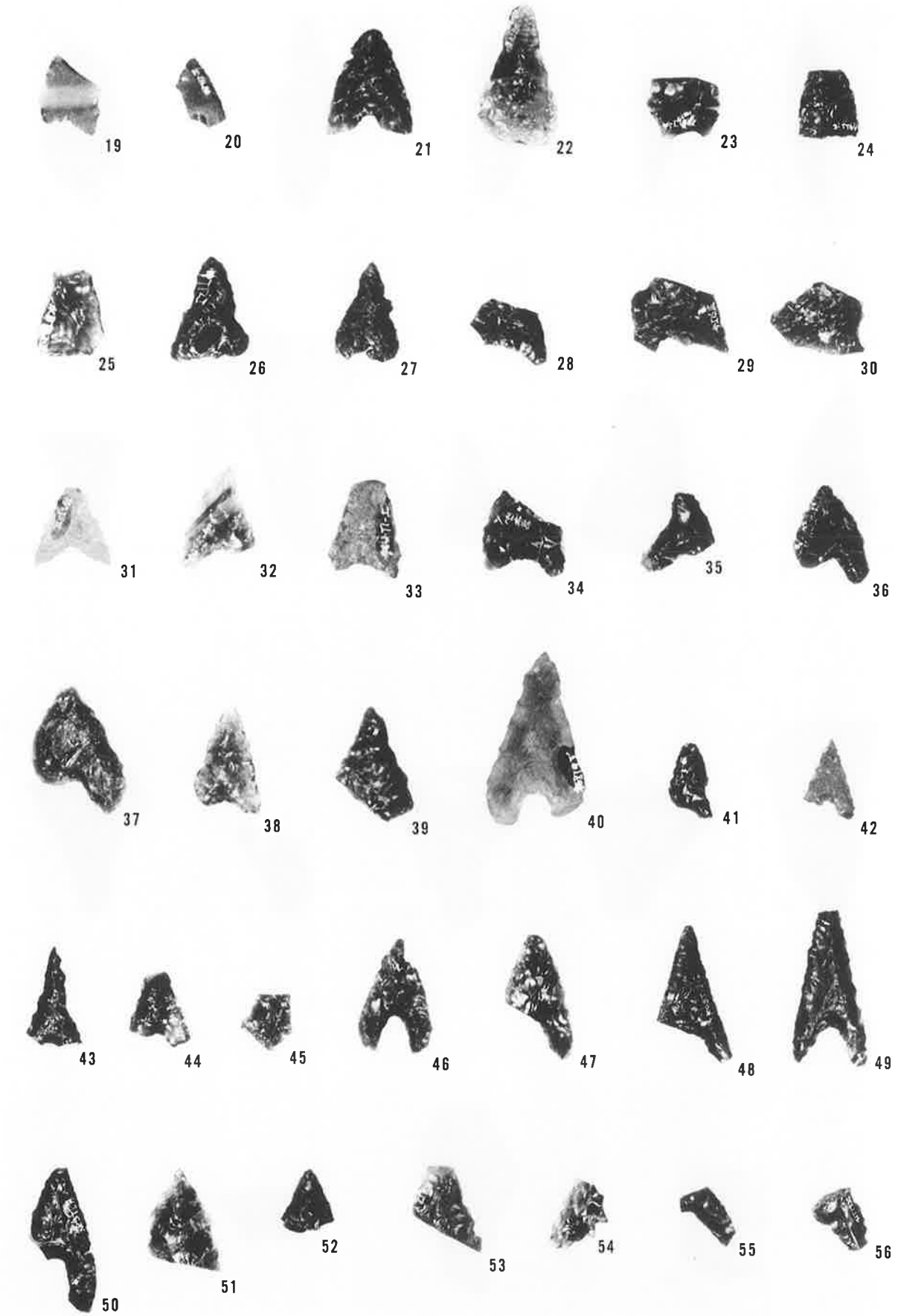
津崎遺跡Ｔ１北土層

今福遺跡Ｔ15遺物出土状況

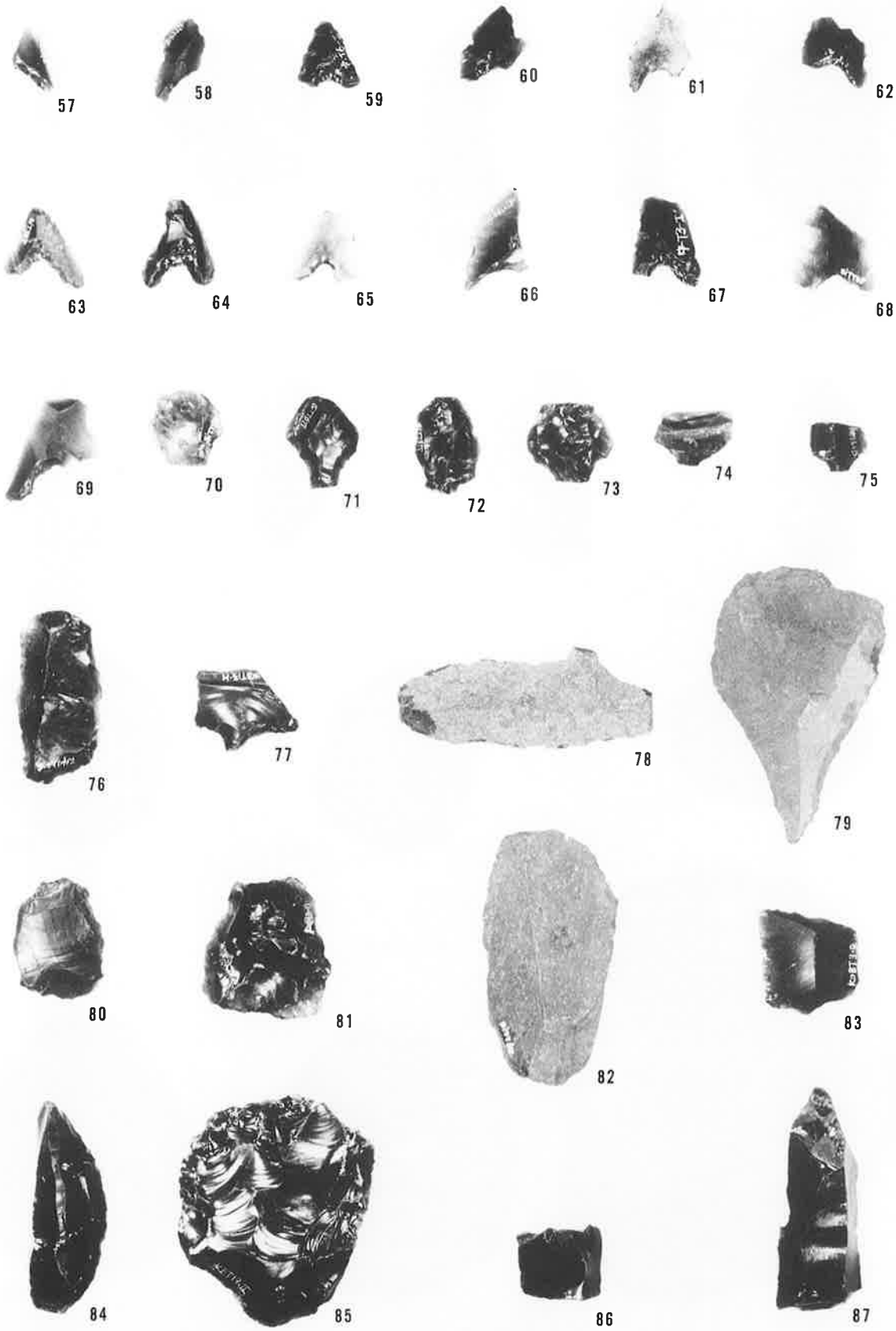


出土遺物 1

図版12

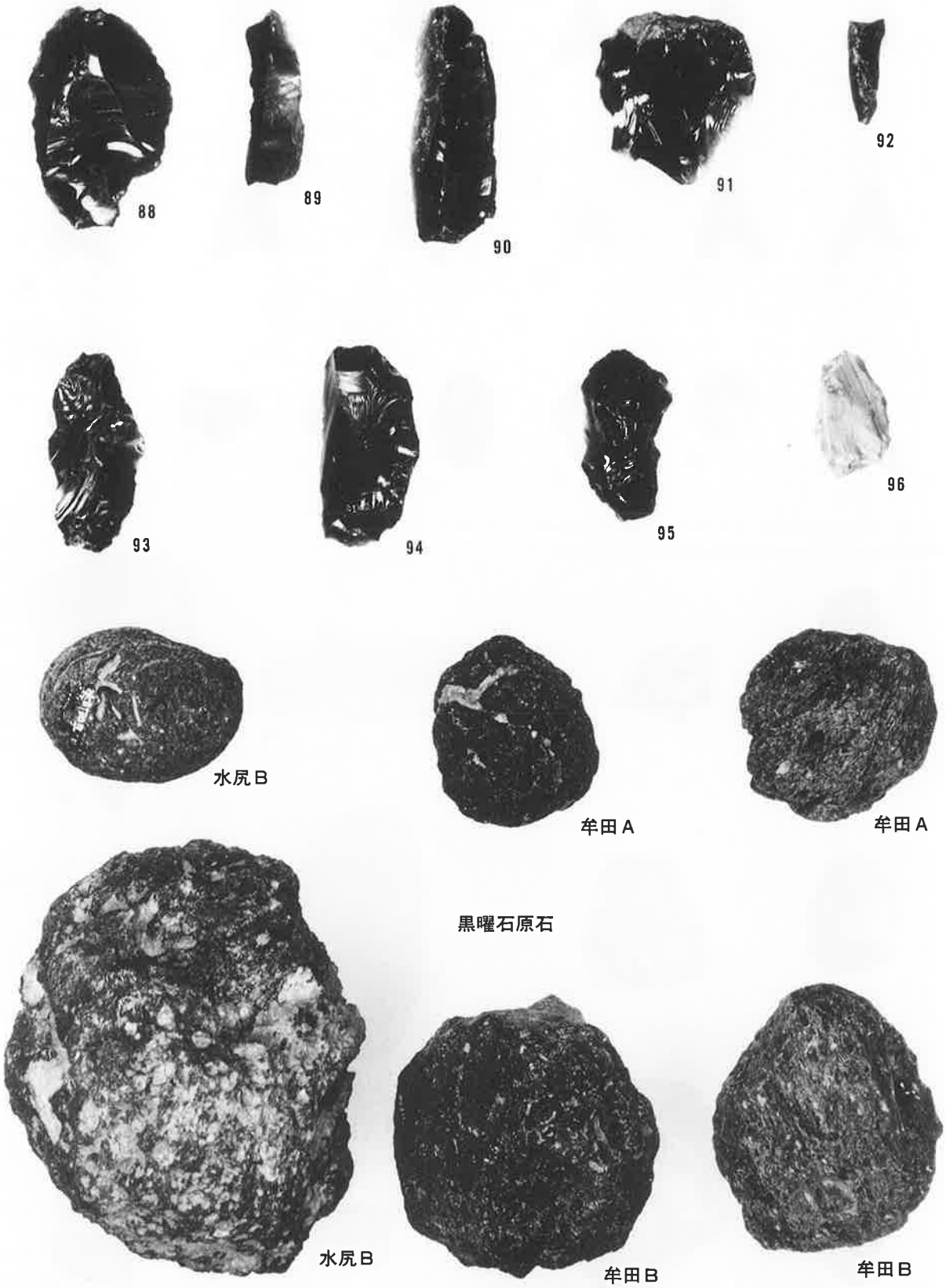

19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56

出土遺物 2

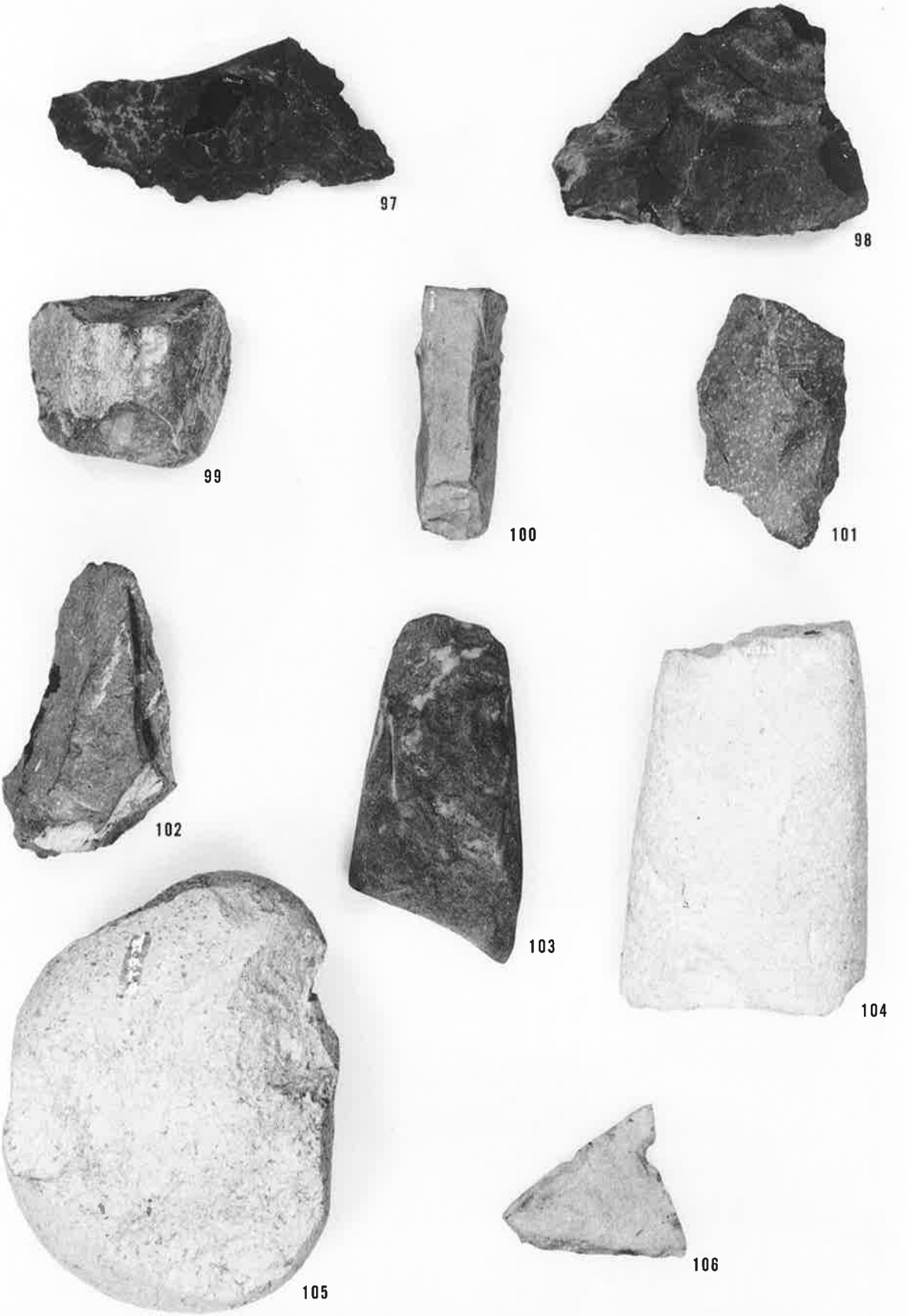

57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87

出土遺物 3

図版14

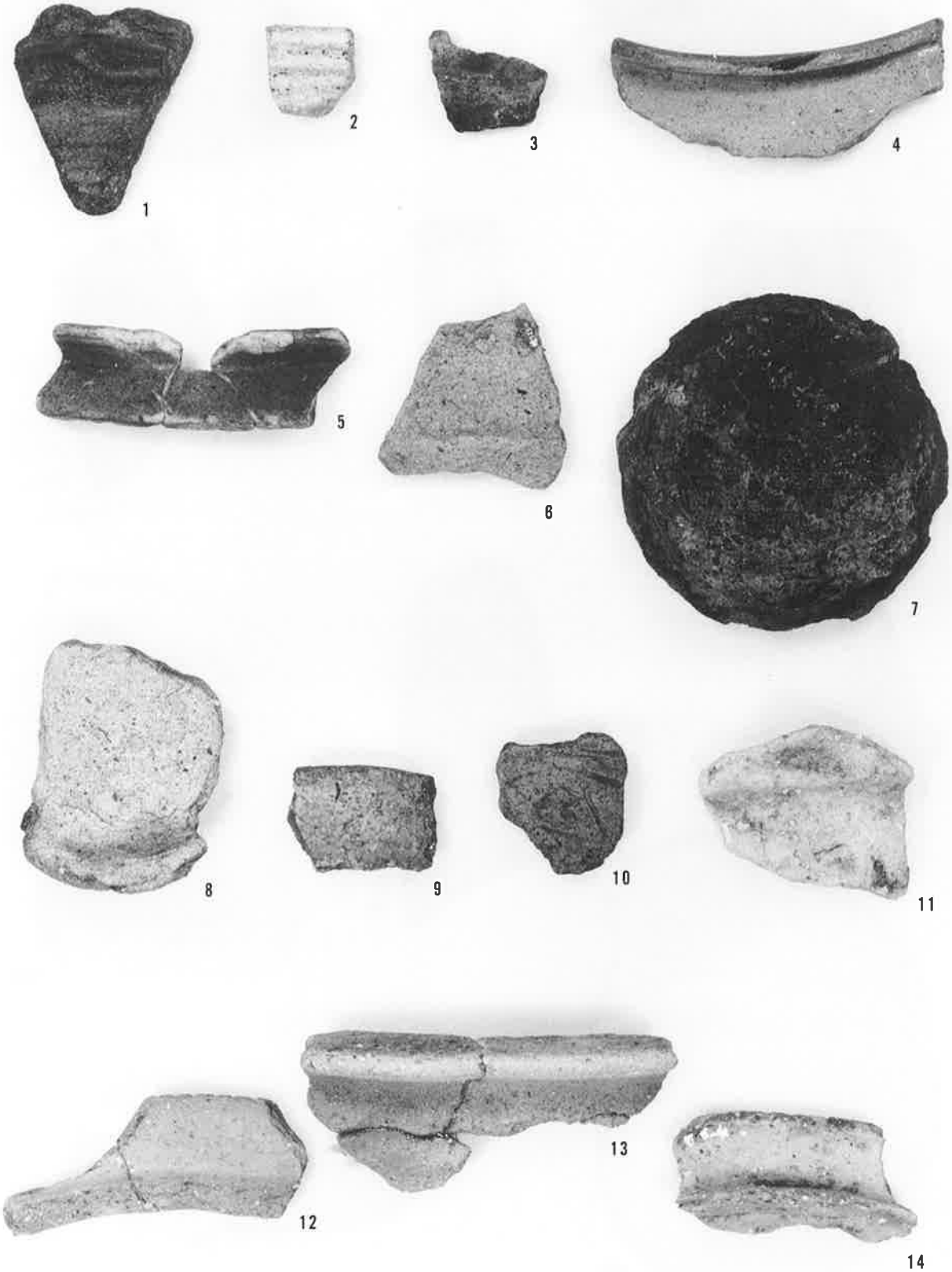


出土遺物 4

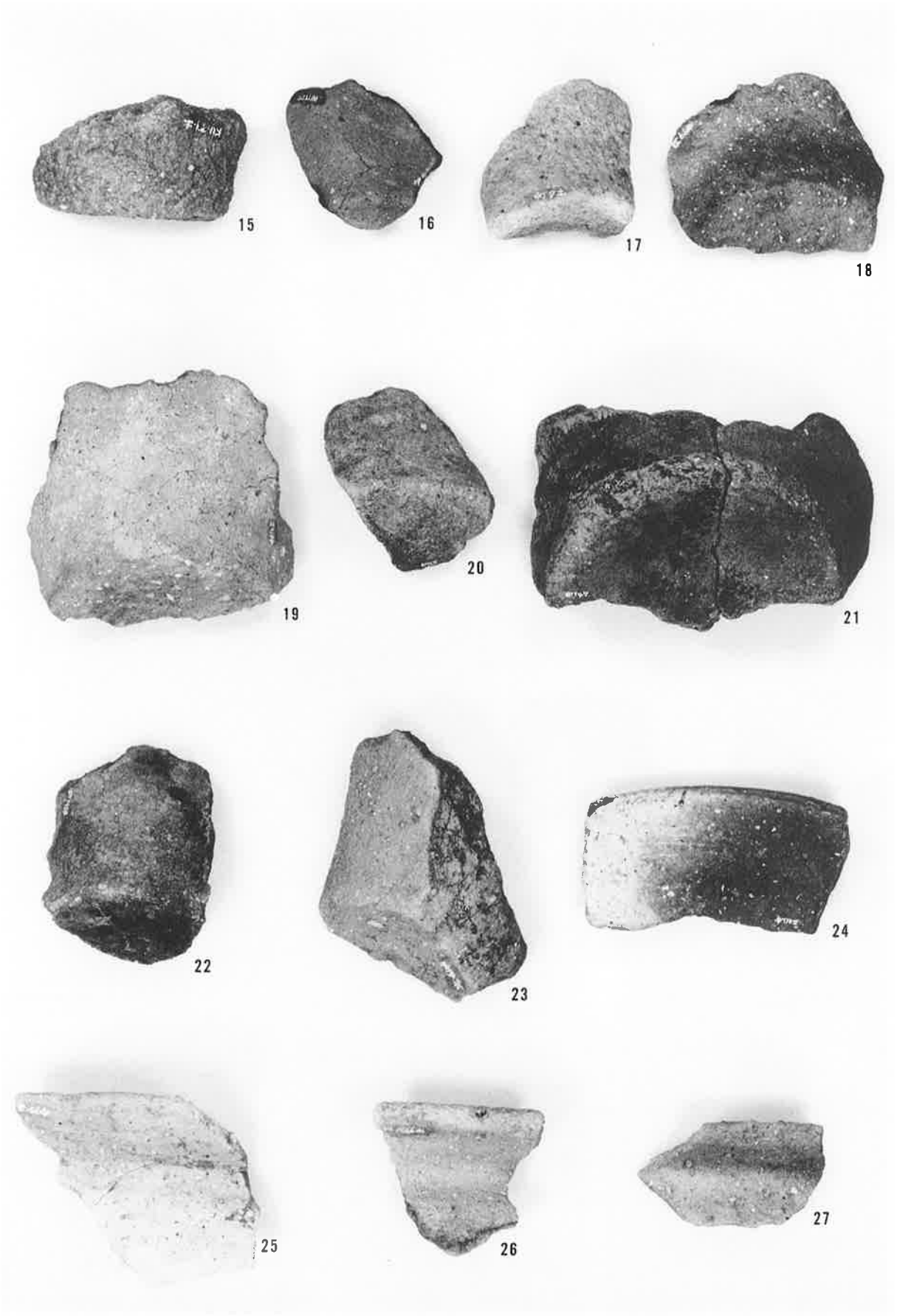


出土遺物 5

図版16

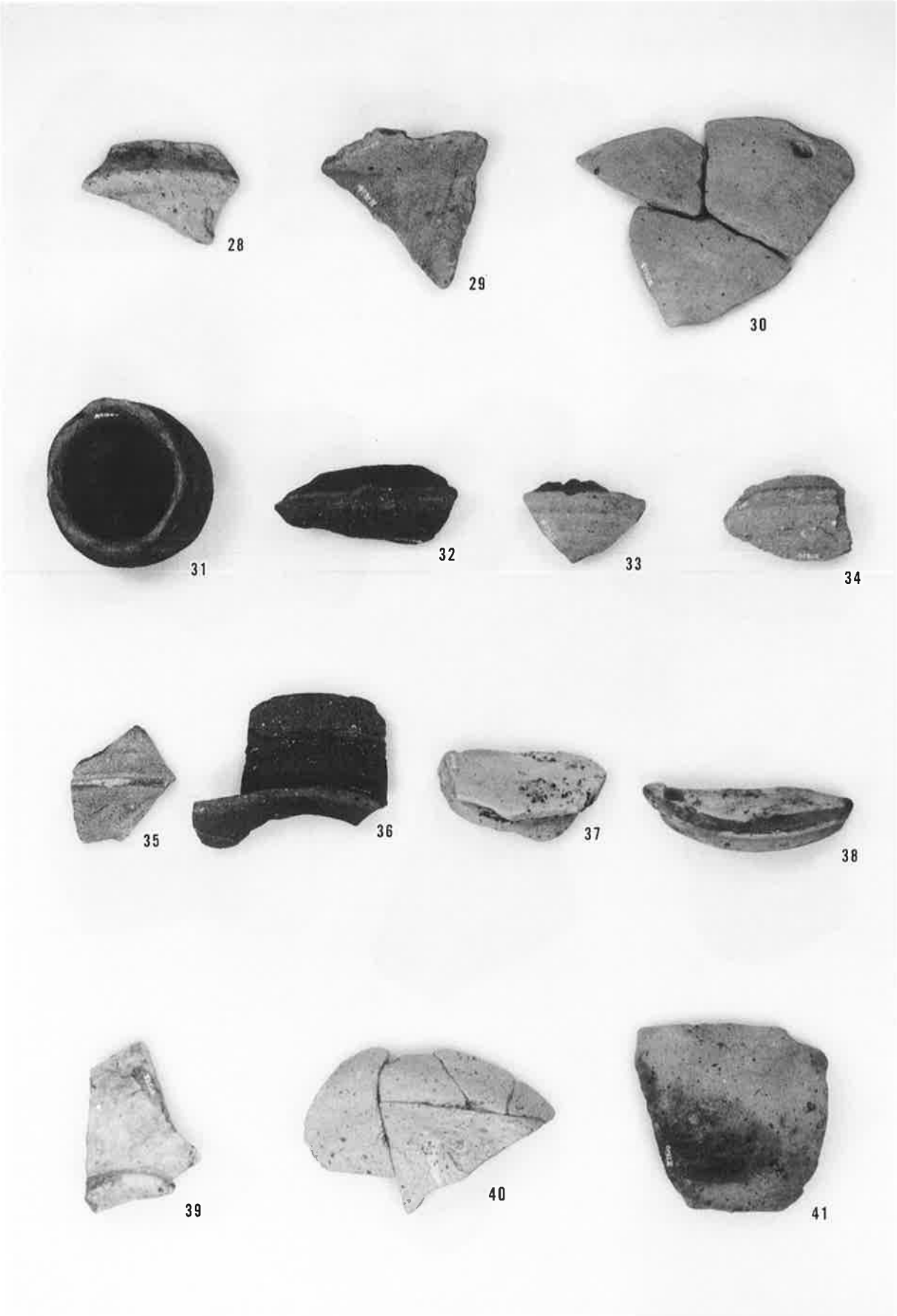


出土遺物 6

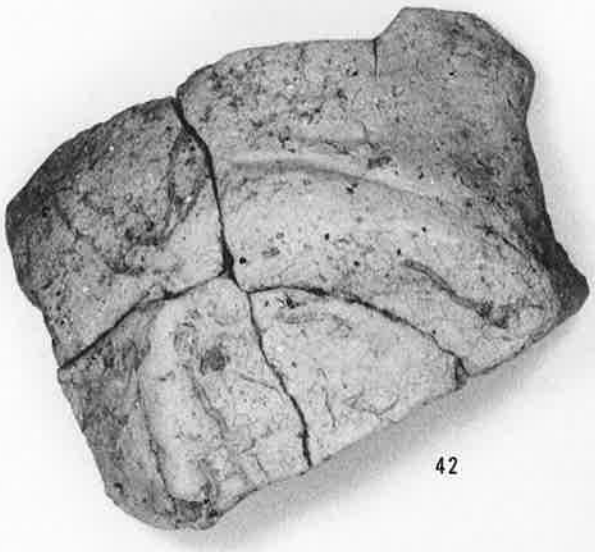


出土遺物 7

図版18

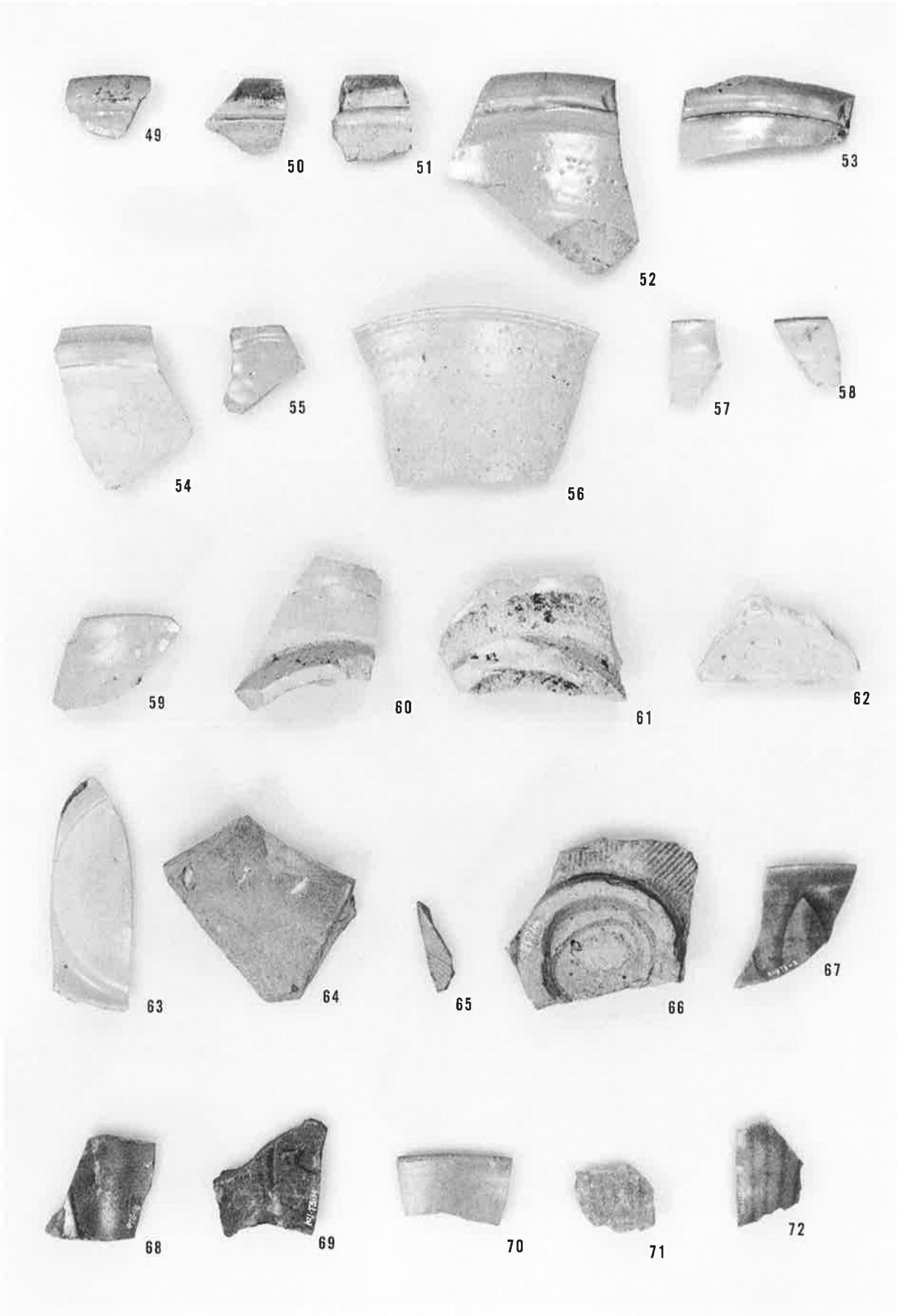


出土遺物 8

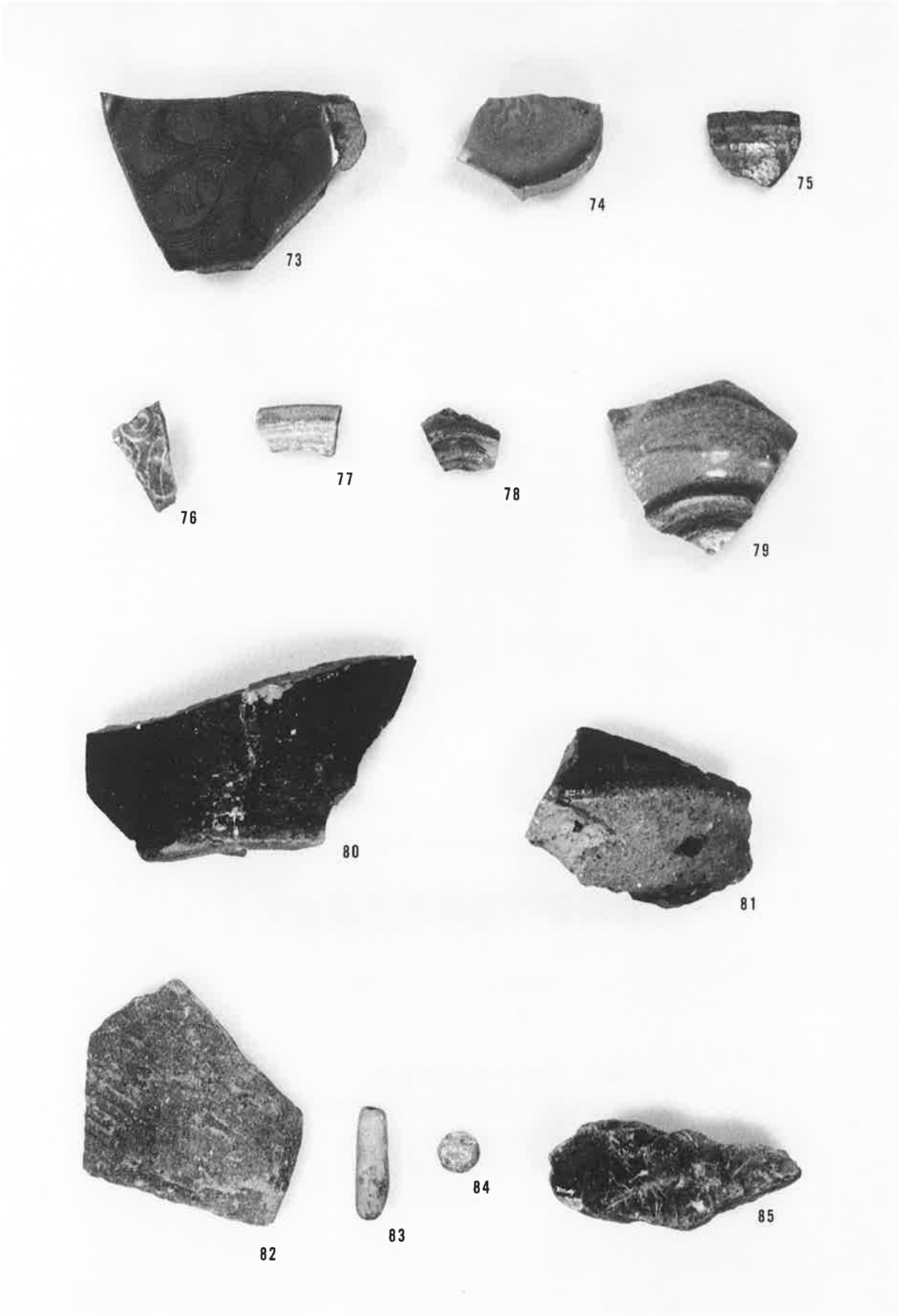


出土遺物 9

図版20



出土遺物10



出土遺物11

松浦市文化財調査報告書 第13集

松浦市内遺跡確認調査(2)

平成10年3月30日印刷
平成10年3月31日発行

発行　松浦市教育委員会
長崎県松浦市志佐町里免365番地

印刷　株式会社　昭和堂印刷
長崎県諫早市長野町1007－2